

秋田県文化財調査報告書第380集

遺跡詳細分布調査報告書

2004・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂（しろざか）遺跡出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

秋田県文化財調査報告書第380集

遺跡詳細分布調査報告書

2004・3

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されております。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望したり彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできない貴重なものであります。

一方、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となっております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎となるものです。

本報告書は、平成15年度に国庫補助事業として実施した県営ほ場整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業などの遺跡分布調査及び、遺跡確認調査の結果をまとめたものです。

報告書をまとめるにあたり、調査に御協力いただきました関係各機関に感謝申し上げますとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解下さいますよう、お願い申し上げます。

平成16年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清

例 言

- 1 本報告書は、平成15年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告書である。なお本書収録の報告は平成15年4月から同12月までの実施分であり、平成16年1月以降については来年度に報告する予定である。また、平成15年1月から3月に実施した遺跡分布調査の結果報告を平成14年度補足分として掲載した。
- 2 本報告書に収録の遺跡分布調査、遺跡確認調査は主に秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報告は、遺跡分布調査については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室が、遺跡確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。
- 3 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行の50,000分の1及び25,000分の1地形図と、日本道路公団、国土交通省、県建設交通部、県農林水産部、県教育庁が作成した平面図である。

目次

序	(14) 通常砂防事業 小松沢地区……………22
例言	(15) 通常砂防事業 麓沢地区……………23
目次	(16) 広域基幹河川改修事業 淀川……………23
第1章 はじめに……………1	(17) 県営ほ場整備事業 金岡地区……………24
第2章 実施要項……………1	(18) 県営ほ場整備事業 鯉川地区……………24
第1節 遺跡分布調査……………1	(19) 県営ほ場整備事業 井川東部地区……………25
第2節 遺跡確認調査……………4	(20) 県営ほ場整備事業 芝野東部地区……………26
第3章 調査の記録……………6	(21) 県営ほ場整備事業 女米木地区……………27
第1節 遺跡分布調査……………6	(22) 県営ほ場整備事業 種沢地区……………28
1 平成14年度補足分……………6	(23) 県営ほ場整備事業 新波地区……………28
(1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業	(24) 県営ほ場整備事業 四ッ屋東部地区……………29
本荘岩城間……………6	(25) 県営ほ場整備事業 白岩第一地区……………29
(2) 日本海沿岸東北自動車道建設事業	(26) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区……………30
大館小坂間……………6	(27) 県営ほ場整備事業 小種地区……………31
(3) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業……………7	(28) 県営ほ場整備事業 及水地区……………32
(4) 国道105号雪寒対策道路整備事業……………7	(29) 県営ほ場整備事業 堀板地区……………32
(5) 通常砂防事業 釜の上川地区……………8	(30) 県営ほ場整備事業 鍋倉地区……………33
(6) 県営ほ場整備事業 井川東部地区……………8	(31) ため池等整備事業 後福島地区……………33
(7) 県営ほ場整備事業 四ッ屋東部地区……………9	(32) 環境保全保安林整備事業
(8) 県営ほ場整備事業 八幡地区……………9	八乙女山地区……………34
(9) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区……………10	(33) 秋田県立中高一貫教育校建設事業
(10) 県営ほ場整備事業 堀板地区……………10	県北地区……………34
(11) 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区……………11	第2節 遺跡確認調査……………35
(12) 県営ほ場整備事業 横沢地区……………12	(1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業……………35
(13) 県営ほ場整備事業 鍋倉地区……………12	①田ノ沢山遺跡……………35
2 平成15年度分……………13	②谷地中遺跡……………43
(1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業	(2) 一般国道7号琴丘能代道路建設事業……………49
本荘岩城間……………13	①鴨巣館跡……………49
(2) 日本海沿岸東北自動車道建設事業	②鴨巣Ⅰ遺跡……………57
大館小坂間……………14	③鴨巣Ⅱ遺跡……………65
(3) 一般国道7号琴丘能代道路建設事業	④芹川館跡……………73
能代東二ッ井間……………16	⑤関口館跡……………81
(4) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業……………17	⑥烏野上岱遺跡……………88
(5) 大館西道路建設事業……………18	(3) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業……………97
(6) 一般国道46号角館バイパス建設事業……………18	①長橋上遺跡……………97
(7) 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業……………19	②湯水沢遺跡……………101
(8) 成瀬ダム建設事業……………19	(4) 主要地方道秋田御所野雄和線秋田空
(9) 一般県道根瀬尾去沢線緊急地方道路	港アクセス道路整備……………108
整備事業……………20	①虚空蔵大台滝遺跡……………108
(10) 一般県道揚の下岩脇線緊急地方道路	(5) 県営ほ場整備事業 里見地区……………117
整備事業……………20	①水尻遺跡……………117
(11) 一般県道金光寺能代線地方道道路改	(6) 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区……………124
築事業……………21	①払田柵跡……………124
(12) 国道101号国道道路改築事業	
羽立バイパス……………21	
(13) 都市計画街路秋田中央道路建設事業……………22	

第1章 はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成14年度の補足分は、日本海沿岸東北自動車道建設事業、仁賀保本荘道路建設事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡分布調査13件である。平成15年度は、日本海沿岸東北自動車道建設事業、琴丘能代道路建設事業、仁賀保本荘道路建設事業、大館西道路建設事業、国道県道改築事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡分布調査33件と、日本海沿岸東北自動車道建設事業、琴丘能代道路建設事業、仁賀保本荘道路建設事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡確認調査13件である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員、それに地元教育委員会職員の協力を得て、平成15年1月から平成15年12月にかけて実施したものである。

第2章 平成15年度遺跡分布調査・遺跡確認調査実施要項

第1節 遺跡分布調査

1 調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

2 調査の方法

- (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。
- (2) 確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。
- (3) 遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 藤澤昌 武藤祐浩 磯村亨 深浦真人

埋蔵文化財センター 大信田壽一（中仙町派遣）

5 市町村教育委員会担当者

長谷川潤一、土田房貴（本荘市）、斉藤千代繁、枝川元（大曲市）、木村将来（琴丘町）、齊藤英市郎、佐藤雄樹（八森町）、嶋田仁、佐藤潤一（山本町）、伊藤一男（井川町）、菊地義寿、金清祐（雄和町）、中田達雄、長山亜希子（角館町）、佐々木好実、草薙栄良（中仙町）、柳原法子（協和町）、佐々木繁雄（南外村）、山崎文幸（仙北町）、安達成年（太田町）、煙山光成、山形博康（千畑町）、松浦利明、齋藤弘（増田町）、加藤伸生（平鹿町）、藤田茂（山内村）、橋秀美（羽後町）

6 調査対象地域及び事業名

※平成14年度補足分（平成15年1月～3月）

事業者	事業名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果等
1	日本道路公団 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間	本荘市	3/20・31	試掘	事業地内で新発見の遺跡1箇所を確認。
2	日本道路公団 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間	大館市	3/28	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
3	国土交通省 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業	本荘市	3/13	試掘	事業地内で新発見の遺跡1箇所を確認。
4	建設交通部 国道105号雪寒施設道路整備事業	西木村	3/6	試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
5	建設交通部 通常砂防事業 釜の上川地区	八森町	1/22、2/26	試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
6	農林水産部 県営ほ場整備事業 井川東部地区	井川町	3/13	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
7	農林水産部 県営ほ場整備事業 四ッ屋東部地区	大曲市	3/11	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡2箇所を確認。
8	農林水産部 県営ほ場整備事業 八幡地区	中仙町	3/13	踏査・試掘	15年度事業地では遺跡は確認されなかった。
9	農林水産部 県営ほ場整備事業 中仙南部地区	中仙町	3/25・26	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡6箇所を確認。
10	農林水産部 県営ほ場整備事業 堀板地区	仙北町	3/18・19	試掘	事業地内で新発見の遺跡3箇所を確認。
11	農林水産部 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区	千畑町	2/27	試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
12	農林水産部 県営ほ場整備事業 横沢地区	太田町	3/26	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
13	農林水産部 県営ほ場整備事業 鍋倉地区	平鹿町	3/5	試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。

※平成15年度分（平成15年4月～12月）

1	日本道路公団 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間	本荘市	6/24、9/25、12/9・16・17	試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所、新発見の遺跡1箇所を確認。
2	日本道路公団 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間	大館市 小坂町	4/25、5/13、7/2・3、8/7、 9/19・30、10/28、11/26	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡2箇所を確認。
3	国土交通省 一般国道7号琴丘能代道路建設事業 能代東二ツ井間	能代市 二ツ井町	4/9・17、5/29・30、 6/3・4、10/10、12/5	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡4箇所、新発見の遺跡2箇所を確認。
4	国土交通省 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業	本荘市	5/13、12/9	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
5	国土交通省 大館西道路建設事業	大館市	11/26・29、12/4	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
6	国土交通省 一般国道46号角館バイパス建設事業	角館町	12/16	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
7	国土交通省 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	神岡町	12/16	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
8	国土交通省 成瀬ダム建設事業	東成瀬村	9/30	踏査・試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

第1節 遺跡分布調査

9	建設交通部	一般県道根瀬尾去沢線緊急地方道路整備事業	鹿角市	9/25	踏査	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
10	建設交通部	一般県道揚の下岩脇線緊急地方道路整備事業	鷹巣町	6/16	試掘	事業地内で新発見の遺跡1箇所を確認。
11	建設交通部	一般県道金光寺能代線地方道道路改築事業	能代市	6/13	試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
12	建設交通部	国道101号国道道路改築事業 羽立バイパス	男鹿市	7/4、9/19、10/9・17	試掘	事業地内で周知の遺跡2箇所を確認。
13	建設交通部	都市計画街路秋田中央道路建設事業	秋田市	11/12・13・18	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
14	建設交通部	通常砂防事業 小松沢地区	山内村	9/2	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
15	建設交通部	通常砂防事業 麓沢地区	羽後町	11/12、12/1	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
16	建設交通部	広域基幹河川改修事業 淀川	協和町	10/29	踏査	事業地内で踏査を行った。
17	農林水産部	県営ほ場整備事業 金岡地区	山本町	10/7・21	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
18	農林水産部	県営ほ場整備事業 鯉川地区	琴丘町	7/1	踏査・試掘	15年度事業地では遺跡は確認されなかった。
19	農林水産部	県営ほ場整備事業 井川東部地区	井川町	12/22	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
20	農林水産部	県営ほ場整備事業 芝野東部地区	雄和町	5/16・21	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡1箇所を確認。
21	農林水産部	県営ほ場整備事業 女木木地区	雄和町	5/20、6/3、12/11	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡5箇所を確認。
22	農林水産部	県営ほ場整備事業 種沢地区	雄和町	5/21、11/20・21	踏査・試掘	15、16年度事業地では遺跡は確認されなかった。
23	農林水産部	県営ほ場整備事業 新波地区	雄和町	5/26、12/12	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡2箇所を確認。
24	農林水産部	県営ほ場整備事業 四ッ屋東部地区	大曲市	4/9	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡1箇所を確認。
25	農林水産部	県営ほ場整備事業 白岩第一地区	角館町	6/26	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡1箇所を確認。
26	農林水産部	県営補助整備事業 中仙南部地区	中仙町	4/15・22・23、12/3・4・5	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所、新発見の遺跡10箇所を確認。
27	農林水産部	県営ほ場整備事業 小種地区	協和町	5/28	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡2箇所を確認。
28	農林水産部	県営ほ場整備事業 及水地区	南外村	6/10	試掘	事業地内で新発見の遺跡1箇所を確認。
29	農林水産部	県営ほ場整備事業 堀板地区	仙北町	4/10・24	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡2箇所を確認。
30	農林水産部	県営ほ場整備事業 鍋倉地区	平鹿町	10/30・31、11/13、12/24	試掘	事業地内で新発見の遺跡2箇所を確認。
31	農林水産部	ため池等整備事業 後福島地区	羽後町	5/1・27	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所を確認。
32	農林水産部	環境保全保安林整備事業 八乙女山地区	中仙町	12/4	踏査	事業地内で踏査を行った。
33	県教育庁	秋田県立中高一貫教育校建設事業 県北地区	大館市	6/16	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

第2節 遺跡確認調査

1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために当該地域での遺物の表面採集及び小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2 調査の方法

- (1) 地形を考慮したトレンチ及び試掘坑を設定して行う。また、遺跡等が確認された場合、出来る限り面的に調査範囲を広げてその確認に努める。
- (2) 確認された遺構・遺物、遺物包含層、堆積土の厚さなどは、実測図などにより記録する。また、遺跡の全景と調査状況、遺構・遺物の確認状況などは写真撮影する。
- (3) 使用する地形図は開発部局で作成した最大縮尺の図面とする。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター

副主幹 小林 克

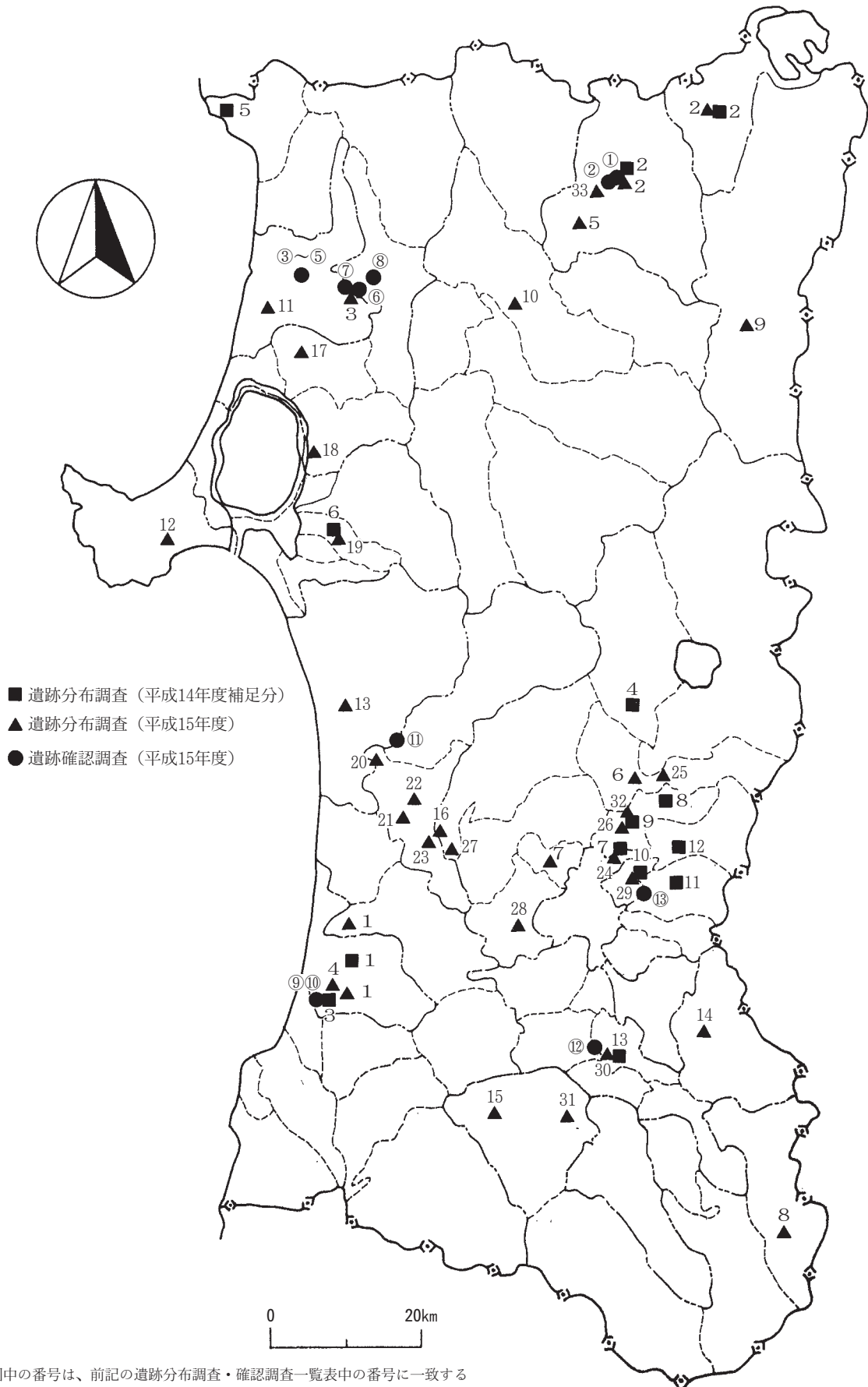
文化財主査 栗澤光男

学芸主事 赤上秀人 伊藤和美 伊藤伸吾 河田弘幸 菊池 晋 佐藤 信 高橋直樹
高橋 学 山本起嗣

調査・研究員 打矢泰之 遠藤 元 片岡稔彦 菊地 亮 小西修平 高安直美 田村瑞保
千葉史宏 戸嶋正明 成田雄毅 深沢恵里子 堀井帝仁 本間與和

5 調査対象遺跡及び事業名

No.	事業名	遺跡名(所在地)	調査期間	調査担当者
①	日本海沿岸東北自動車道建設事業	田ノ沢山遺跡(大館市)	平成15年10月14日～11月4日	山本・成田
②		谷地中遺跡(大館市)	平成15年10月14日～11月4日	山本・成田
③	一般国道7号琴丘能代道路建設事業	鴨巣館跡(能代市)	平成15年5月20日～6月6日	佐藤・菊地(亮)・堀井
④		鴨巣Ⅰ遺跡(能代市)	平成15年7月1日～7月23日	佐藤・菊地(亮)・堀井
⑤		鴨巣Ⅱ遺跡(能代市)	平成15年7月22日～9月1日	佐藤・菊地(亮)・堀井
⑥		芹川館跡(二ツ井町)	平成15年11月17日～12月5日	菊池(晋)・片岡・菊地(亮)・堀井
⑦		関口館跡(二ツ井町)	平成15年11月4日～11月17日	河田・戸嶋
⑧		烏野上岱遺跡(二ツ井町)	平成15年9月16日～10月24日	小林・遠藤・田村
⑨	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業	長橋上遺跡(本荘市)	平成15年9月18日～10月9日	伊藤(伸)・小西・高安
⑩		湯水沢遺跡(本荘市)	平成15年10月9日～10月31日	伊藤(伸)・五十嵐・赤上・小西・高安・本間・深沢
⑪	主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業	虚空蔵大台滝遺跡(河辺町)	平成15年8月18日～9月5日	小林・遠藤・田村
⑫	県営ほ場整備事業 里見地区	水尻遺跡(雄物川町・平鹿町)	平成15年12月8日～12月25日	栗澤・高橋(直)・伊藤(和)・千葉・打矢
⑬	県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区	払田柵跡(仙北町・千畑町)	平成15年11月25日～12月12日	高橋(学)



第1図 遺跡分布調査・確認調査位置図

第3章 調査の記録

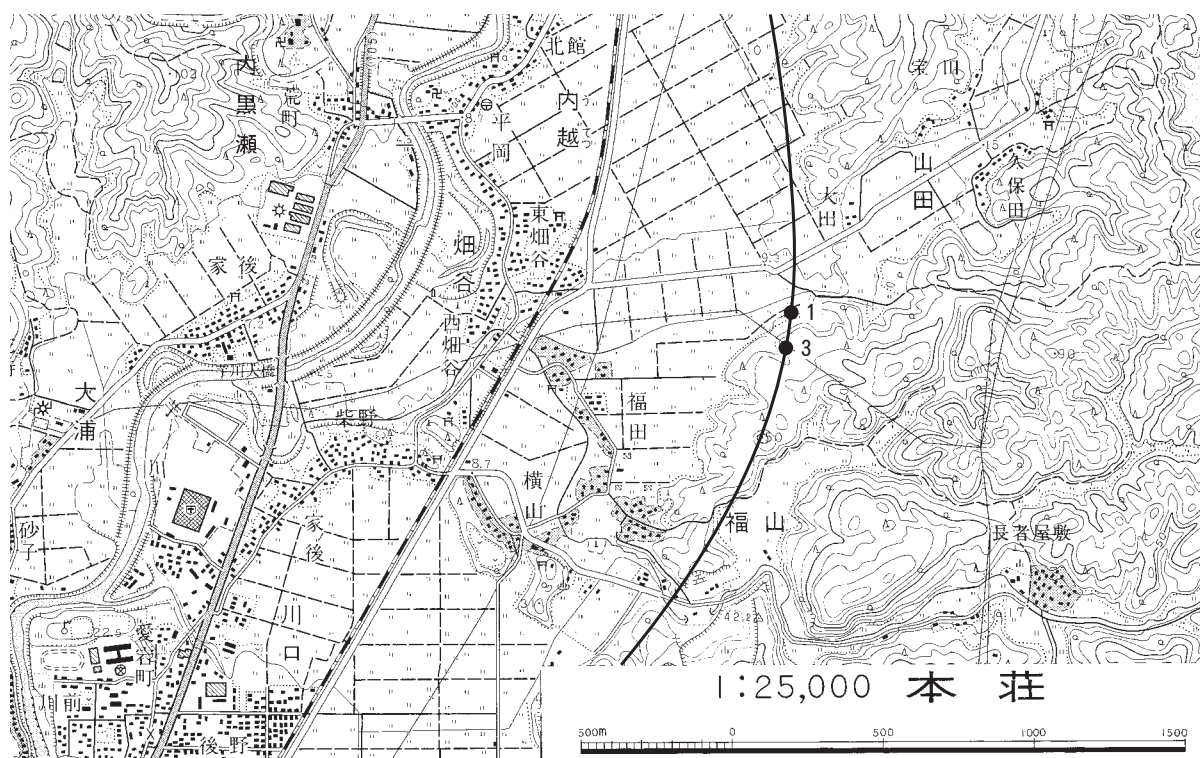
第1節 遺跡分布調査

1 平成14年度補足分

(1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間

岩城町の岩城 I C から本荘市の本荘 I C までの 21.3km のうち、本荘市の一部箇所について試掘した。調査の結果、新発見の遺跡 1 箇所を事業予定地に確認した。芋種坂Ⅲ遺跡は鉄滓の出土により遺跡を確認し、試掘により縄文時代の土坑 1 基、時期不明の土坑 1 基、柱穴 3 基を検出した。このため周辺の地形を勘案し、今後の遺構検出が予想される範囲を限定し、平成 15 年度に本発掘調査を実施することとした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	芋種坂Ⅲ遺跡	本荘市福山字芋種坂	縄文	原野	縄文土器片・鉄滓	新発見の遺跡



第2図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間 遺跡分布調査位置図 (1)

(2) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間 (位置図は第15図)

日本海沿岸東北自動車道大館小坂間建設に係る本線部分について試掘した。また、小坂 J C T 付近の試掘予定地を踏査し、現地の現況を確認した。

調査の結果、遺構・遺物ともに検出されず、遺跡を確認するには至らなかった。なお、残る区間については、用地買収の進捗にあわせて引き続き試掘が必要である。

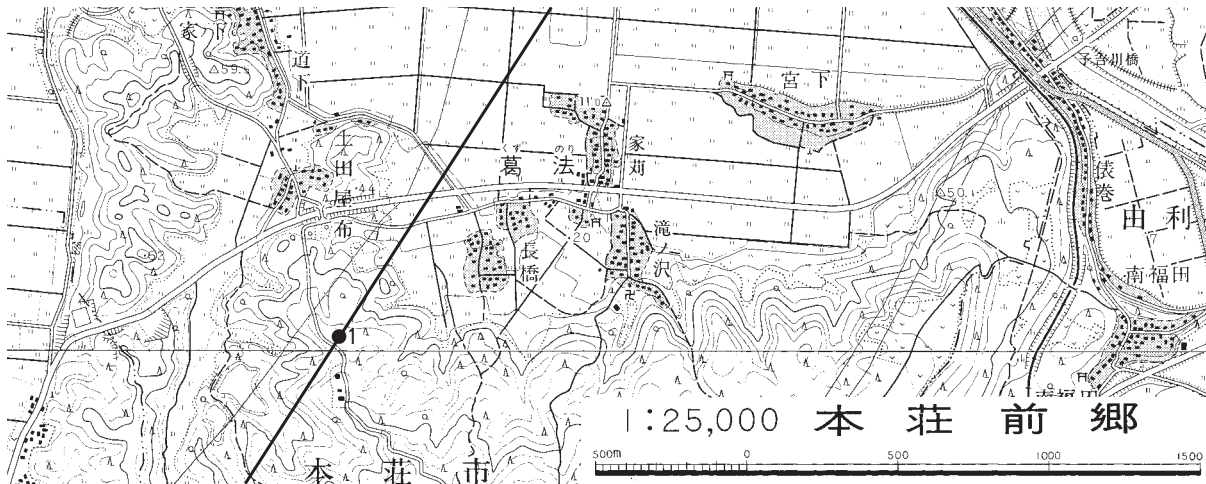
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大館市商人留字野崎	..	水田	なし	

(3) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業

本荘市の仁賀保本荘道路建設予定地のうち、主要地方道本荘西目線の横断部から葛法地区浄水場までの0.8kmの山林、水田部分について試掘した。

調査の結果、事業予定地で新発見の遺跡1箇所を確認した。この遺跡については平成15年度内に確認調査を行った。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	湯水沢遺跡	本荘市葛法字湯水沢	・・	山林	竪穴住居跡・土師器・鉄滓	新発見の遺跡



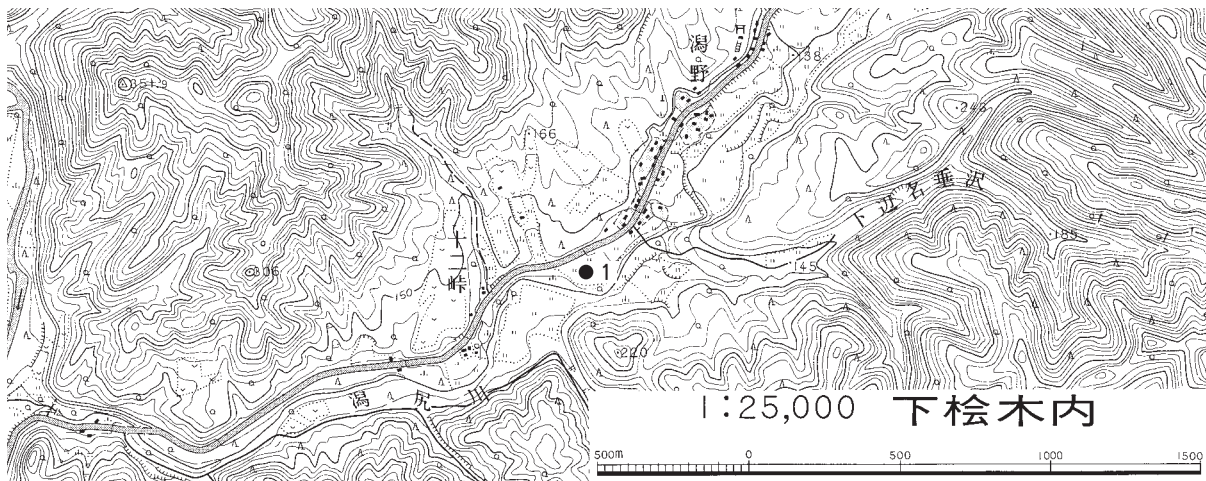
第3図 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(4) 国道105号雪寒対策道路整備事業

西木村十二峠地区で計画されている事業予定地について試掘をした。

調査の結果、周知の遺跡であるサマの淵遺跡が、事業予定地にかかることを確認した。ただし、試掘地点において遺構の検出がなく遺物も希薄であることから、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	サマの淵遺跡	西木村西明寺字田ノ沢	縄文	山林・水田	縄文土器片	周知の遺跡



第4図 国道105号雪寒対策道路整備事業 遺跡分布調査位置図

(5) 通常砂防事業 釜の上川地区

八森町釜の上川地区の砂防ダム建設工事である。これまでの調査により、周知の遺跡1箇所が事業予定地に広がることを確認しており、施工予定箇所の遺構の有無等を確認するために試掘した。

調査の結果、盛土造成された現地表面下に縄文土器片の散布と土坑1基を検出したが、遺構密度が低いこと、施工による掘削範囲が狭いことから、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	釜の上遺跡	八森町字釜の上	縄文	山林	縄文土器片	周知の遺跡



第5図 通常砂防事業 釜の上川地区 遺跡分布調査位置図

(6) 県営ほ場整備事業 井川東部地区

井川町東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積119ha、平成18年度まで9箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について試掘した。

調査対象地は、周知されている縄手内遺跡の隣接地にあたるが、調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	井川町八田大倉字深間	..	水田	なし	
2	井川町保野子字高田	..	水田	なし	
3	縄手内遺跡	井川町八田大倉字縄手内	縄文・古代	道路・水田	周知の遺跡



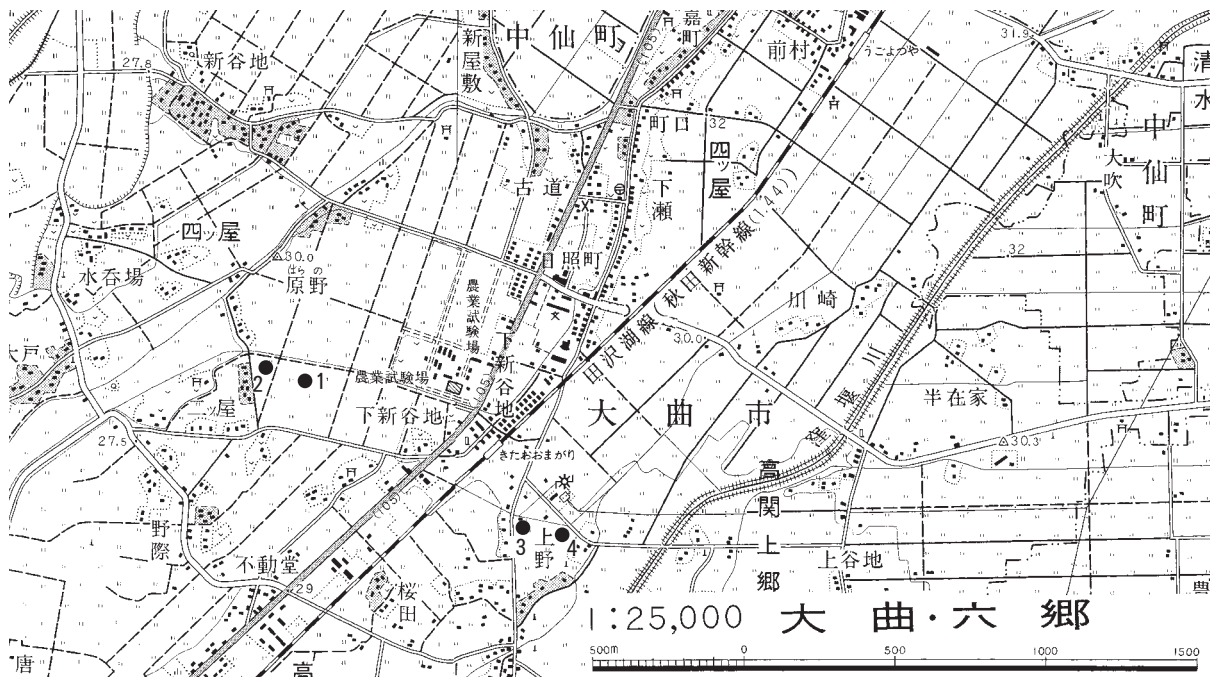
第6図 県営ほ場整備事業 井川東部地区 遺跡分布調査位置図

(7) 県営ほ場整備事業 四ツ屋東部地区

大曲市四ツ屋東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積253ha、平成16年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡2箇所を事業予定地に確認した。下新谷地遺跡は須恵器片の出土により確認したものであるが、遺構は確認できず、施工計画も遺構検出の可能性のある深さに至らないことから、工事施工の対応を工事立会とした。諸又遺跡は、耕作土中の縄文土器片、土師器片の出土により確認した。工事施工の対応については、施工方法を含めて原因者と協議中であるが、遺構の有無確認も含め再試掘を予定している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	下新谷地遺跡	大曲市四ツ屋字下新谷地	平安	水田	須恵器片	新発見の遺跡
2	大曲市四ツ屋字下新谷地	..	水田	なし	
3	諸又遺跡	大曲市高関字諸赤	縄文・平安	水田・畑	縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡
4	大曲市高関字諸赤	..	水田	なし	



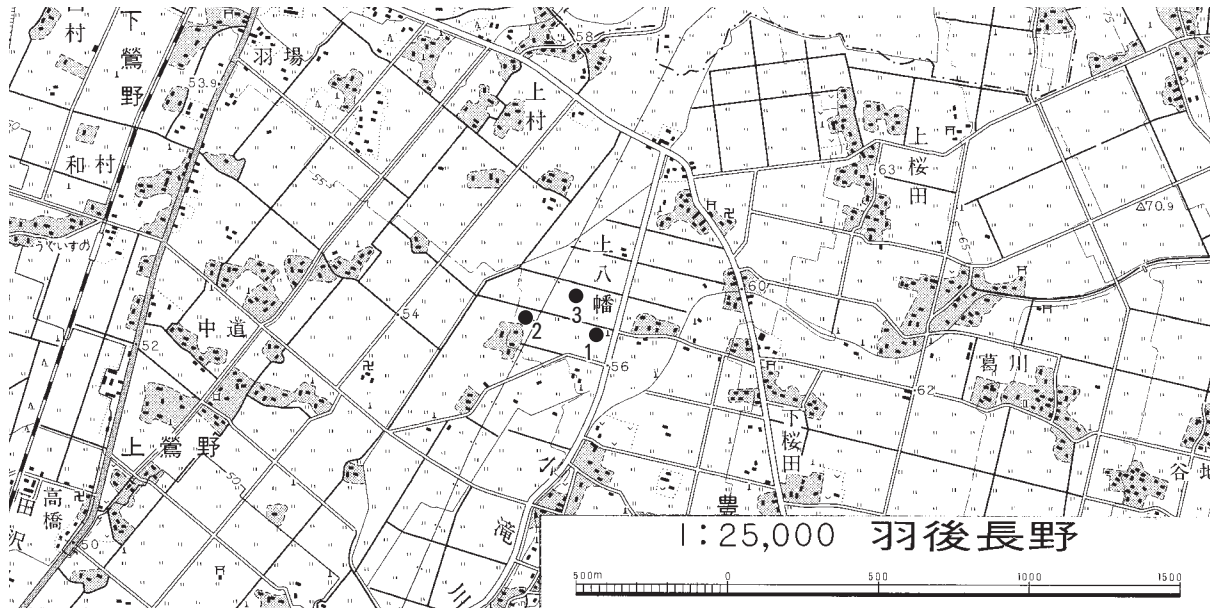
第7図 県営ほ場整備事業 四ツ屋東部地区 遺跡分布調査位置図

(8) 県営ほ場整備事業 八幡地区

中仙町八幡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積48ha、平成16年度まで5箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	中仙町豊川字八幡	..	水田	なし	
2	中仙町豊川字八幡	..	水田	なし	
3	中仙町豊川字八幡	..	水田	なし	



第8図 県営ほ場整備事業 八幡地区 遺跡分布調査位置図

(9) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区 (位置図は第40図)

中仙町中仙南部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積481ha、平成17年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡6箇所を事業予定地に確認した。鑓見内七曲遺跡、板屋Ⅰ遺跡、板屋Ⅱ遺跡、矢野遺跡では土師器片の出土、北谷地遺跡、北大吹遺跡では土師器片、須恵器片の出土によりそれぞれの遺跡を確認した。工事施工の対応については、今後追加試掘による遺構の有無の確認を行った後、施工方法を含めて原因者と協議する予定である。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

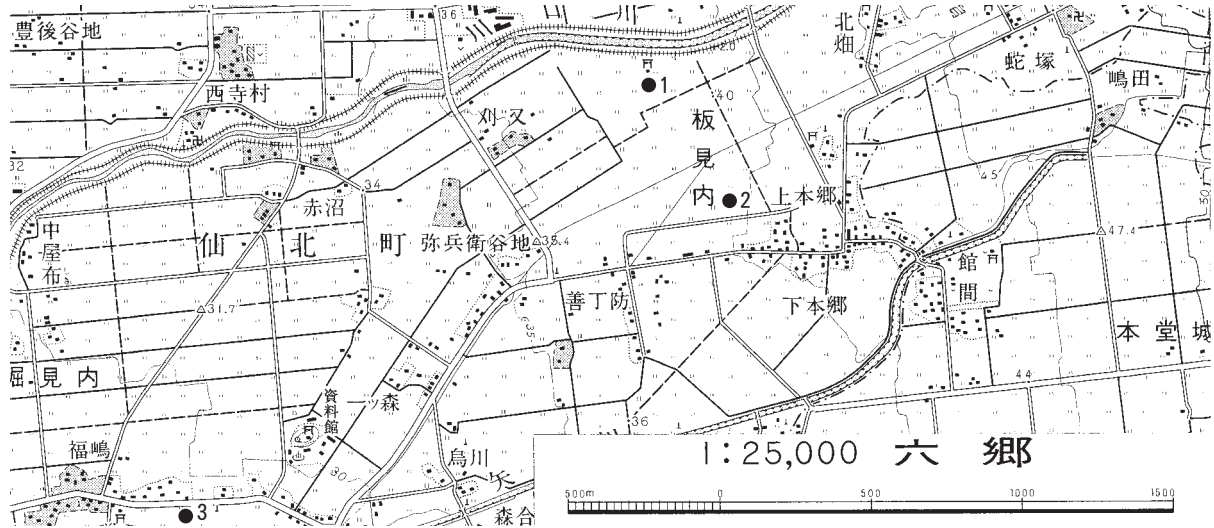
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	鑓見内七曲遺跡	中仙町鑓見内字七曲	平安	水田	土師器片・溝跡	新発見の遺跡
2	北谷地遺跡	中仙町鑓見内字北谷地	平安	水田	土師器片・柱穴	新発見の遺跡
3	板屋Ⅰ遺跡	中仙町鑓見内字板屋	縄文・平安	水田	石器片・土師器片	新発見の遺跡
4	板屋Ⅱ遺跡	中仙町鑓見内字板屋	平安	水田	土師器片・溝跡	新発見の遺跡
5	矢野遺跡	中仙町鑓見内字矢野	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
6	北大吹遺跡	中仙町清水字北大吹	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡

(10) 県営ほ場整備事業 堀板地区 (位置図は第9図)

仙北町堀板地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積261ha、平成18年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡3箇所を事業予定地に確認した。観音堂遺跡では土師器片、八幡堂遺跡では陶器片、一ツ森Ⅱ遺跡では須恵器片の出土によりそれぞれの遺跡を確認した。一ツ森Ⅱ遺跡では、基盤層が安定せず、遺物包含層も明瞭でないことから、工事施工の対応について工事立会とした。また、観音堂遺跡及び八幡堂遺跡の対応は、今後追加試掘による遺構の有無の確認を行い、施工方法を含めて原因者と協議する予定である。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	観音堂遺跡	仙北町板見内字観音堂	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
2	八幡堂遺跡	仙北町板見内字八幡堂	平安・中世	水田	土師器片・陶器片	新発見の遺跡
3	一ツ森Ⅱ遺跡	仙北町堀見内字一ツ森	平安	水田	須恵器片	新発見の遺跡



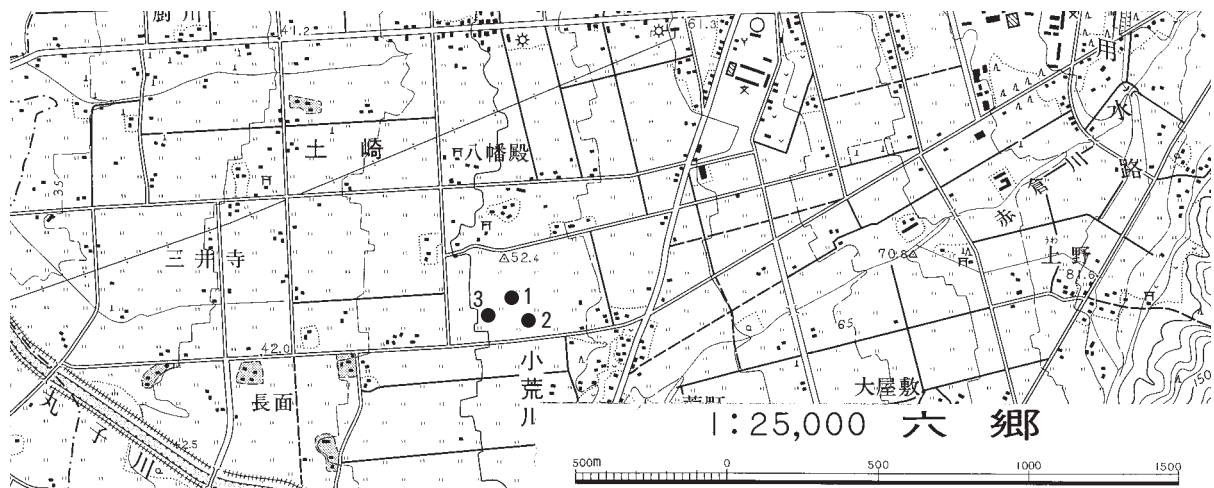
第9図 県営ほ場整備事業 堀板地区 遺跡分布調査位置図

(11) 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区

千畑町土崎小荒川地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積329ha、平成16年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地の一部について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。上館遺跡では縄文土器片の散布を確認したが、遺構は確認できなかった。このため工事施工の対応は、工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	上館遺跡	千畑町土崎字上館	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡
2	千畑町土崎字上館	..	水田	なし	
3	千畑町土崎字上館	..	水田	なし	



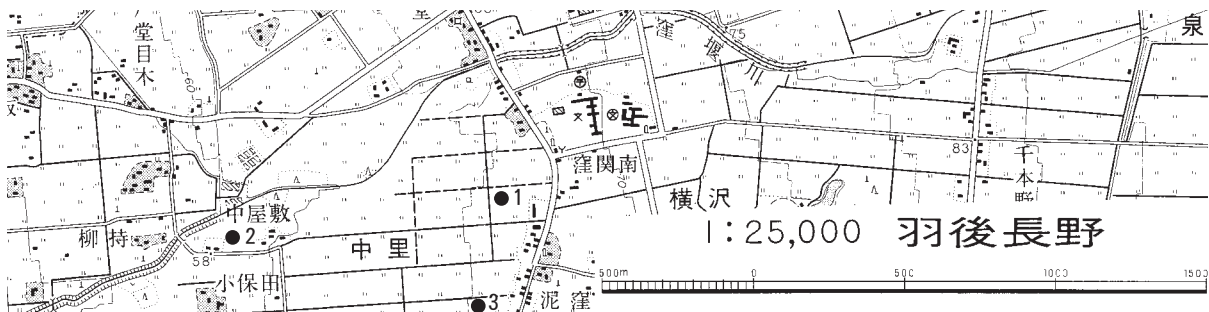
第10図 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区 遺跡分布調査位置図

(12) 県営ほ場整備事業 横沢地区

太田町横沢地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積92ha、平成16年度まで6箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について試掘した。

調査対象地は、周知されている堀の内遺跡の隣接地にあたるが、調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	太田町横沢字道北	..	水田	なし	
2	太田町中里字中屋敷	..	水田	なし	
3	堀の内遺跡	太田町横沢字堀の内	縄文	水田	周知の遺跡



第11図 県営ほ場整備事業 横沢地区 遺跡分布調査位置図

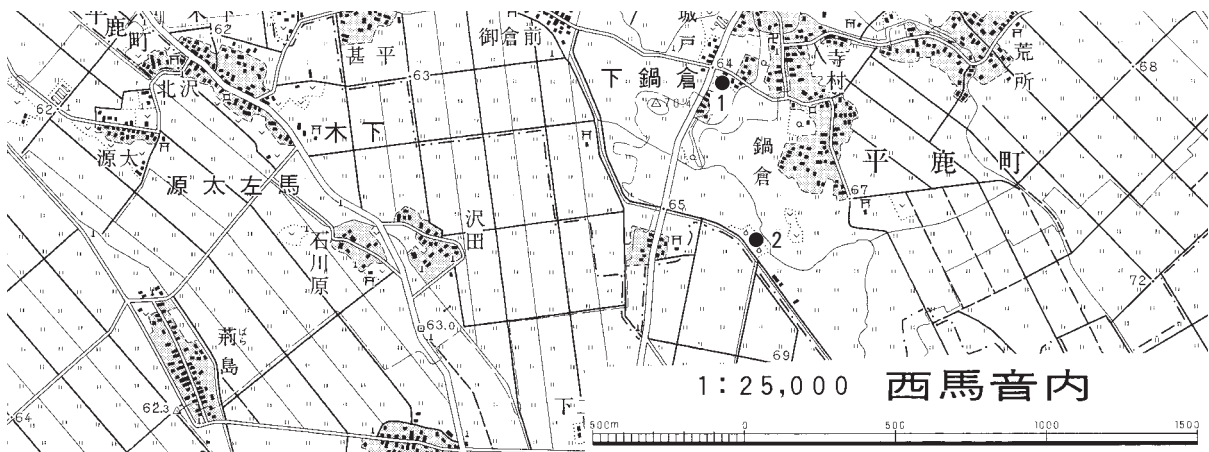
(13) 県営ほ場整備事業 鍋倉地区

平鹿町鍋倉地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積56ha、平成17年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地の水路部分を中心に試掘した。

調査対象地は、周知されている堀切遺跡で、また境沢田遺跡の近接地にあたる。

調査の結果、陶磁器片2点が出土したが、遺構は確認できなかった。面工事の施工については、原因者と協議し、施工計画の変更により工事立会の対応としており、水路工事についても明瞭な遺構が確認されていないことから工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	堀切遺跡	平鹿町下鍋倉字堀切	縄文	水田	陶磁器片	周知の遺跡
2	境沢田遺跡	平鹿町下鍋倉字境沢田	縄文	水田・畑地	周知の遺跡



第12図 県営ほ場整備事業 鍋倉地区 遺跡分布調査位置図

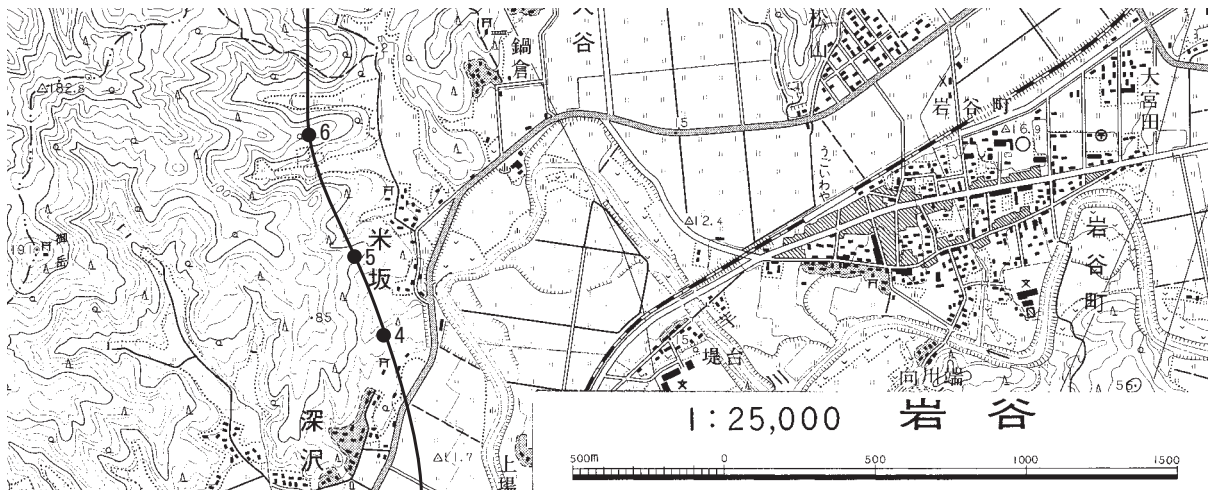
2 平成15年度分

(1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間 (3の位置図は第2図)

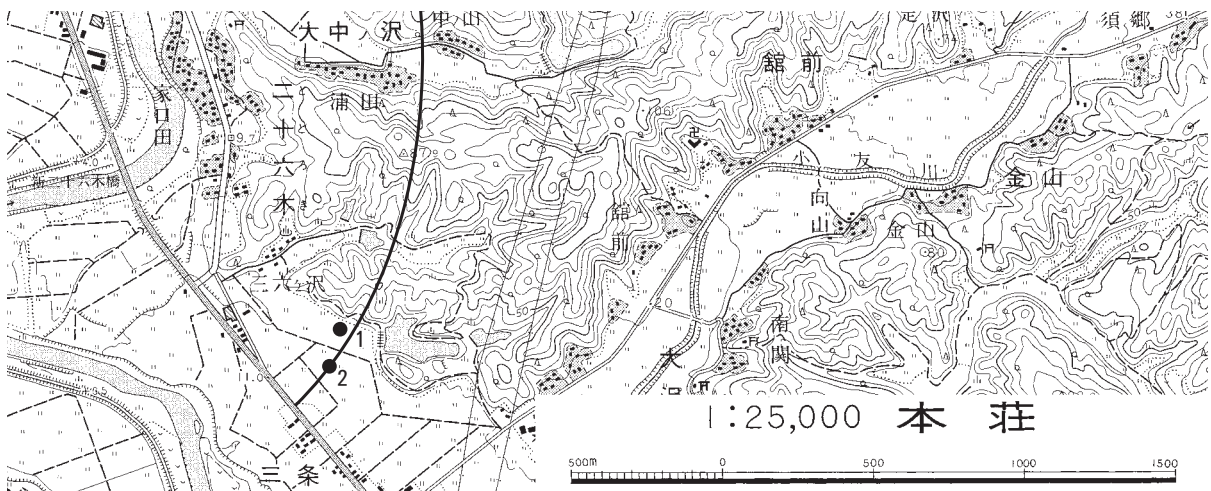
岩城町の岩城 I Cから本荘市の本荘 I Cまでの21.3kmのうち、大内町、本荘市の一部箇所について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。根木田遺跡は土師器片、須恵器片の出土により確認したが、本来の遺物包含層が遺存せず、遺構の確認もできなかったことから工事施工の対応について、工事立会とした。また、事業予定地に確認していた芋種坂Ⅱ遺跡についても試掘を行ったが遺構、遺物は確認できず、平坦面の少ない地形を勘案し、工事施工の対応について工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	根木田遺跡	本荘市二十六木	平安	水田	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡
2	本荘市二十六木	..	水田	なし	
3	芋種坂Ⅱ遺跡	本荘市福山字芋種坂	平安	山林	なし	周知の遺跡
4	大内町米坂	..	山林	なし	
5	大内町米坂	..	山林	なし	
6	大内町米坂	..	山林	なし	



第13図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間 遺跡分布調査位置図 (2)



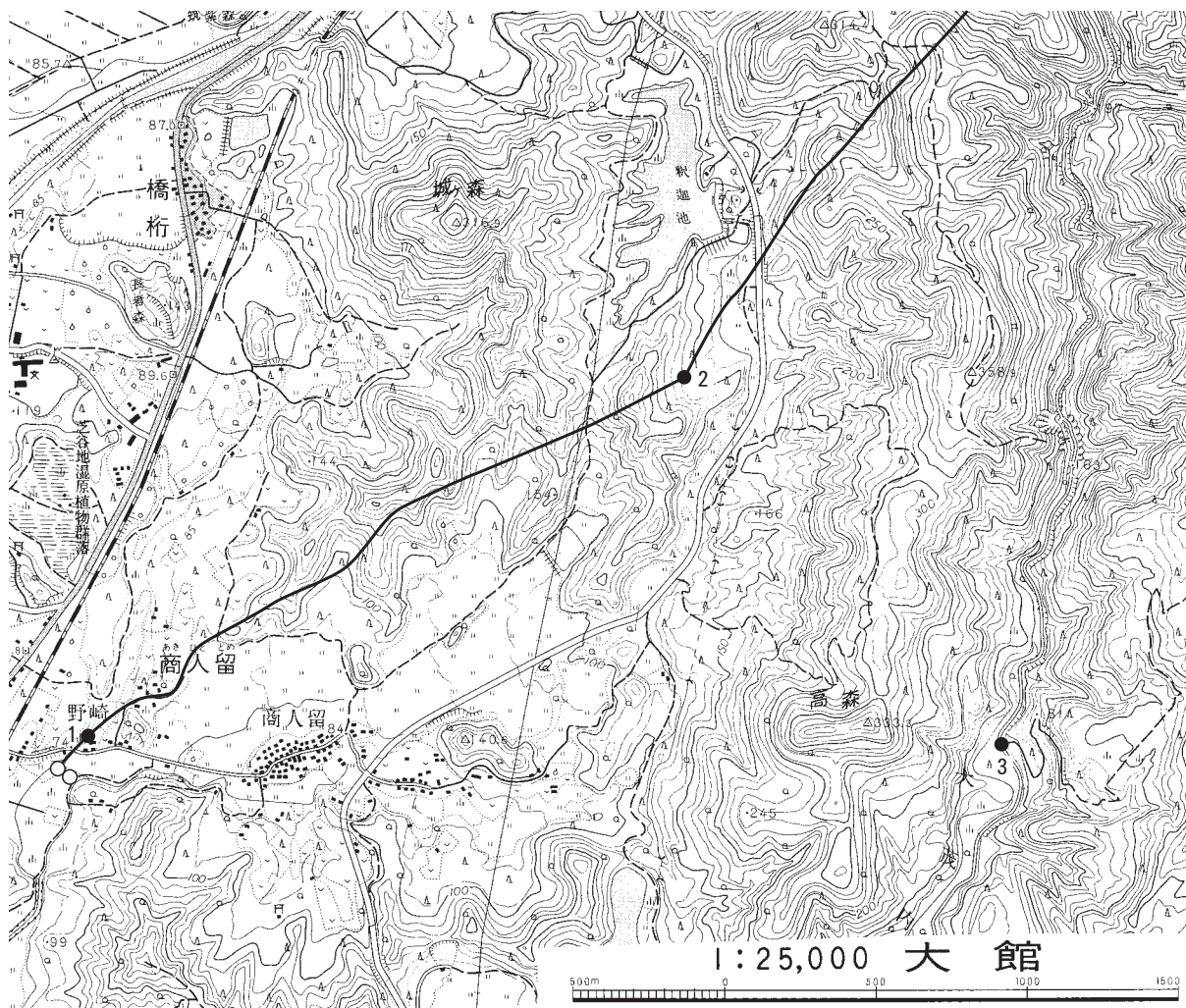
第14図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間 遺跡分布調査位置図 (3)

(2) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間

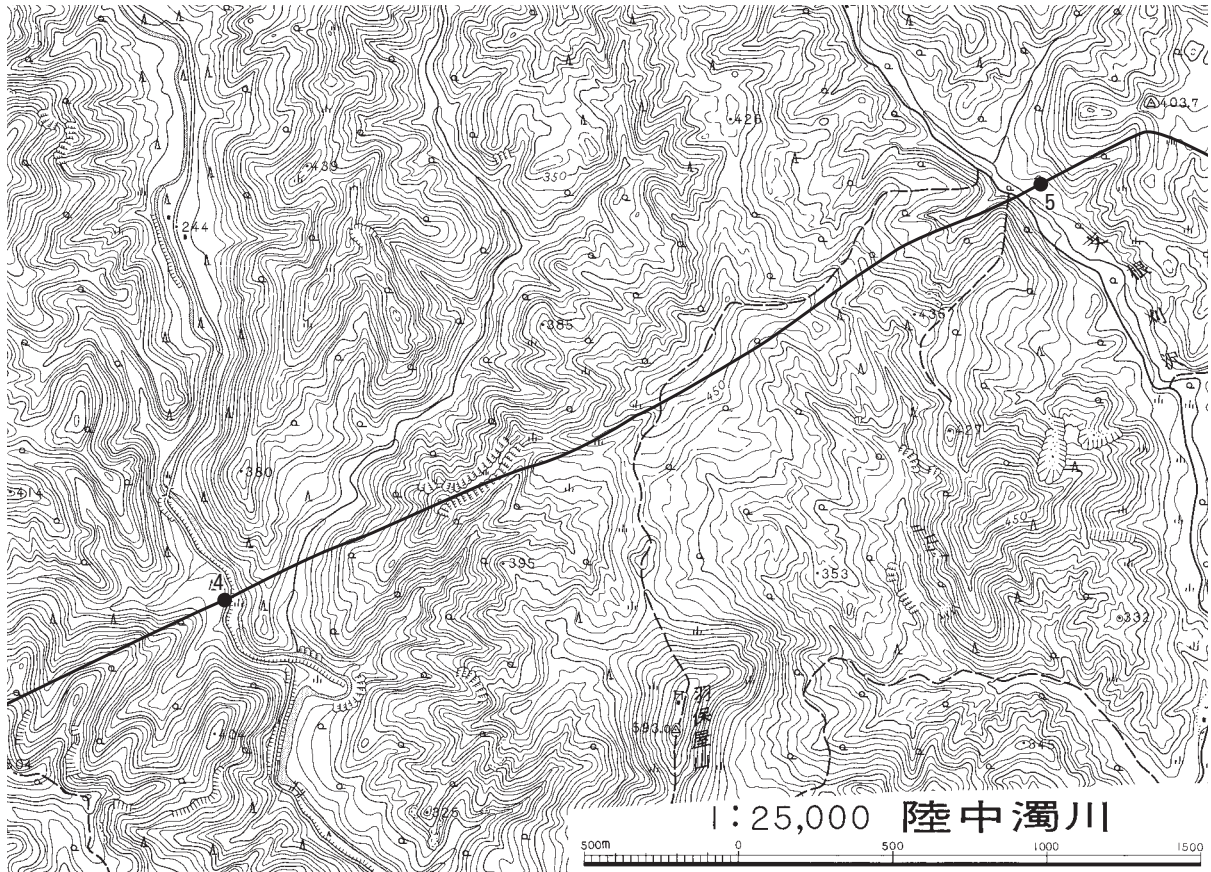
日本海沿岸東北自動車道大館小坂間建設に係る本線部分及び大茂内沢林道、長木沢林道、支根刈沢林道及び小坂町町道部分の工事用道路について踏査し試掘した。

調査した結果、本線部分に新発見の遺跡1箇所、小坂町新田地内の町道部分に新発見の遺跡1箇所を確認した。田ノ沢山遺跡は、縄文土器片の出土により確認したもので、平成15年度内に確認調査を実施した。新田遺跡は、縄文土器片の出土により確認した。工事施工の対応については、施工計画が仮設的な待避所設置の盛土工事であることから工事立会とした。

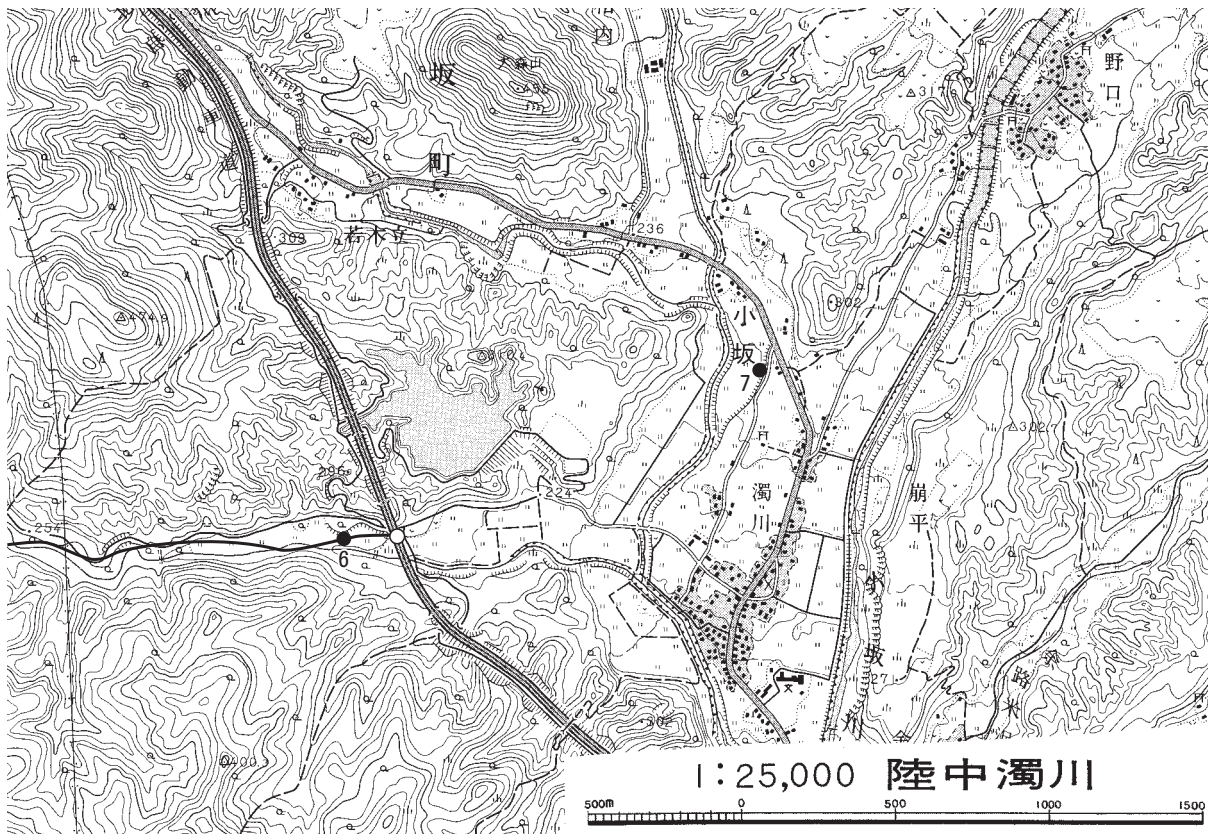
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
2	田ノ沢山遺跡	大館市商人留字田ノ沢	縄文	山林	縄文土器片	新発見の遺跡
3	大館市大茂内字大茂内沢	..	山林	なし	
4	大館市雪沢字長木沢	..	山林	なし	
5	大館市雪沢字支根刈沢	..	山林	なし	
6	小坂町小坂字新遠部	..	山林・水田	なし	
7	新田遺跡	小坂町小坂字新田	縄文	水田	縄文土器片	新発見の遺跡



第15図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間 遺跡分布調査位置図 (1)



第16図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間 遺跡分布調査位置図 (2)



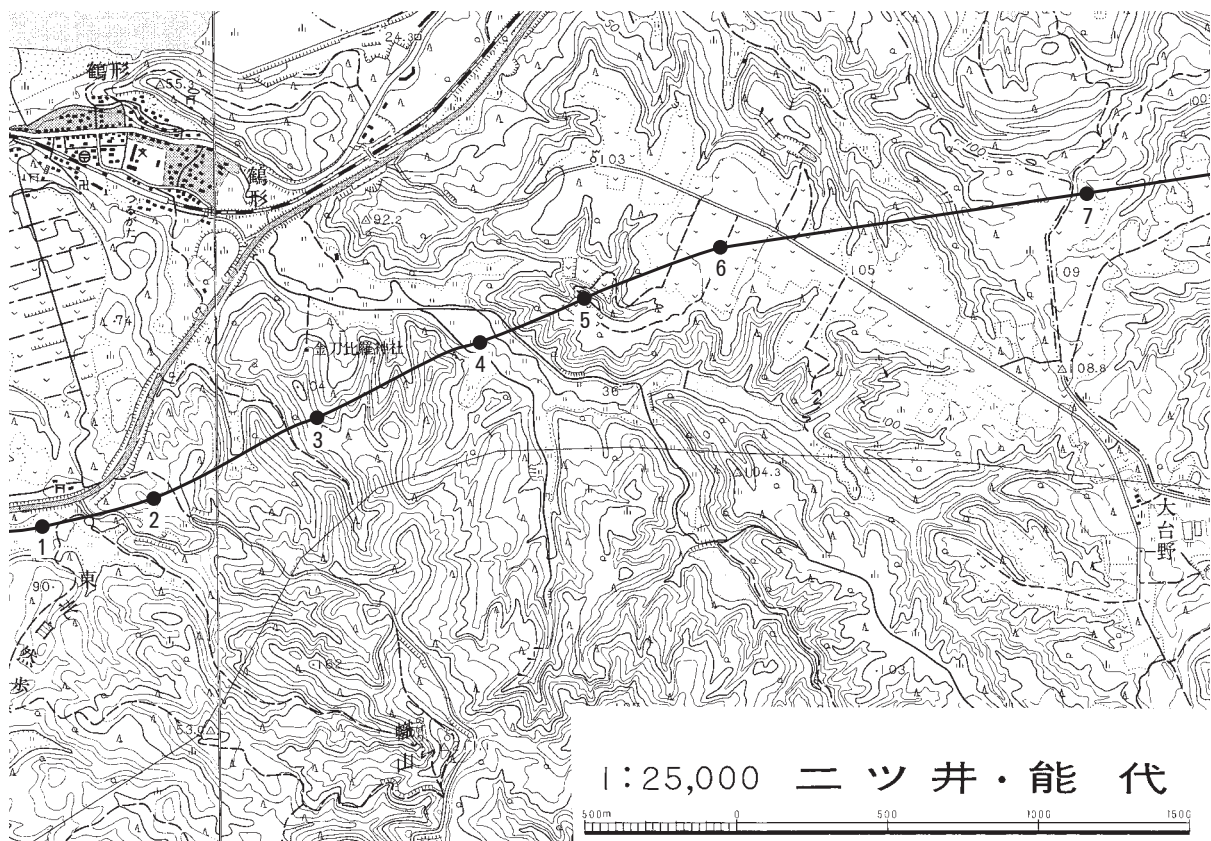
第17図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間 遺跡分布調査位置図 (3)

(3) 一般国道7号琴丘能代道路建設事業 能代東二ツ井間

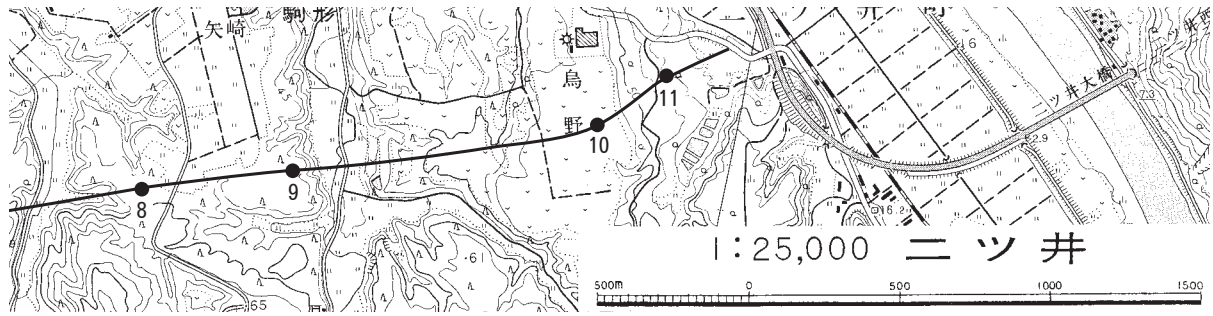
能代市の能代東ICから二ツ井町の二ツ井ICまでの事業予定地12kmのうち、能代市鶴形地区から二ツ井ICの区間について、踏査し試掘した。

調査の結果、事業予定地に周知の遺跡4箇所と新発見の遺跡2箇所を確認した。大館遺跡、矢崎X遺跡、烏坂遺跡については、遺物量が微量であり、遺物包含層が存在しないことから、工事施工の対応については、工事立会とした。芹川館跡、関口館跡、烏野上岱遺跡については、確認調査を行った上で今後の対応を協議することとした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	能代市字田床内	..	水田	なし	
2	能代市字田床内	..	山林	なし	
3	大館遺跡	能代市字戸草沢	縄文	山林	縄文土器	周知の遺跡
4	能代市鶴形	..	水田	なし	
5	能代市字大台野	..	畑地	なし	
6	能代市字大台野	..	畑地	なし	
7	芹川館跡	二ツ井町飛根字館ノ台	..	原野	土坑・焼土	周知の遺跡
8	矢崎X遺跡	二ツ井町駒形字矢崎	縄文	山林	縄文土器	周知の遺跡
9	関口館跡	二ツ井町駒形字関口	中世	山林	空堀	周知の遺跡
10	烏野上岱遺跡	二ツ井町駒形字烏野上岱	縄文	原野	縄文土器・石器	新発見の遺跡
11	烏坂遺跡	二ツ井町切石字烏坂	縄文	山林	縄文土器	新発見の遺跡



第18図 一般国道7号琴丘能代道路建設事業 能代東二ツ井間 遺跡分布調査位置図(1)



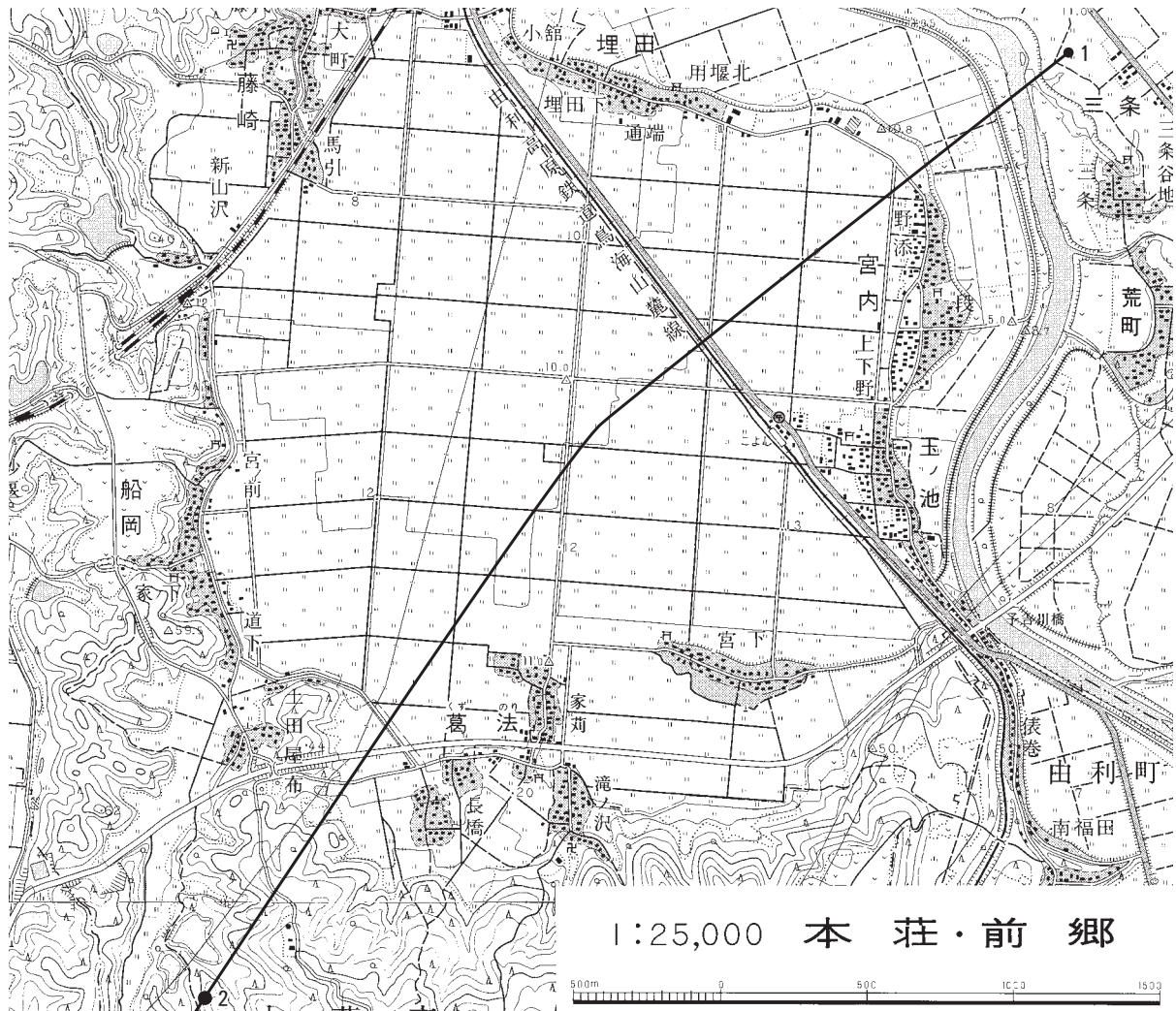
第19図 一般国道7号琴丘能代道路建設事業 能代東ニツ井間 遺跡分布調査位置図 (2)

(4) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業

本荘市の本荘 I C から仁賀保町の仁賀保 I C に至る事業予定地12.5kmのうち、本荘市の水田および山林部分について試掘した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	本荘市二十六木字岡本	..	水田	なし	
2	本荘市船岡字土田屋布	..	山林・水田	なし	



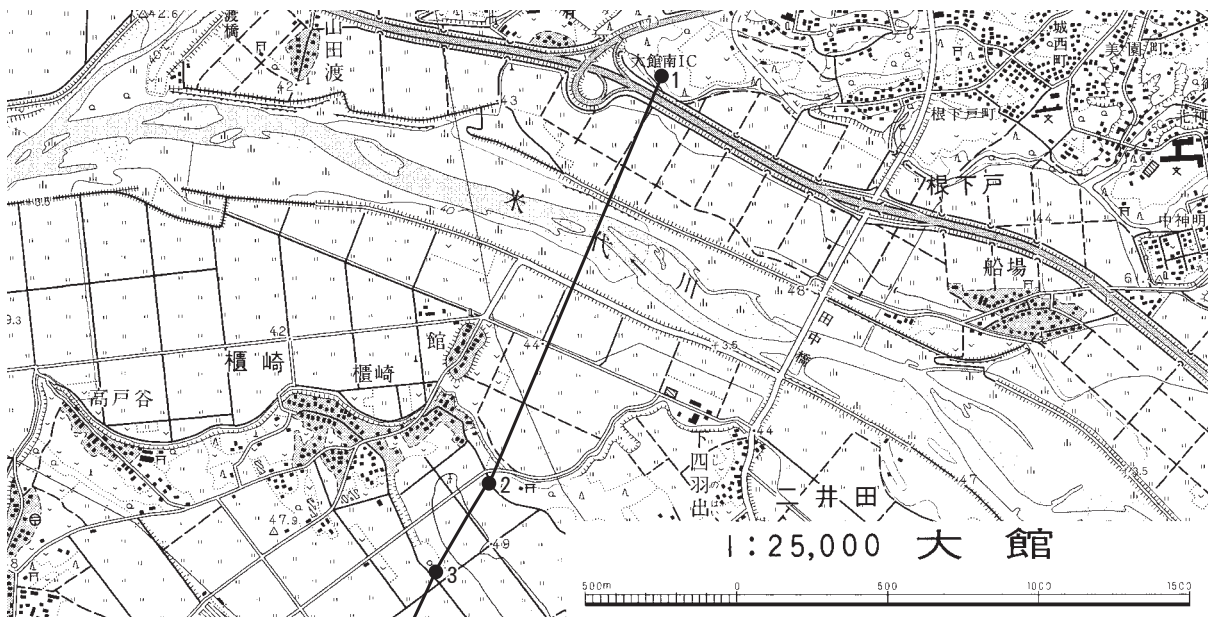
第20図 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(5) 大館西道路建設事業

大館市の櫃崎地区から根下戸地区に至る事業予定地2.6kmのうち、山林および畑地について試掘した。

調査の結果、I C予定地で周知の遺跡1箇所を確認した。隣接する箇所の発掘調査では縄文時代から古代にかけての遺構・遺物が検出されており、今後用地買収後に再度試掘することとした。なお、水田部分についても今後試掘が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	根下戸道下遺跡	大館市餅田字根下戸道下	・・	畑地	なし	周知の遺跡
2	・・・・	大館市櫃崎字大道下	・・	畑地	なし	
3	・・・・	大館市櫃崎字上野道上	・・	山林	なし	



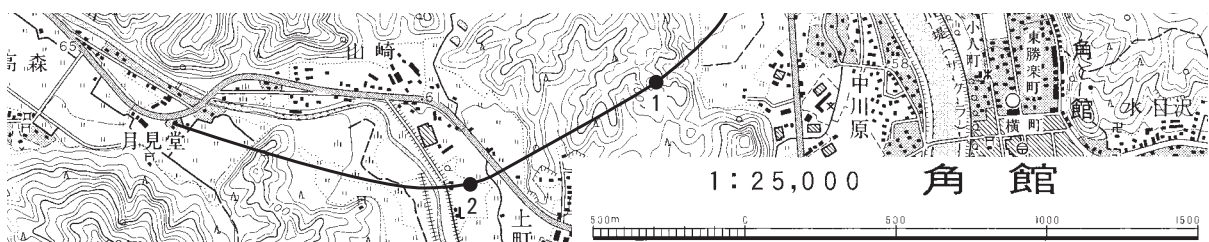
第21図 大館西道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(6) 一般国道46号角館バイパス建設事業

田沢湖町の羽根ヶ台地区から角館町の月見堂地区に至る事業予定地6.1kmのうち、用地買収が終了した山林および水田について試掘した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。今後、用地買収の状況に合わせて踏査・試掘が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	角館町小勝田字段ノ平	・・	山林	なし	
2	・・・・	角館町字山崎	・・	水田	なし	



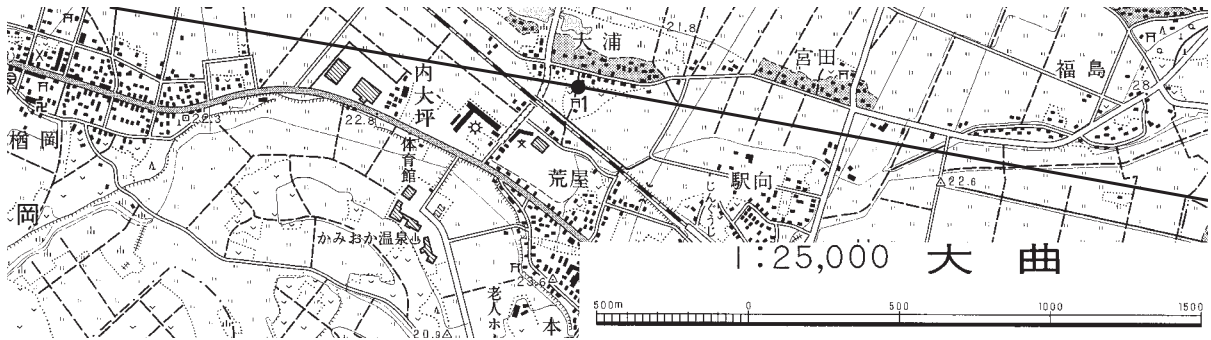
第22図 一般国道46号角館バイパス建設事業 遺跡分布調査位置図

(7) 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業

大曲市の花館地区から神岡町の北楯岡地区に至る事業予定地9.6kmのうち、終点側の一部について、地権者の了解が得られたことから試掘した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。出土した土師器片は客土に含まれるもので、遺物包含層は存在しない。今後、用地買収の状況に合わせて試掘が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	神岡町神宮寺字大浦	..	畑地	土師器片	



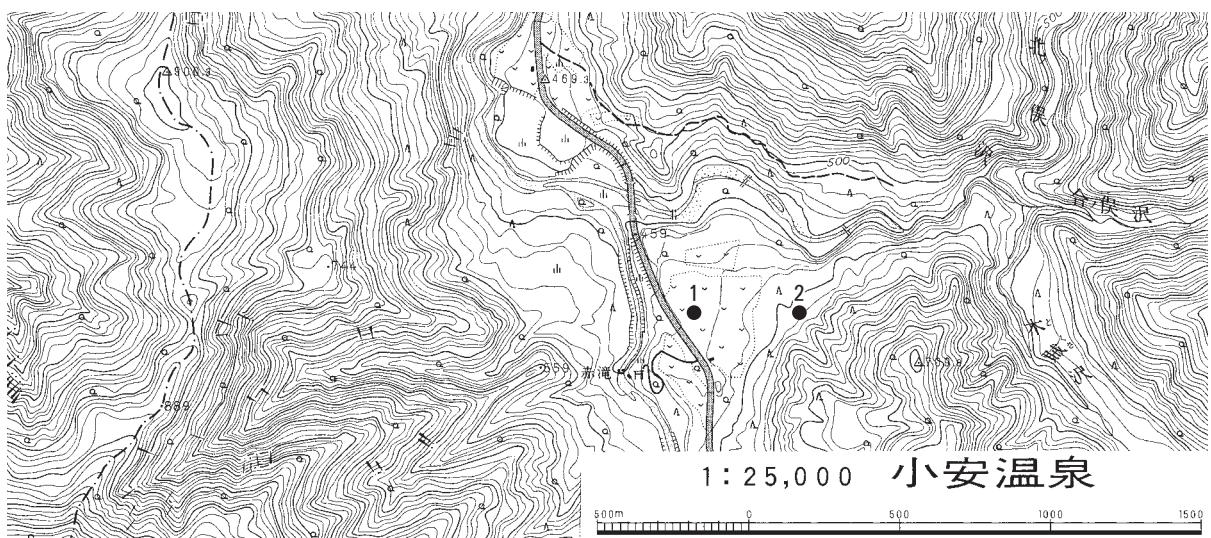
第23図 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業 遺跡分布調査位置図

(8) 成瀬ダム建設事業

流域面積68km²の事業地のうち、フィルター材採取予定地および工事用道路建設予定地について試掘した。また、ダム工事に伴って付け替えられる国道342号建設予定地について踏査し、試掘箇所を選定を行った。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。今後、用地買収の状況に合わせて引き続き試掘が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	東成瀬村椿川字トクラ	..	原野	なし	
2	東成瀬村椿川字トクラ	..	山林	なし	



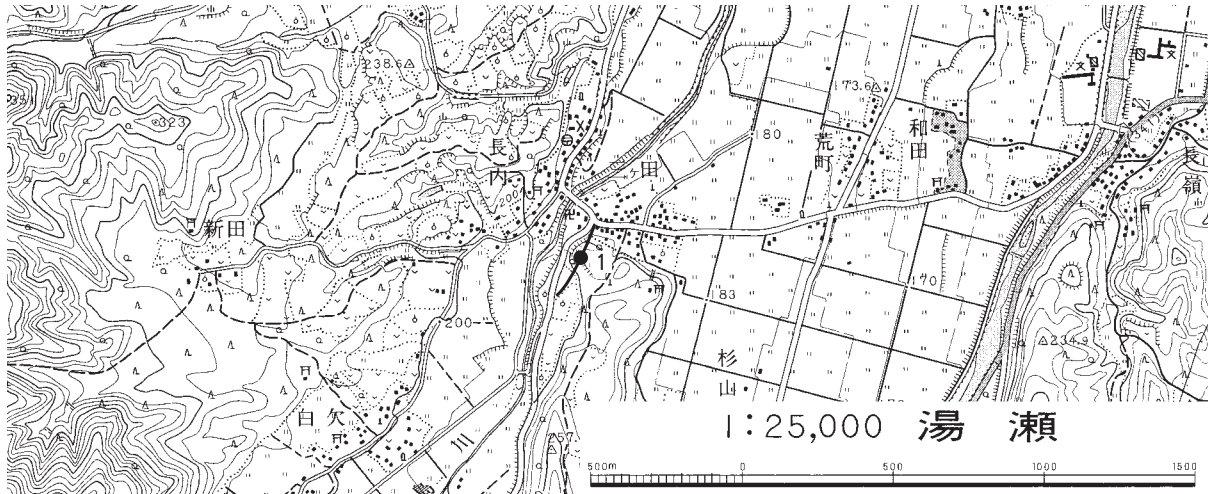
第24図 成瀬ダム建設事業 遺跡分布調査位置図

(9) 一般県道根瀬尾去沢線緊急地方道路整備事業

事業予定地0.8kmのうち、館跡とされる山林を踏査した。

調査の結果、事業予定地内で周知の遺跡1箇所を確認した。今後の取り扱いについては、用地買収終了後、確認調査を行い、対応を協議することとした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	三ヶ田館跡	鹿角市八幡平字浦田	中世	山林	郭・縄文土器	周知の遺跡



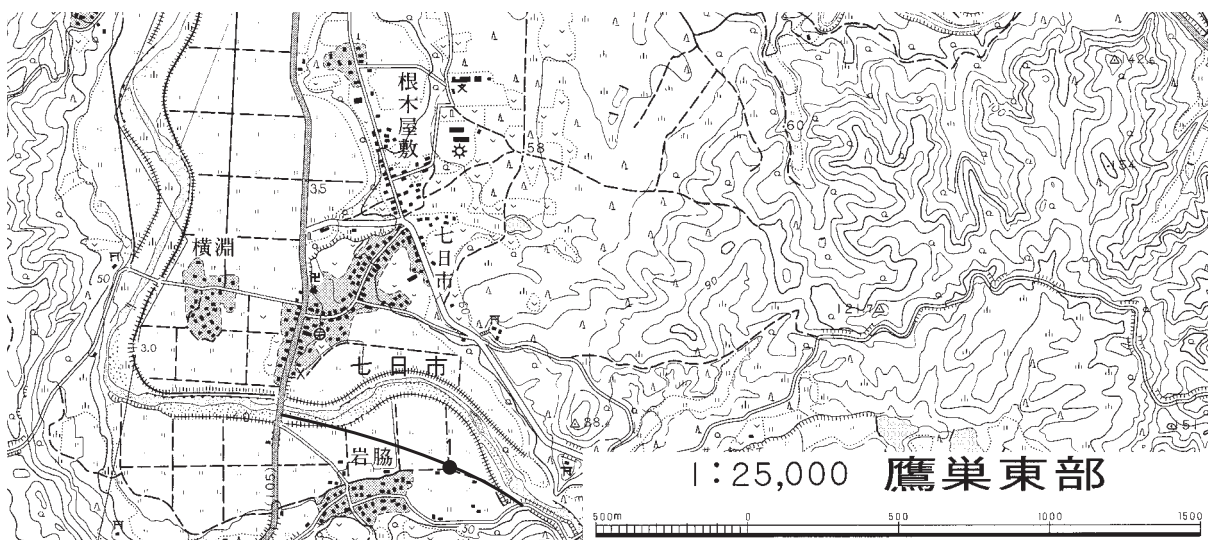
第25図 一般県道根瀬尾去沢線緊急地方道路整備事業 遺跡分布調査位置図

(10) 一般県道場の下岩脇線緊急地方道路整備事業

鷹巣町岩脇地区で計画されている工事延長0.9kmの事業予定地のうち、昨年度試掘地点に選定された箇所について試掘した。

調査の結果、事業予定地内で新発見の遺跡1箇所を確認した。地形から判断して遺跡の縁辺部にあたり、遺構、遺物の分布密度が低いことから、工事施工の対応については、工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	水門下夕遺跡	鷹巣町七日市字水門下夕	中世	水田	陶器	新発見の遺跡



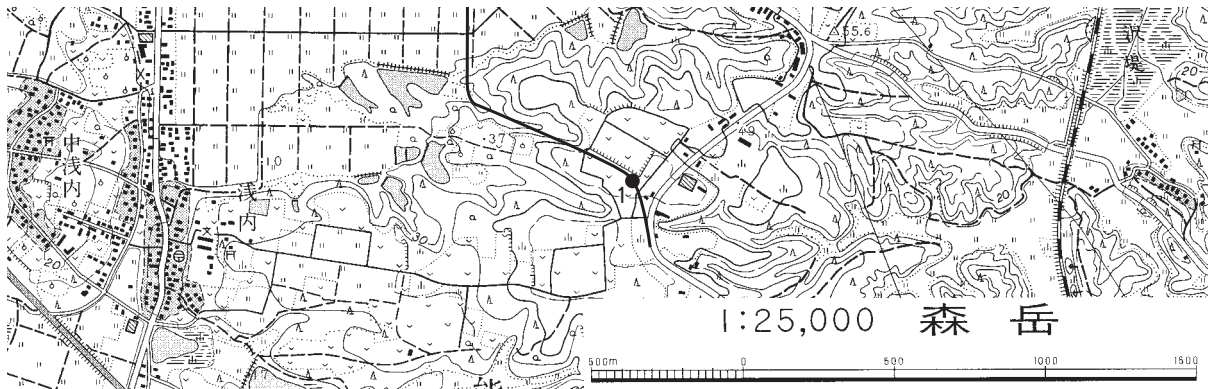
第26図 一般県道場の下岩脇線緊急地方道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(11) 一般県道金光寺能代線地方道道路改築事業

能代市の坊ノ崎地区を起点に船沢地区に至る工事延長2.8kmの事業予定地のうち、選定した地点について試掘した。

調査の結果、事業予定地内に周知の遺跡1箇所を確認した。削平が地山面まで及んでおり、遺物包含層が存在しないことから、工事施工の対応としては、工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	此掛沢Ⅲ遺跡	能代市浅内字此掛沢	縄文	山林・畑地	剥片	周知の遺跡



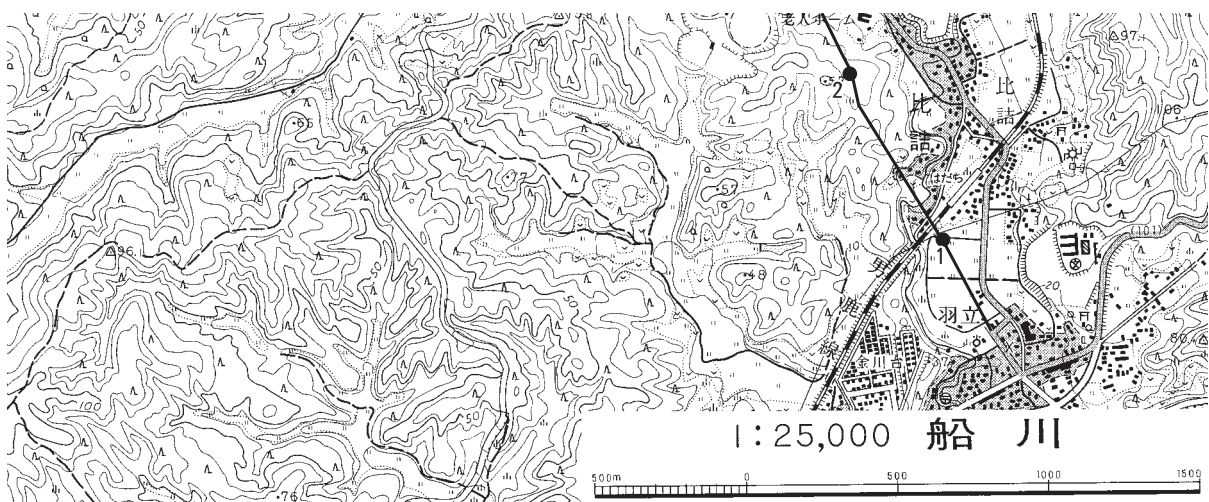
第27図 一般県道金光寺能代線地方道道路改築事業 遺跡分布調査位置図

(12) 国道101号国道道路改築事業 羽立バイパス

男鹿市羽立地区で計画されている事業予定地約2.5kmについて試掘した。

調査の結果、事業予定地内に周知の遺跡2箇所を確認した。大巻遺跡については、遺構・遺物ともに検出されなかったことから工事施工の対応については、工事立会とした。上小友遺跡については、土師器、須恵器片が出土したが、堆積土の状態から遺物包含層の大部分は後世の削平によって失われていることを確認したことから、工事施工の対応については、工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大巻遺跡	男鹿市船川港比詰字大巻	・・	水田	なし	周知の遺跡
2	上小友遺跡	男鹿市船川港金川字上小友	平安	山林	土師器・須恵器	周知の遺跡



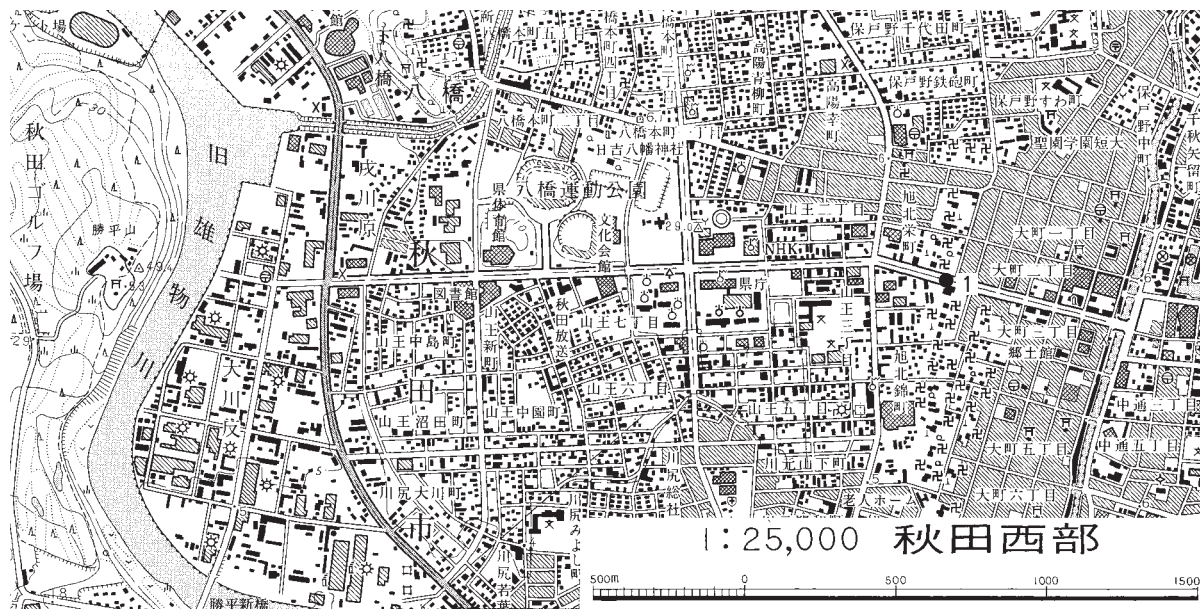
第28図 国道101号国道道路改築事業 羽立バイパス 遺跡分布調査位置図

(13) 都市計画街路秋田中央道路建設事業

秋田市の旭北地区から手形地区に至る事業予定地2.55kmのうち、開削工事が予定されている旭北錦町について、街路樹移動工事に伴い試掘した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	秋田市旭北錦町	..	道路	なし	



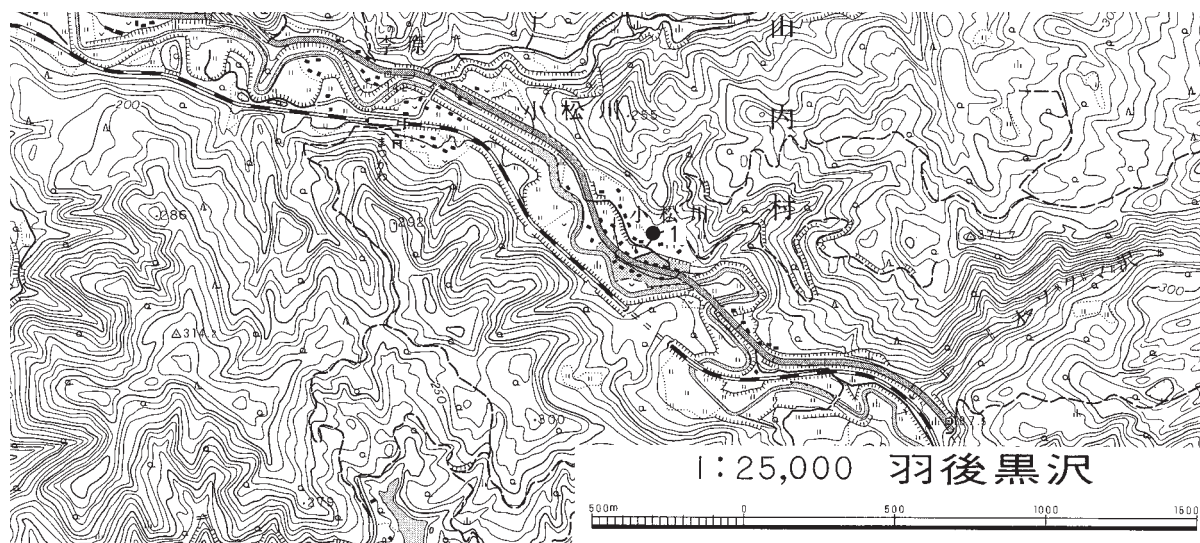
第29図 都市計画街路秋田中央道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(14) 通常砂防事業 小松沢地区

山内村の小松川地区における工事延長0.2kmの事業予定地の区間について試掘した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	山内村小松川	..	水田・畑地	陶磁器	



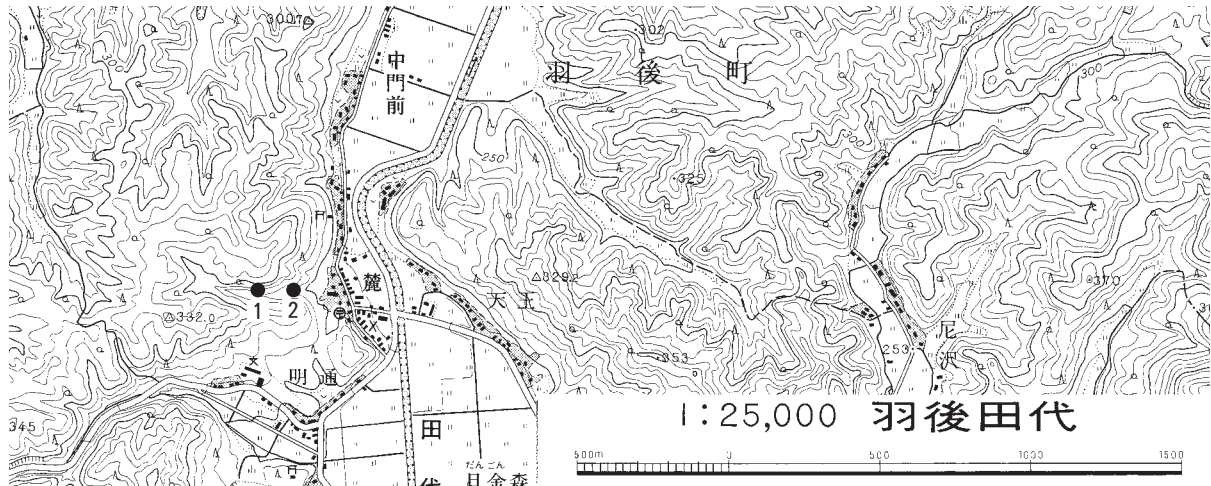
第30図 通常砂防事業 小松沢地区 遺跡分布調査位置図

(15) 通常砂防事業 麓沢地区

羽後町麓地区の砂防ダム等の建設工事である。事業予定地を踏査し、試掘した。

調査の結果、周知の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。田代城跡の主郭は事業予定地上部の平坦面にあたり、事業予定地の麓沢に続く急斜面までが遺跡範囲と想定される。ただし、試掘による遺構、遺物の確認は無かったことから、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	田代城跡	羽後町田代字麓	中世	山林	なし	周知の遺跡
2	羽後町田代字麓	..	山林	なし	

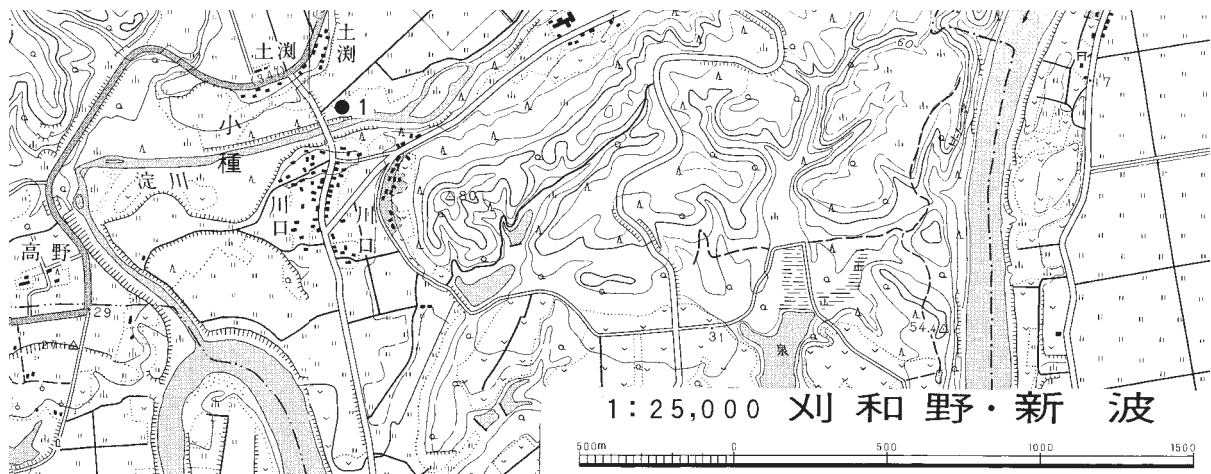


第31図 通常砂防事業 麓沢地区 遺跡分布調査位置図

(16) 広域基幹河川改修事業 淀川

協和町淀川地区の河川改修に伴う築堤工事である。事業予定地を踏査し、地形と施工計画を照合した。今後、試掘地点を特定し、試掘を行う予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	協和町下淀川字川口	..	山林・水田	



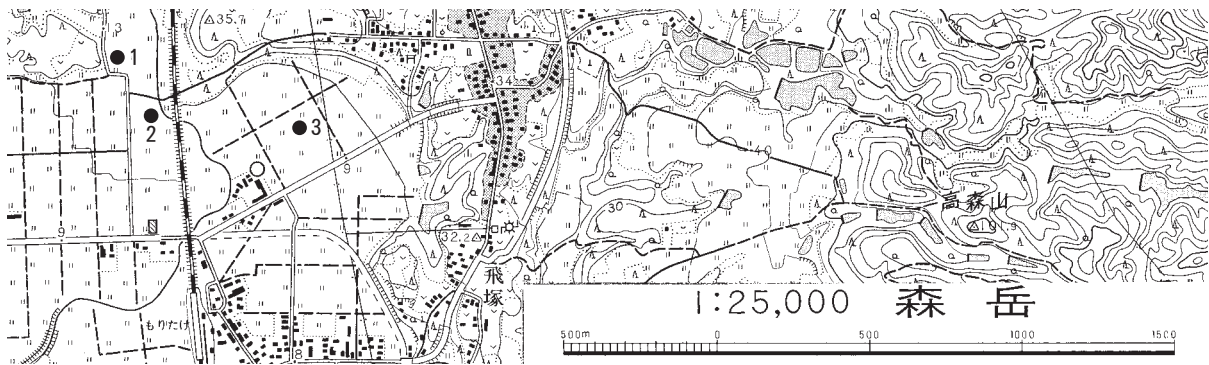
第32図 広域基幹河川改修事業 淀川地区 遺跡分布調査位置図

(17) 県営ほ場整備事業 金岡地区

山本町金岡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積490ha、平成18年度まで10箇年計画の事業である。このうち平成16年度事業予定地区について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に周知の遺跡1箇所を確認した。根岸Ⅰ遺跡は、縄文土器片の出土により確認した。遺物出土地点は丘陵斜面の下端にあたり、隣接する水田部分での遺物包含層は確認できなかったことから、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	根岸Ⅰ遺跡	山本町豊岡金田字根岸	・・	山林	縄文土器片	周知の遺跡
2	・・・・	山本町豊岡金田字根岸	・・	水田	なし	
3	・・・・	山本町豊岡金田字田倉館	・・	水田	なし	



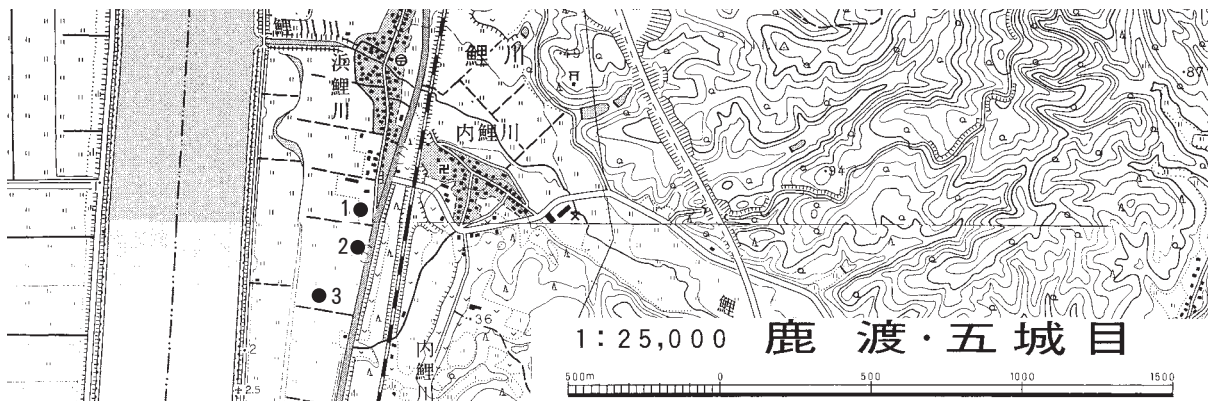
第33図 県営ほ場整備事業 金岡地区 遺跡分布調査位置図

(18) 県営ほ場整備事業 鯉川地区

琴丘町鯉川地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積121ha、平成18年度まで8箇年の事業である。このうち平成15年度事業予定地区について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	琴丘町鯉川字浜田	・・	水田	なし	
2	・・・・	琴丘町鯉川字浜田	・・	水田	なし	
3	・・・・	琴丘町天瀬川字深根	・・	水田	なし	



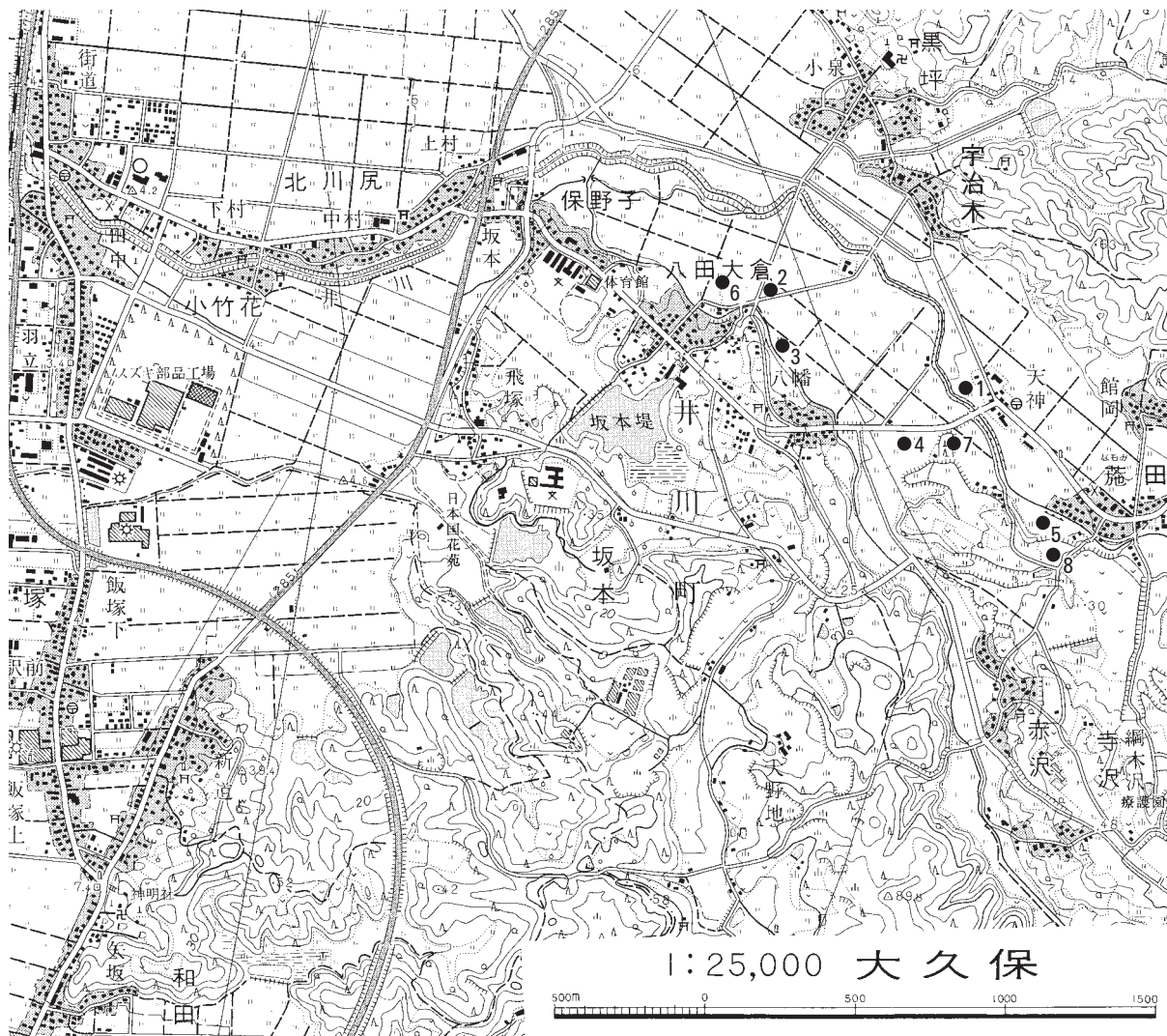
第34図 県営ほ場整備事業 鯉川地区 遺跡分布調査位置図

(19) 県営ほ場整備事業 井川東部地区

井川東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積119ha、平成18年度まで9箇年計画の事業である。平成16年度事業予定地について試掘した。

調査対象地は、周知されている縄手内遺跡、築館跡、野畑遺跡の隣接地にあたるが、調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	井川町黒坪字天神	..	水田	なし	
2	井川町八田大倉字縄手内	..	水田	なし	
3	井川町八田大倉字深間	..	水田	なし	
4	井川町八田大倉字長面	..	水田	なし	
5	井川町菘田字湯田	..	水田	なし	
6	縄手内遺跡	井川町八田大倉字縄手内	縄文・古代	道路・水田	周知の遺跡
7	築館跡	井川町八田大倉字南台	中世	山林・墓地	周知の遺跡
8	野畑遺跡	井川町菘田字野畑	縄文	畑地・荒地	周知の遺跡



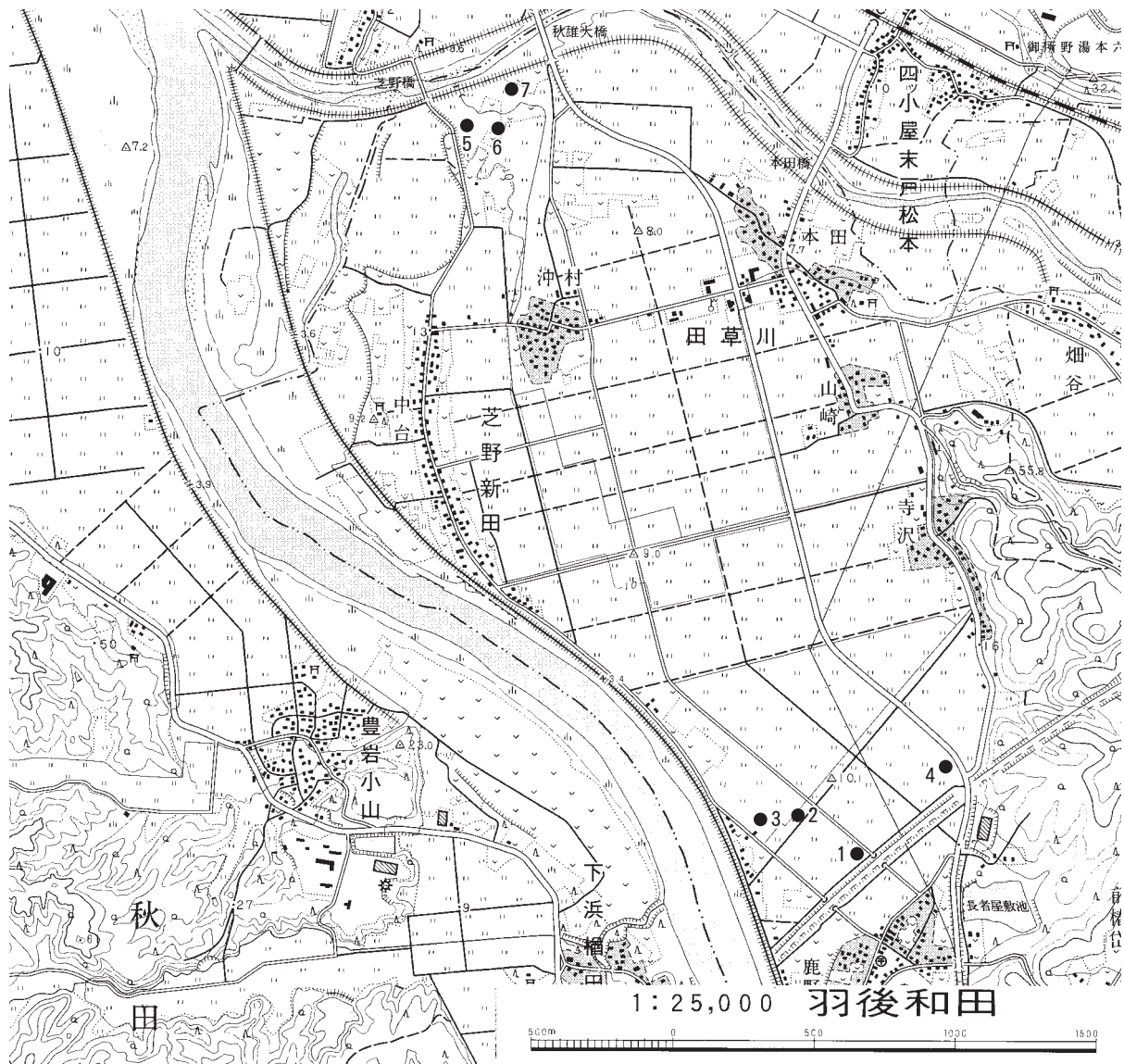
第35図 県営ほ場整備事業 井川東部地区 遺跡分布調査位置図

(20) 県営ほ場整備事業 芝野東部地区

雄和町芝野東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積117ha、平成18年度まで8箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡1箇所を確認した。鹿野戸谷地遺跡は、縄文土器片、土師器片、須恵器片の出土により確認した。ただし、既に本来の遺物包含層は遺存せず、基盤層も安定しない状況であり、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	鹿野戸谷地遺跡	雄和町椿川字鹿野戸谷地	縄文・平安	水田	縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡
2	雄和町椿川字小鹿野戸	..	水田	なし	
3	雄和町椿川字小鹿野戸	..	水田	なし	
4	雄和町芝野新田字辛谷地	..	水田	なし	
5	雄和町芝野新田字野開	..	水田	なし	
6	雄和町芝野新田字野開	..	畑	なし	
7	雄和町田草川字船ヶ沢	..	水田	なし	



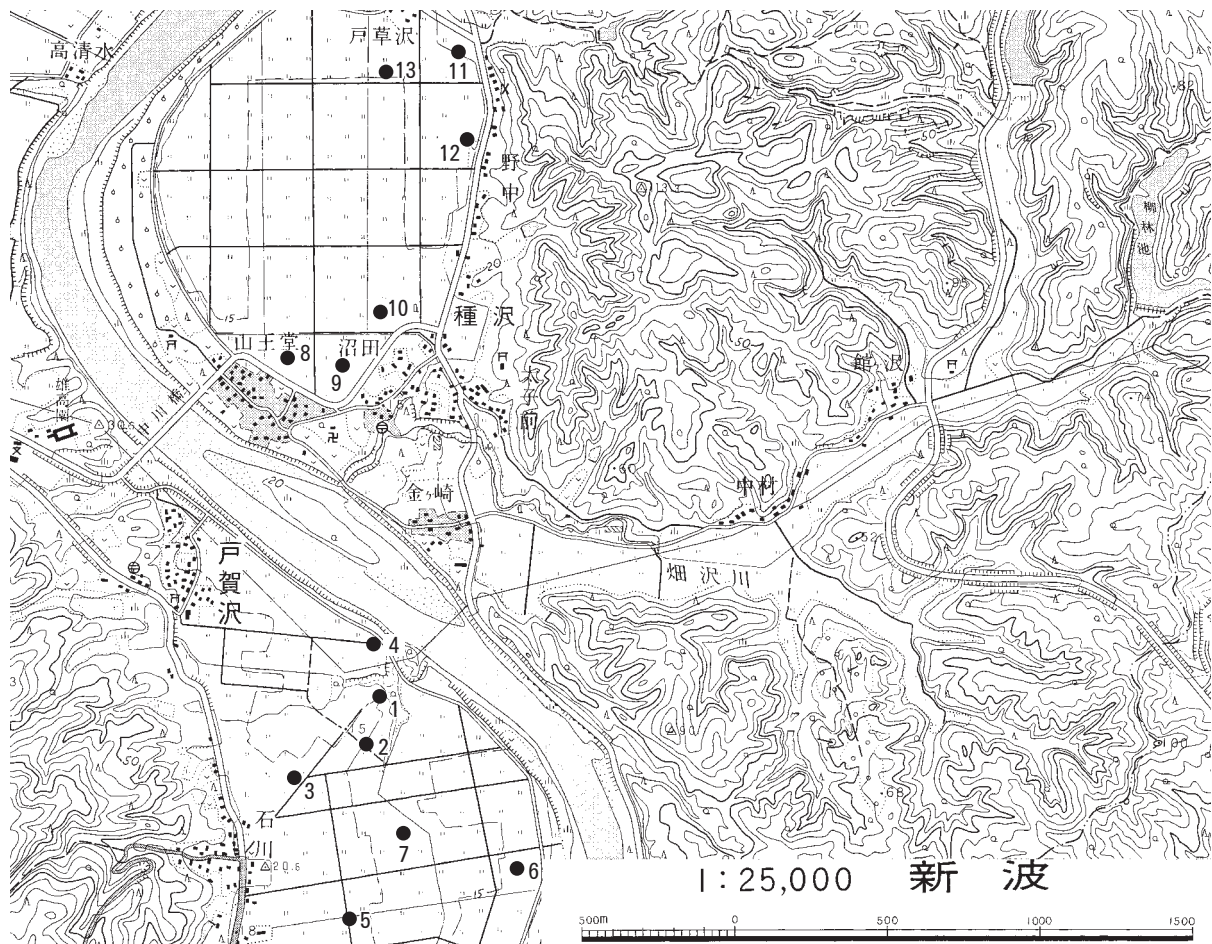
第36図 県営ほ場整備事業 芝野東部地区 遺跡分布調査位置図

(21) 県営ほ場整備事業 女米木地区

雄和町女米木地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積138ha、平成19年度まで8箇年計画の事業である。平成15年度、16年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡5箇所を確認した。石川Ⅰ遺跡では、土師器片、須恵器片の出土と土坑、竪穴状遺構の検出、五石前遺跡、猫沢遺跡、女米木山崎遺跡、石川Ⅱ遺跡は土師器片の出土により確認した。五石前遺跡は耕作による影響が著しく、本来の遺物包含層が遺存しない状況から工事施工の対応について工事立会とした。石川Ⅰ遺跡は、調査結果をもとに原因者と協議し、一部設計変更を行い施工が遺構確認面の深さに至らないこととなったことから、工事立会とした。猫沢遺跡及び女米木山崎遺跡、石川Ⅱ遺跡については、今後追加試掘による遺構の有無の確認を行った後、施工方法を含めて原因者と協議する予定である。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	石川Ⅰ遺跡	雄和町女米木字石川	平安	水田・畑	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡
2	雄和町女米木字石川	..	水田	なし	
3	雄和町女米木字長面	..	水田	なし	
4	五石前遺跡	雄和町戸賀沢字五石前	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
5	猫沢遺跡	雄和町女米木字猫沢	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
6	女米木山崎遺跡	雄和町女米木字山崎	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
7	石川Ⅱ遺跡	雄和町女米木字石川	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡



第37図 県営ほ場整備事業 女米木地区・種沢地区 遺跡分布調査位置図

(22) 県営ほ場整備事業 種沢地区 (位置図は第37図)

雄和町種沢地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積109ha、平成19年度まで9箇年計画の事業である。平成15年度、16年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

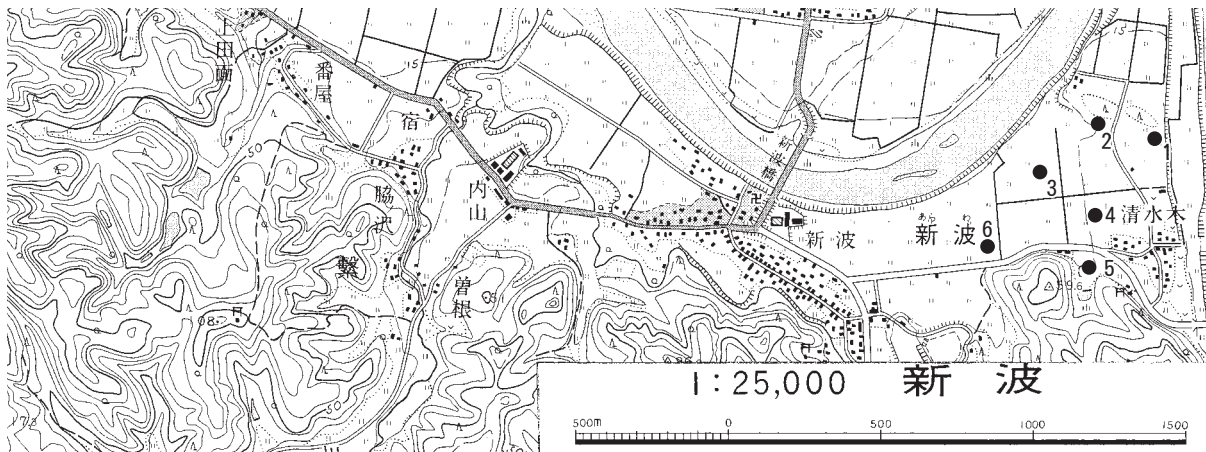
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
8	雄和町種沢字潜龍寺前	..	水田	なし	
9	雄和町種沢字潜龍寺前	..	水田	なし	
10	雄和町種沢字潜龍寺前	..	水田	なし	
11	雄和町種沢字山田	..	水田	なし	
12	雄和町種沢字山田	..	畑	なし	
13	雄和町種沢字上畑屋	..	水田	なし	

(23) 県営ほ場整備事業 新波地区

雄和町新波地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積76ha、平成19年度まで8箇年計画の事業である。平成15年度、16年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡2箇所を確認した。大巻Ⅰ遺跡は、縄文土器片、土師器片、須恵器片、大巻Ⅱ遺跡は土師器片の出土により確認した。工事施工の対応については、施工計画が遺物包含層の深さに至らないことから工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大巻Ⅰ遺跡	雄和町新波字大巻	縄文・平安	水田	縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡
2	大巻Ⅱ遺跡	雄和町新波字大巻	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
3	雄和町新波字山崎	..	水田	なし	
4	雄和町新波字清水木	..	水田	なし	
5	雄和町新波字山崎	..	水田	なし	
6	雄和町新波字碓り	..	水田	なし	



第38図 県営ほ場整備事業 新波地区 遺跡分布調査位置図

(24) 県営ほ場整備事業 四ツ屋東部地区 (位置図は第7図)

大曲市四ツ屋東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積253ha、平成17年度まで8箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地に確認された新発見の遺跡について追加試掘した。

調査の結果、諸又遺跡では縄文土器片、土師器片、須恵器片、中世陶器片が出土し、縄文時代の土坑1基を検出すると同時に旧耕地整理の影響が著しく本来の遺物包含層が遺存しない状況も把握した。このため、工事施工の対応については工事立会の対応とした。

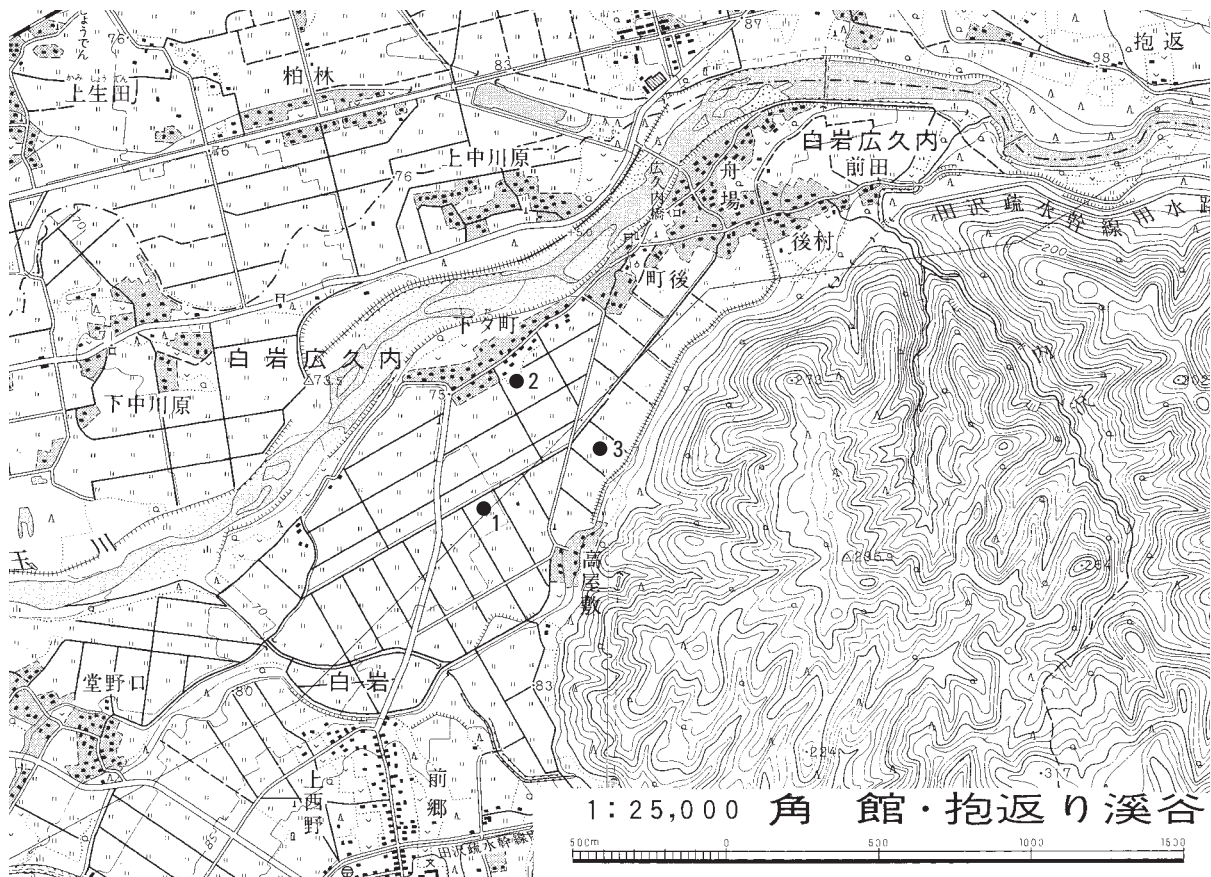
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
3	諸又遺跡	大曲市高関字諸赤	縄文・平安	水田・畑	縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡

(25) 県営ほ場整備事業 白岩第一地区

角館町白岩地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積103ha、平成18年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡1箇所を確認した。新早坂遺跡は土師器片の出土と溝跡の検出により確認した。工事施工の対応については、施工計画が遺構確認面の深さに至らないことから工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	新早坂遺跡	角館町白岩字新早坂	平安	水田	土師器片・溝跡	新発見の遺跡
2	角館町白岩字新町後	..	水田	なし	
3	角館町白岩字新合野	..	水田	なし	



第39図 県営ほ場整備事業 白岩第一地区 遺跡分布調査位置図

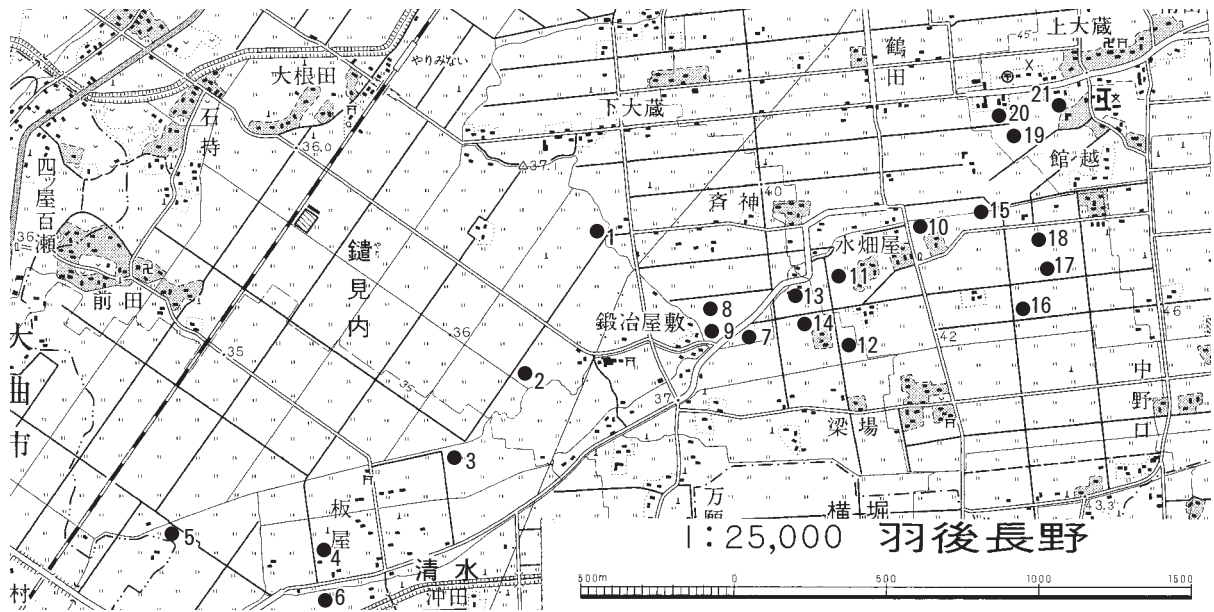
(26) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区

中仙町中仙南部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積481ha、平成19年度まで9箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地に確認された新発見の遺跡については追加試掘を行い、平成16年度事業予定地区については試掘した。

平成15年度事業予定地内の遺跡では、新発見の遺跡6箇所が確認された。鑓見内七曲遺跡で土坑1基、北谷地遺跡で土坑1基と竪穴状遺構1基、板屋Ⅰ遺跡で土坑1基、板屋Ⅱ遺跡で竪穴住居跡1軒と土坑、矢野遺跡で竪穴住居跡1軒、北大吹遺跡で竪穴状遺構1基を検出し、同時にいずれの遺跡も旧耕地整理の影響が著しい状況も把握した。この結果を踏まえ、工事施工の対応について原因者と協議し、一部施工計画の変更もを行い、いずれの遺跡でも施工計画が遺構確認面の深さに至らないこととなったことから、工事立会の対応とした。

平成16年度事業予定地では、周知の遺跡1箇所、新発見の遺跡4箇所が確認された。桑田遺跡は、土師器片の出土と土坑の検出、水畑屋甲遺跡は土師器片、水畑屋乙遺跡は縄文土器片、土師器片、館腰Ⅱ遺跡は土師器片、須恵器片の出土により確認したものである。七ツ釜遺跡では、遺構、遺物とも確認できなかった。工事施工の対応については、今後追加試掘による遺構の有無の確認を行った後、施工方法を含めて原因者と協議する予定である。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	鑓見内七曲遺跡	中仙町鑓見内字七曲	平安	水田	土坑	新発見の遺跡
2	北谷地遺跡	中仙町鑓見内字北谷地	平安	水田	竪穴状遺構・土坑	新発見の遺跡
3	板屋Ⅰ遺跡	中仙町鑓見内字板屋	縄文・平安	水田	土坑	新発見の遺跡
4	板屋Ⅱ遺跡	中仙町鑓見内字板屋	平安	水田	竪穴住居跡・土坑	新発見の遺跡
5	矢野遺跡	中仙町鑓見内字矢野	平安	水田	竪穴住居跡	新発見の遺跡
6	北大吹遺跡	中仙町清水字北大吹	平安	水田	竪穴状遺構	新発見の遺跡
7	桑田遺跡	中仙町清水字甲泉	平安	水田	土師器片・土坑	新発見の遺跡
8	・・・	中仙町清水字桑田	・・	水田	なし	
9	桑田遺跡	中仙町清水字桑田	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
10	水畑屋甲遺跡	中仙町清水字水畑屋甲	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
11	・・・	中仙町清水字水畑屋甲	・・	水田	なし	
12	水畑屋乙遺跡	中仙町清水字堰合乙	縄文・平安	水田	縄文土器片	新発見の遺跡
13	・・・	中仙町清水字水畑屋乙	・・	水田	なし	
14	水畑屋乙遺跡	中仙町清水字水畑屋乙	縄文・平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
15	・・・	中仙町清水字水畑屋甲	・・	水田	なし	
16	七ツ釜遺跡	中仙町清水字七ツ釜	・・	水田	なし	周知の遺跡
17	・・・	中仙町清水字堰合	・・	水田	なし	
18	・・・	中仙町清水字堰合	・・	水田	なし	
19	館腰Ⅱ遺跡	中仙町清水字館腰	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
20	・・・	中仙町清水字館腰	・・	水田	なし	
21	館腰Ⅱ遺跡	中仙町清水字館腰	平安	水田	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡



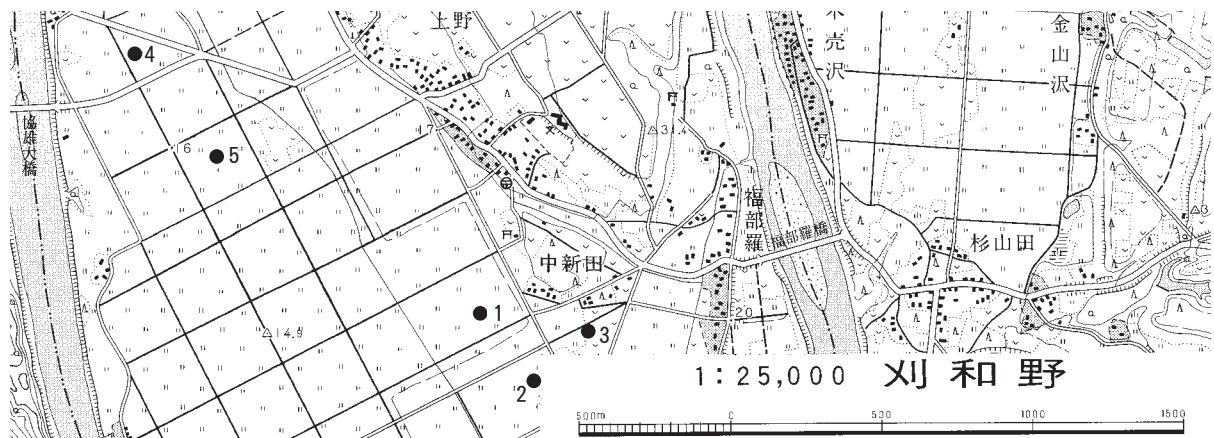
第40図 県営ほ場整備事業 中仙南部地区 遺跡分布調査位置図

(27) 県営ほ場整備事業 小種地区

協和町小種地区に実施されているほ場整備事業で、計画面積284ha、平成19年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地内に新発見の遺跡2箇所を確認した。杉田遺跡は土師器片、須恵器片の出土、下鏡台遺跡は縄文土器片、土師器片の出土により確認したものであるが、ともに遺構は確認できなかった。また、旧耕地整理の影響が著しく、工事施工の対応について工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	杉田遺跡	協和町小種字杉田	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
2	協和町小種字杉田	..	水田	なし	
3	下鏡台遺跡	協和町小種字下鏡台	縄文・平安	水田・畑	縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡
4	協和町小種字杉の前	..	水田	なし	
5	協和町小種字築地	..	水田	なし	



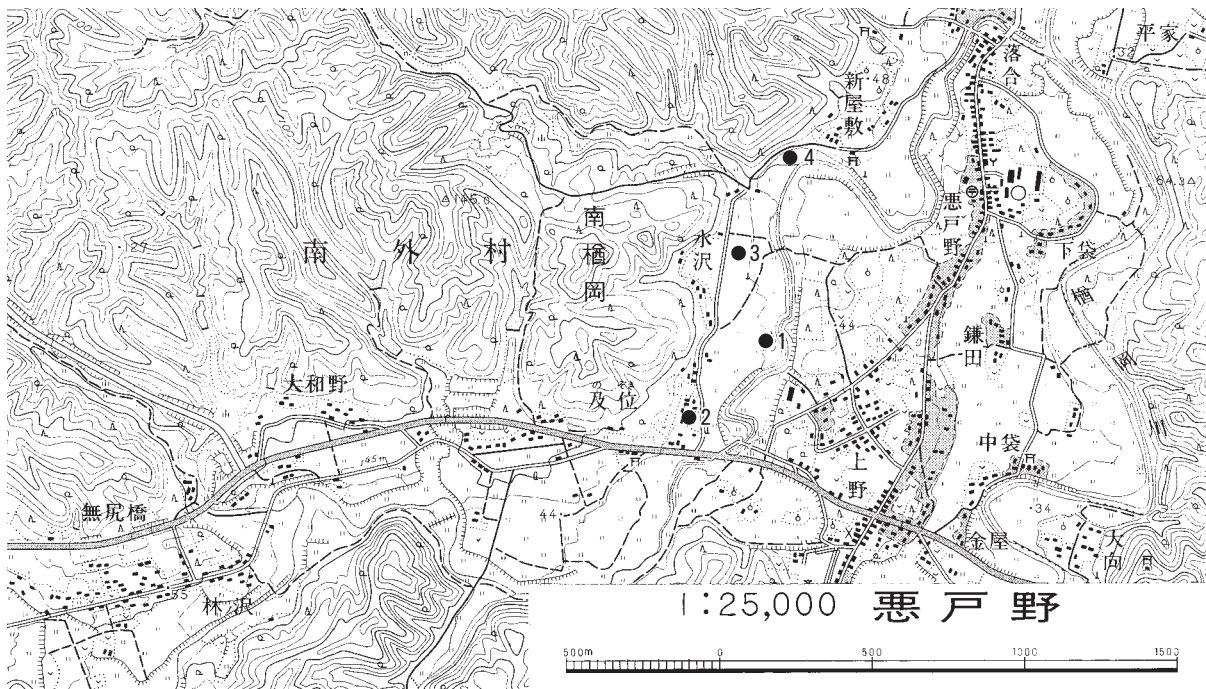
第41図 県営ほ場整備事業 小種地区 遺跡分布調査位置図

(28) 県営ほ場整備事業 及水地区

南外村及水地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積52ha、平成19年度まで6箇年計画の事業である。このうち平成15年度事業予定地について試掘を行った。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡1箇所を確認した。水沢遺跡は縄文土器片の出土により確認した。工事施工の対応については、施工計画が遺物包含層の深さに至らないことから工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	水沢遺跡	南外村字水沢	縄文	水田	縄文土器片	新発見の遺跡
2	南外村字及位	..	水田	なし	
3	南外村字水沢	..	水田	なし	
4	南外村字新屋敷	..	水田	なし	



第42図 県営ほ場整備事業 及水地区 遺跡分布調査位置図

(29) 県営ほ場整備事業 堀板地区 (位置図は第9図)

仙北町堀板地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積261ha、平成18年度まで7箇年計画の事業である。平成15年度事業予定地に確認された新発見の遺跡について追加試掘した。

調査の結果、観音堂遺跡では旧耕地整理の影響が著しく新たな遺物は確認できなかった。また、検出した土坑、柱穴、溝跡についても近世以降のものと判断した。八幡堂遺跡では、打製石斧、土師器片土、須恵器片が出土したが、明瞭な遺構は確認できなかった。このため、両遺跡とも工事施工の対応について、工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	観音堂遺跡	仙北町板見内字観音堂	平安・近世	水田	柱穴	新発見の遺跡
2	八幡堂遺跡	仙北町板見内字八幡堂	縄文・平安	水田	打製石斧・須恵器片	新発見の遺跡

(30) 県営ほ場整備事業 鍋倉地区

平鹿町鍋倉地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積56ha、平成17年度まで7箇年計画の事業である。平成16年度事業予定地について試掘した。

調査対象地は、周知の遺跡されている中都遺跡の近接地にあたるが、調査の結果、新発見の遺跡を2箇所確認した。上都遺跡は、土坑2基の検出と縄文土器片の出土により確認した。また、下都遺跡は、土坑1基の検出と縄文土器片の出土により確認した。工事施工の対応については、原因者と協議中である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	上都遺跡	平鹿町下鍋倉字上都	縄文	水田・畑地	土坑・縄文土器	新発見の遺跡
2	下都遺跡	平鹿町下鍋倉字下都	縄文	水田・畑地	土坑・縄文土器	新発見の遺跡
3	中都遺跡	平鹿町下鍋倉字中都	縄文	水田・畑地	・・・	周知の遺跡



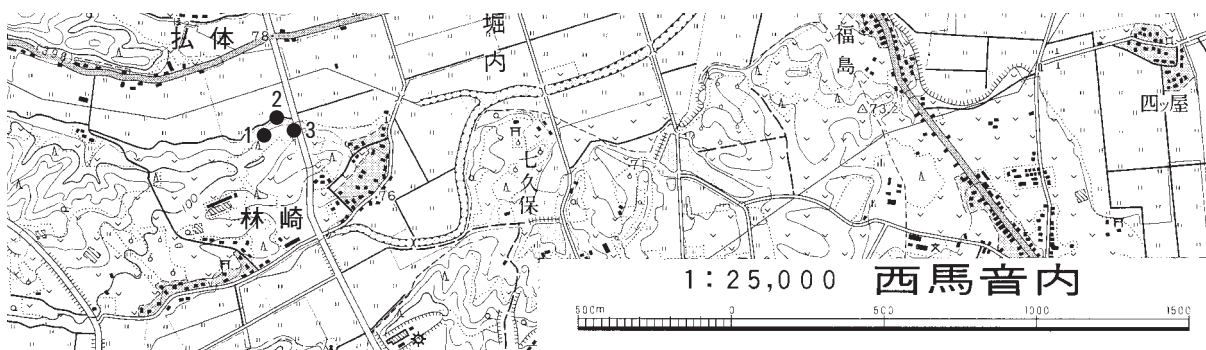
第43図 県営ほ場整備事業 鍋倉地区 遺跡分布調査位置図

(31) ため池等整備事業 後福島地区

羽後町後福島地区に採択されたため池等整備事業で、平成18年度まで5箇年計画の事業である。提体盛土のための土取り場を踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地内に周知の遺跡1箇所を確認した。周知されている馬場野遺跡の隣接地で縄文土器片が出土したことから、遺跡範囲が事業予定地に広がるものと判断したが、遺構を確認できなかったことから工事施工の対応について、工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	馬場野遺跡	羽後町堀内字谷地中	縄文	山林	縄文土器片	周知の遺跡
2	・・・	羽後町堀内字谷地中	・・・	山林	なし	
3	・・・	羽後町堀内字谷地中	・・・	山林	なし	



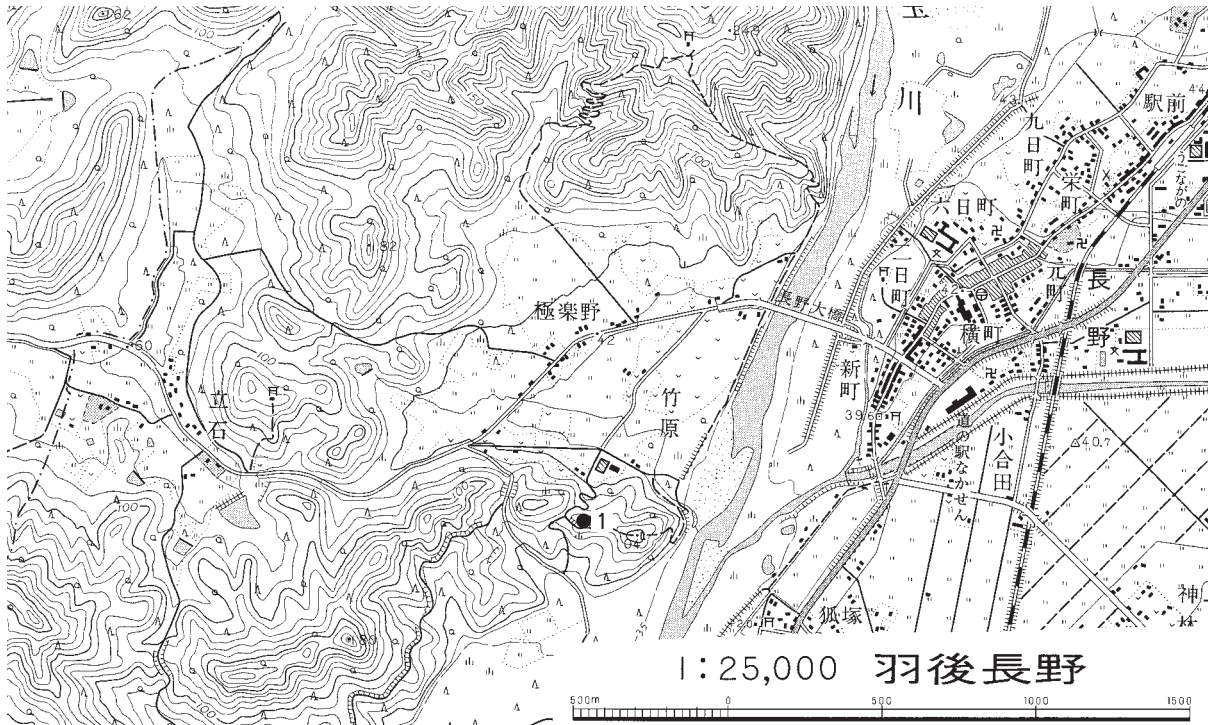
第44図 ため池等整備事業 後福島地区 遺跡分布調査位置図

(32) 環境保全保安林整備事業 八乙女山地区

中仙町八乙女山地区で実施されている環境保全保安林整備事業で、事業対象区域面積10ha、平成16年度までの3箇年計画で保安林等を整備する事業である。事業予定地について、踏査した。

踏査の結果、事業予定地は、周知されている八乙女城跡であるが、15年度施工予定箇所は、いずれも急峻な斜面で、遺構は確認されなかった。また、工事影響箇所がいずれも狭小であることから工事施工の対応について工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	八乙女城跡	中仙町長野字八乙女	中世	公園	・・・	周知の遺跡



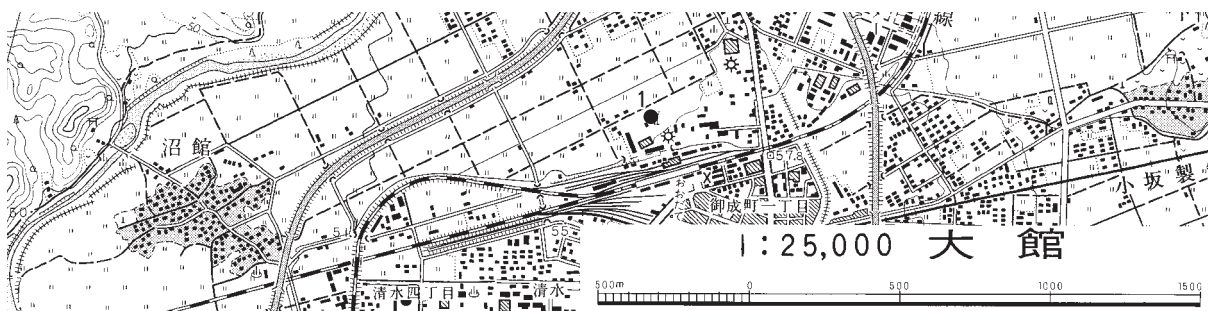
第45図 環境保全保安林整備事業 八乙女山地区 遺跡分布調査位置図

(33) 秋田県立中高一貫教育校建設事業 県北地区

大館市松木地区の事業予定地について、昨年度対応できなかった箇所を試掘した。

調査の結果、事業地内で遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・	大館市松木字大上	・・	水田	なし	



第46図 秋田県立中高一貫教育校建設事業 県北地区 遺跡分布調査位置図

第2節 遺跡確認調査

(1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業

①田ノ沢山遺跡

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 遺跡所在地 | 大館市商人留字田ノ沢100-1 |
| 2 確認調査期間 | 平成15年10月14日～11月4日 |
| 3 確認調査対象面積 | 20,000㎡ |
| 4 工事区域内遺跡面積 | 2,400㎡ |
| 5 遺跡の立地と現況 | |

a 立地

本遺跡はJR奥羽本線大館駅より北東へ5.6kmに位置し、標高134～148mの丘陵に立地する。確認調査対象区域の北側には釈迦池が位置し、東側を農免農道白沢大茂内線が走っている。

遺跡の南西約3kmには平安時代の数多くの竪穴住居跡が検出された釈迦内中台I遺跡がある。

b 現況

林であったが、確認調査対象区域は全て伐採されており、切り株及び枝葉が全域に残存する。

6 確認調査の方法

基本的に傾斜の変化を確認できるよう、等高線に対して直交するトレンチを設定した。遺構の検出が予想された東の谷を挟む両尾根上には特に多く設定し、遺構の検出に努めた。基本的には重機による掘削の後、確認面及びトレンチ壁面を精査し遺構・遺物の有無を確認した。ほぼ全域で十和田a火山灰の堆積層が認められたため、遺構の検出が予想される部分では十和田a火山灰層上面で一度精査を実施し、その後再び地山面まで掘り下げ精査を行った。

実質調査面積は1,800㎡で調査対象面積の9.0%にあたる。

調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層簡易図の作成と写真記録によった。

7 確認調査の結果

a 層序

第7トレンチの層序は以下のとおりである。

- 第I層 黒色土 層厚10～30cm
- 第II層 十和田a火山灰 層厚5～10cm
- 第III層 黒褐色土 層厚10～15cm
- 第IV層 黒褐色土 層厚10～15cm
- 第V層 黒褐色～暗褐色土 地山漸移層 層厚10cm
- 第VI層 にぶい黄褐色土 地山（遺構確認面）

遺跡全体に十和田a火山灰降下層が認められ、急峻な斜面下では降下層の上層に流入層が堆積し、火山灰層が2層に重なる部分がある。遺跡は細い尾根上や斜面上に位置するため、第I層以下が流失する部分、第II～IV層のいずれかが流失する部分が認められる。第21トレンチは概ね第I層のみの残存で、表土は10～20cm程度である。第III・IV層が遺物包含層であり、これらの層以外からの遺物の出

土は皆無である。造成等による削平を受けていないためほぼ全域で遺物包含層が残存するが、植林された杉の根による攪乱は少ないと思われる。

b 検出遺構と出土遺物

調査区東側に位置する谷を挟む両尾根で遺構・遺物を検出した。検出した遺構は土坑（フラスコ状土坑を含む）14基、土器埋設遺構1基、焼土遺構1基、柱穴様ピット4基である。遺物は縄文土器及び剥片石器が出土した。

8 所見

a 遺跡の種類

縄文時代後期を主体とする、前期～晩期の集落跡の一部と推定される。

b 遺跡の範囲と工事区域

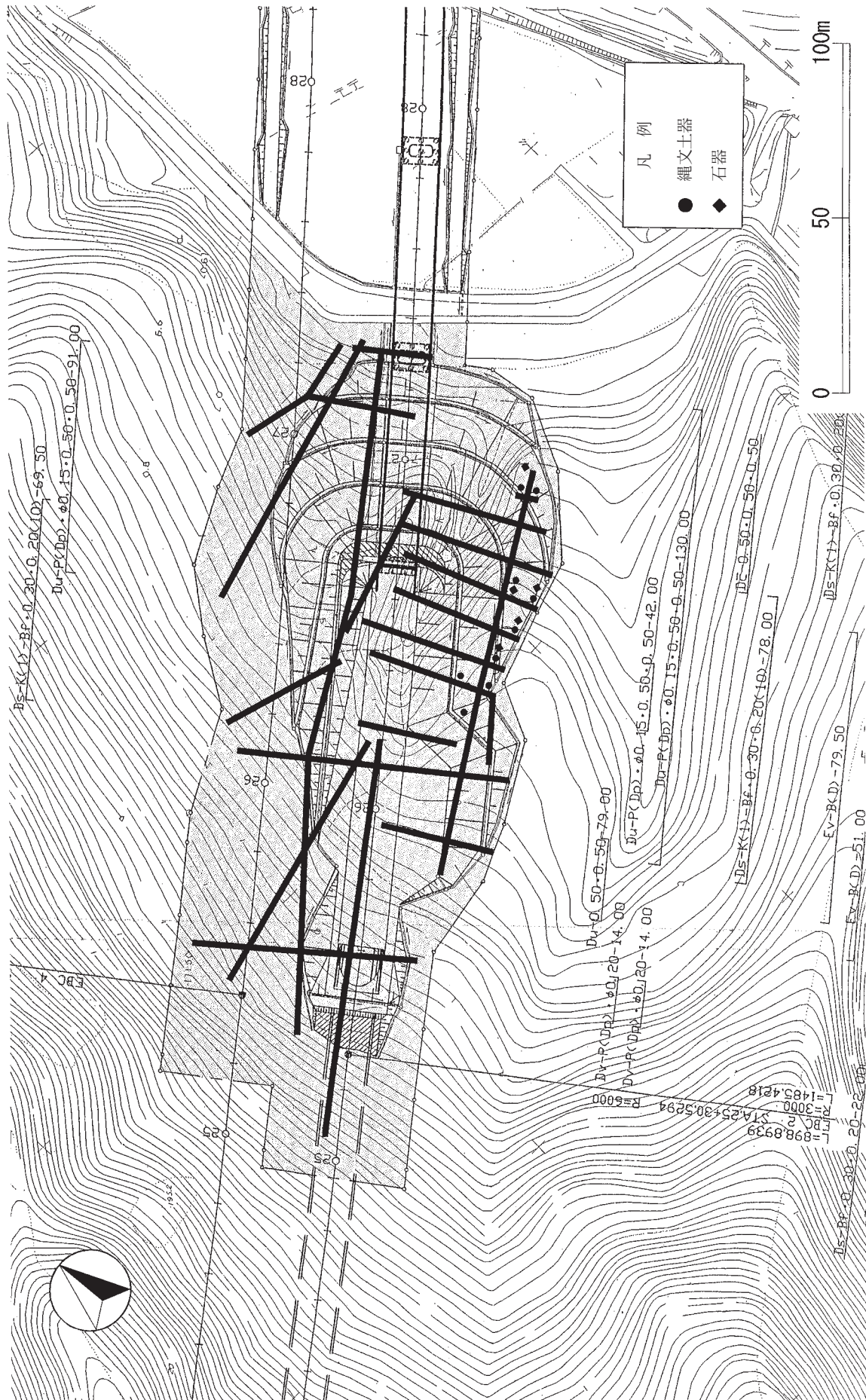
工事区域内の遺跡範囲は東側の谷を挟んだ北尾根400㎡及び南尾根2,000㎡の計2,400㎡である。両尾根に挟まれる谷部分については、捨て場、水場遺構等の検出が無かったため、遺跡範囲から除外した。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

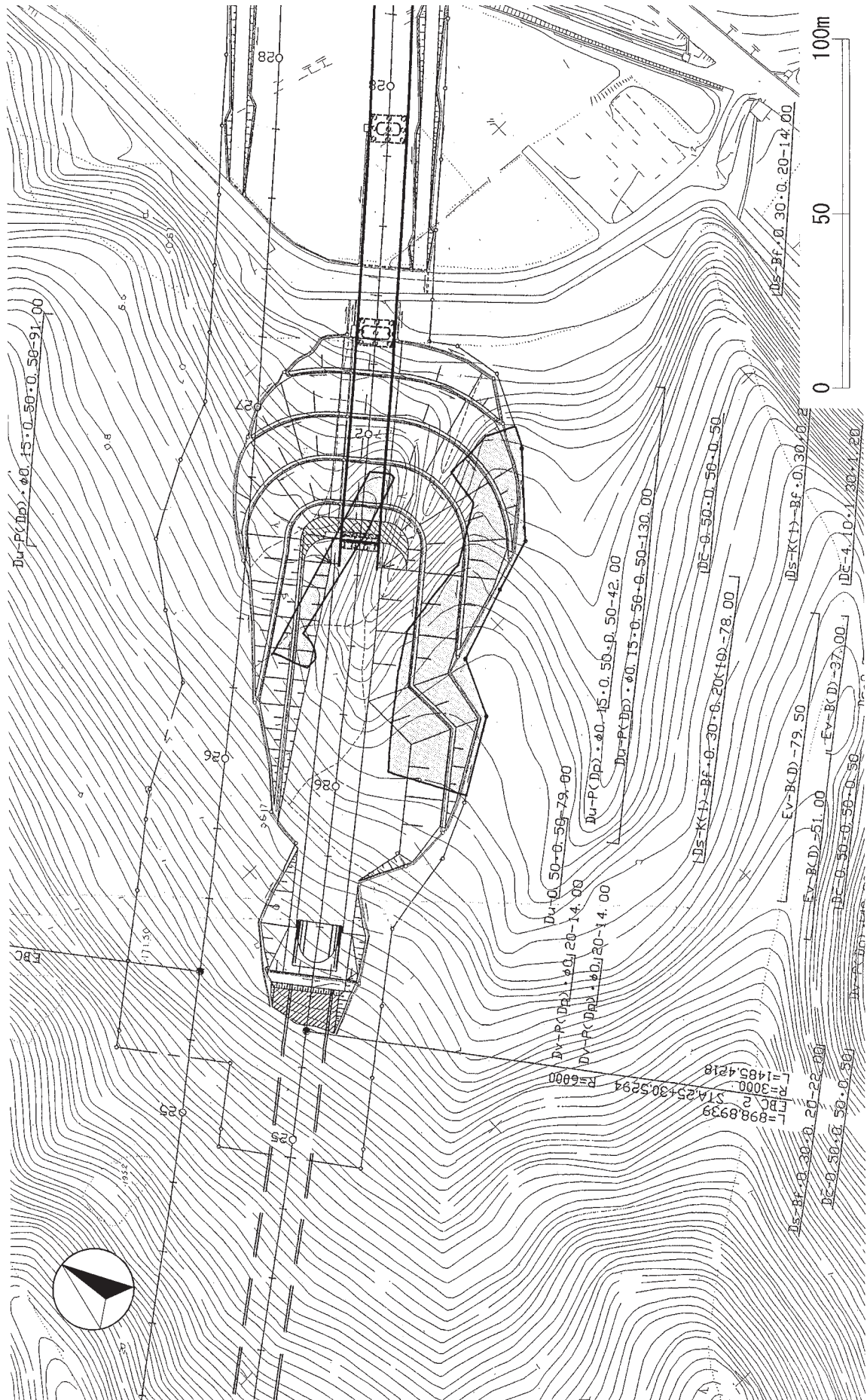
南北両尾根では土坑及びフラスコ状土坑の検出が予想される。南尾根は幅15～20m程の平坦面を有するため、竪穴住居跡を検出する可能性も推測される。遺物は縄文土器及び石器の出土が予想されるが、出土量は極めて少ないと思われる。



第47図 田ノ沢山遺跡位置図



第50図 田ノ沢山遺跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第51図 田ノ沢山遺跡範囲図



田ノ沢山遺跡
遠景（北東から）



田ノ沢山遺跡
第9トレンチ
土坑検出状況（南から）



田ノ沢山遺跡
第7トレンチ南端
土坑検出状況（東から）

②谷地中遺跡

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 遺跡所在地 | 大館市商人留字谷地中83外 |
| 2 確認調査期間 | 平成15年10月14日～11月4日 |
| 3 確認調査対象面積 | 1,000㎡ |
| 4 工事区域内遺跡面積 | 1,000㎡ |
| 5 遺跡の立地と現況 | |

a 立地

本遺跡はJR奥羽本線大館駅より北東へ4kmに位置し、標高80～81mの丘陵末端部に立地する。確認調査対象区域の北西約0.7kmには国指定天然記念物芝谷地湿原植物群落が位置する。

遺跡の南西約1.2kmには平安時代の数多くの竪穴住居跡が検出された釈迦内中台I遺跡がある。

b 現況

林であったが、確認調査対象区域は全て伐採されており、切り株及び枝葉が全域に残存する。

6 確認調査の方法

確認調査対象範囲には既に試掘調査でトレンチが設定されていたため、トレンチを若干延伸し、清掃した後、トレンチ精査を行った。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層簡易図の作成と写真記録によった。

実質調査面積は85㎡で調査対象面積の8.5%にあたる。

7 確認調査の結果

a 層序

第2トレンチの層序は以下のとおりである。

- 第I層 黒色土 層厚15～20cm
- 第II層 十和田a火山灰 層厚5～15cm
- 第III層 黒色土 層厚20～30cm
- 第IV層 黒褐色土 地山漸移層 層厚10～20cm
- 第V層 にぶい黄褐色土 地山 (遺構確認面)

第1トレンチ及び第2トレンチ北側は大部分が流失し第I・IV層のみ残存する。遺跡は南西に向かって傾斜するため、最深部では90cm程度の表土となる。

b 検出遺構と出土遺物

土坑（フラスコ状土坑を含む）5基、柱穴様ピット1基を検出した。遺物の出土は無い。

8 所見

a 遺跡の種類

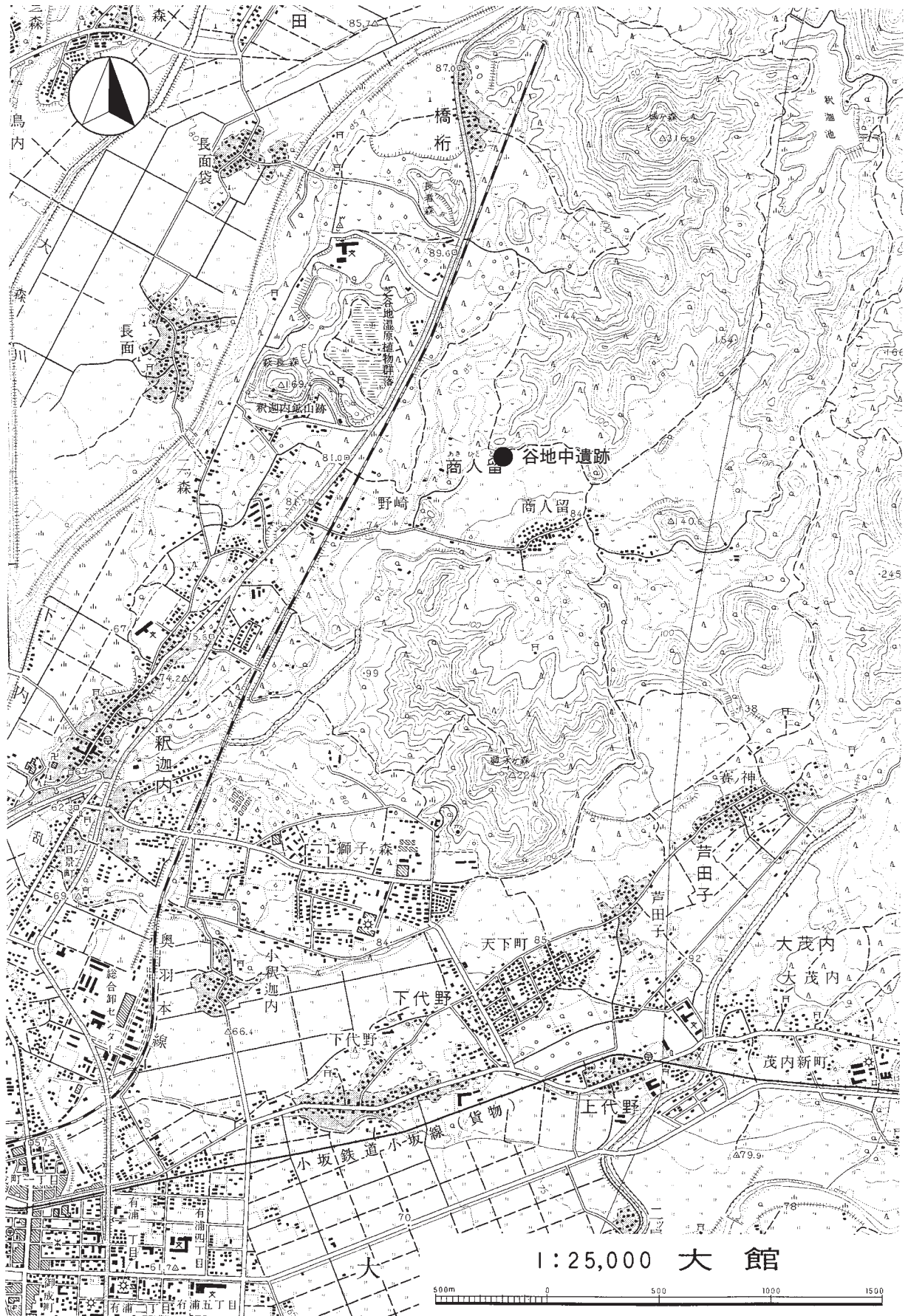
縄文時代の集落跡の一部と推定される。

b 遺跡の範囲と工事区域

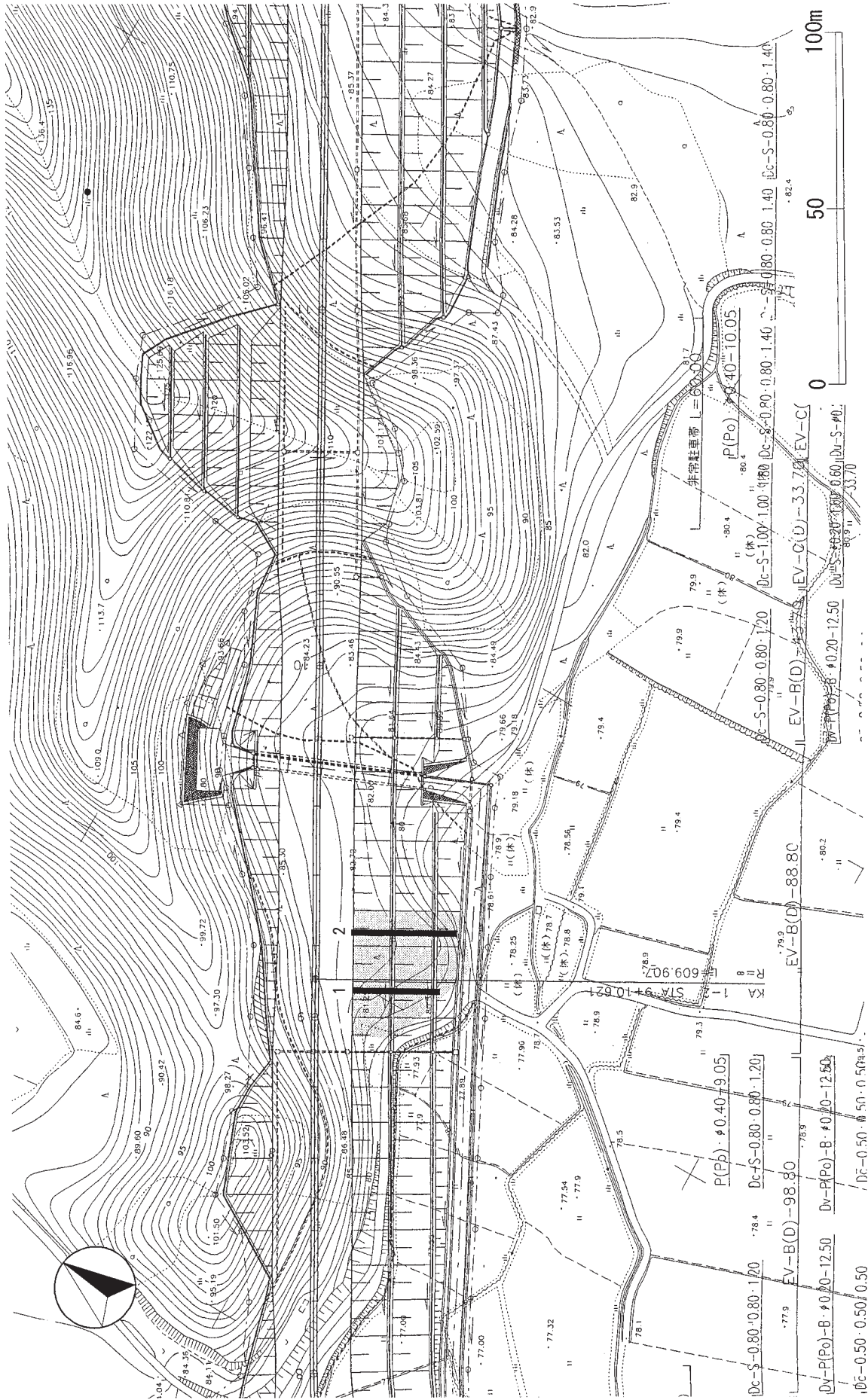
工事区域内の遺跡範囲は、確認調査対象範囲と同様1,000㎡である。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

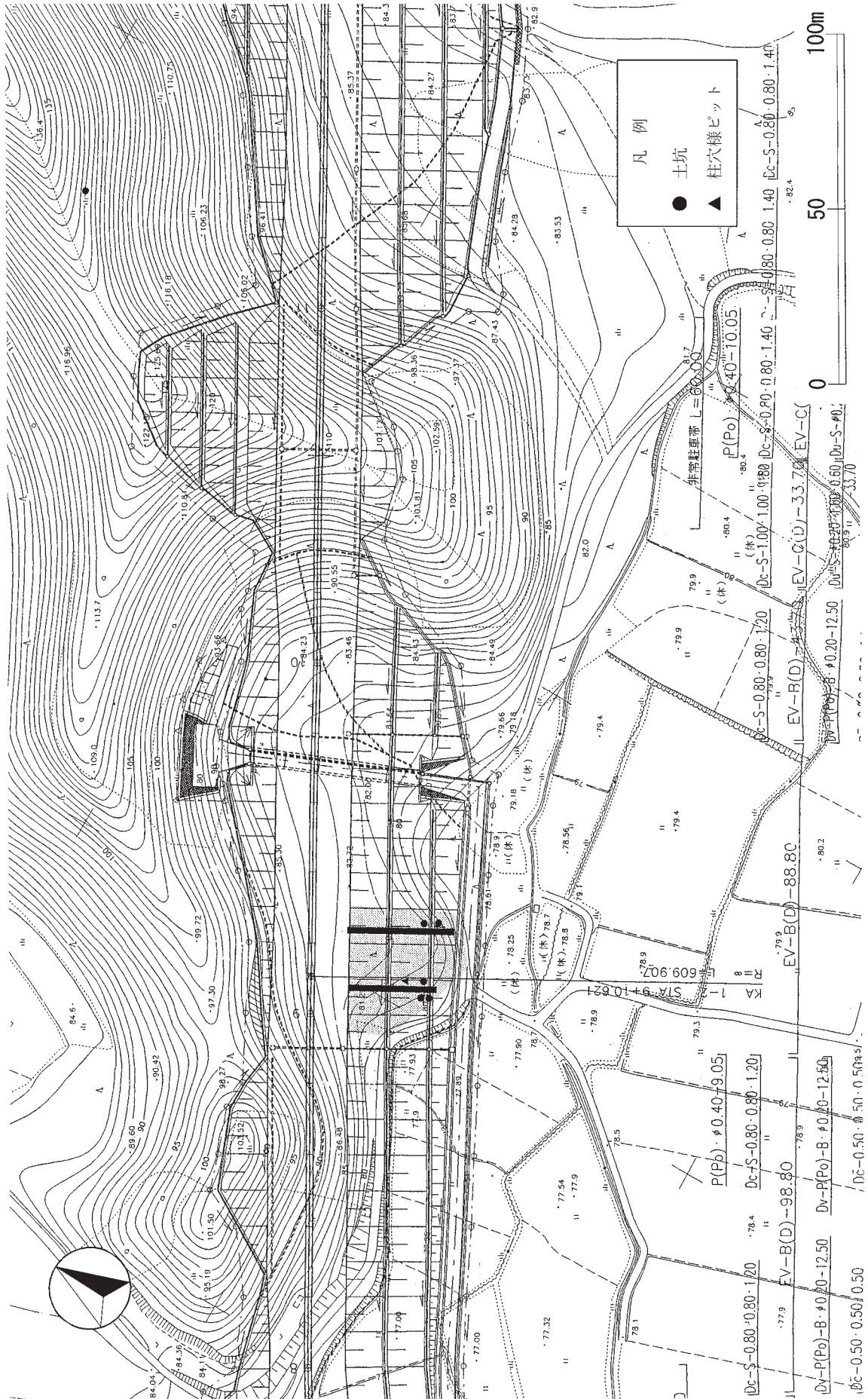
土坑及びフラスコ状土坑の検出が予想される。遺物は縄文土器及び石器の出土が予想されるが、出土量は極めて少ないと思われる。



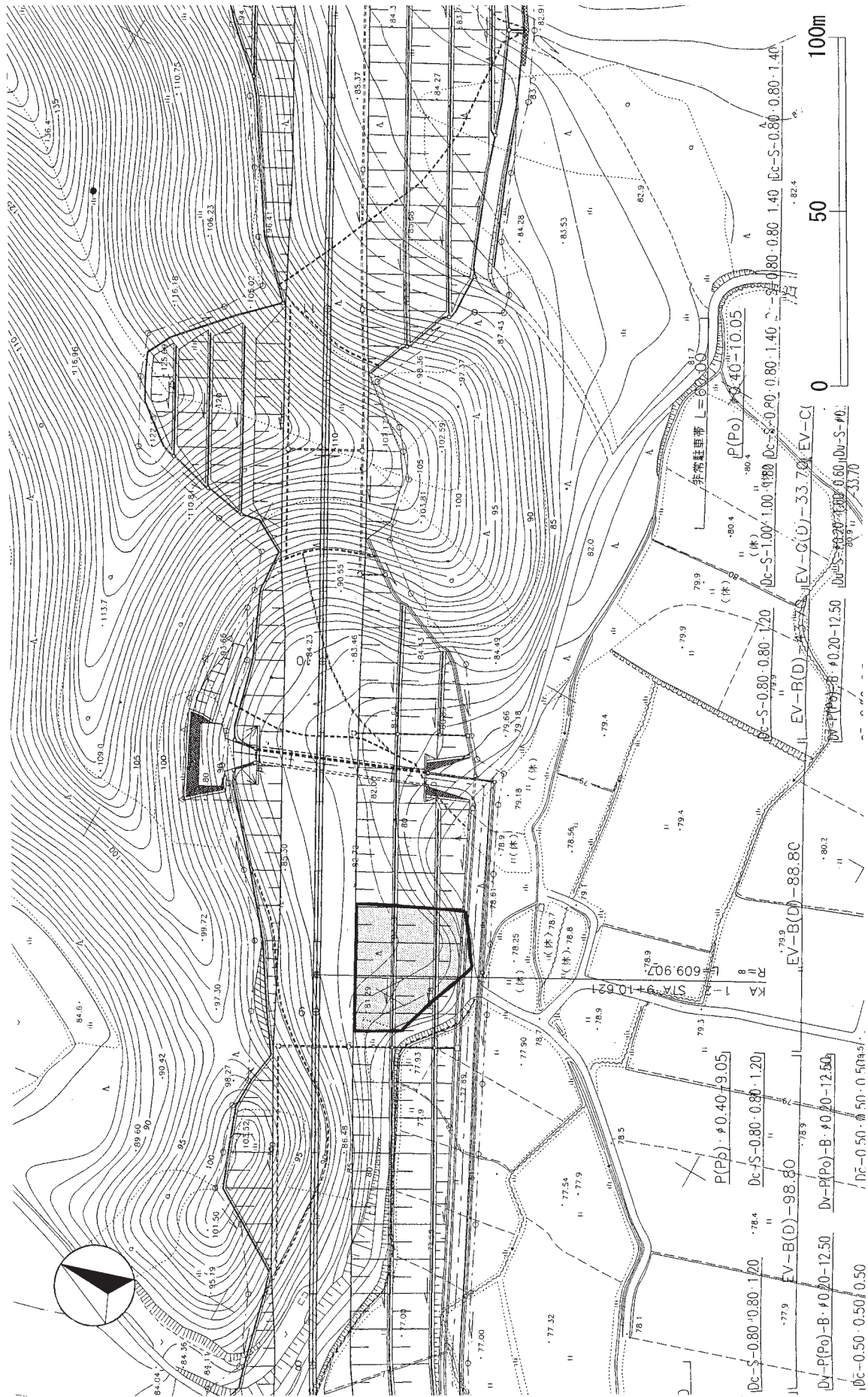
第52図 谷地中遺跡位置図



第53図 谷中遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第54図 谷地中遺跡確認調査結果図 (遺構検出地点)



第55図 谷地中遺跡範囲図



谷地中遺跡
第1トレンチ
土坑検出状況（南西から）



谷地中遺跡
第2トレンチ
土坑検出状況（南西から）



谷地中遺跡
第2トレンチ
土坑検出状況（南西から）

(2) 一般国道7号琴丘能代道路建設事業

①鴨巢館跡^{かもすだてあと}

- 1 遺跡所在地 能代市田床内字鴨巢70-40外
- 2 確認調査期間 平成15年5月20日～6月6日
- 3 確認調査対象面積 5,300㎡
- 4 工事区域内遺跡面積 600㎡
- 5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡は能代市街地の東方に位置し、能代市役所の南東約8km、JR東能代駅から東へ約4kmに所在する。米代川南岸に位置し、幟山（山頂部標高211m）丘陵地北西端の一角を占め、標高27～52mの舌状台地上にある。本館跡の立地する米代川南岸や対岸の段丘には、中世～近世の城館跡をはじめとして多くの遺跡が分布している。南へ約2kmの地点には、史跡に指定された檜山安東氏の居城である檜山安東氏城館跡がある。東側の沢を挟んで鴨巢Ⅰ遺跡・鴨巢Ⅱ遺跡が存在し、さらに東側には羽州街道があり現在は東北自然歩道として活用されている。

b 現状

山林であるが、現在は伐採済みであり、切り株と枝木が全域に残っている。

6 確認調査の方法

現地形および現地表面で城館跡を確認した。さらに地形を考慮してトレンチを設定し、重機及び人力で表土を掘削した後、精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は350㎡で対象面積の約7%に相当する。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図の作成と写真撮影によった。

7 確認調査の結果

a 層序

平坦部（第1トレンチ）の基本層序は、以下のとおりである。

- 第Ⅰ層 表土 層厚5～10cm
- 第Ⅱ層 黒褐色土（10Y R 2/2） 層厚10～20cm
- 第Ⅲ層 明褐色土（7.5Y R 5/8）地山 遺構確認面

沢部（第3トレンチ）の基本層序は、以下のとおりである。

- 第Ⅰ層 表土 層厚5～10cm
- 第Ⅱ層 褐色土（7.5Y R 4/4） 層厚15～45cm
- 第Ⅲ層 黒褐色土（10Y R 2/2） 層厚10～30cm
- 第Ⅳ層 黄褐色土（10Y R 5/6） 地山

b 検出遺構と出土遺物

遺構は、南東側平坦部において幅78～80cm、深さ52～54cmの空堀を確認した。他に遺構は検出できなかった。また、遺物は少なく、第8トレンチ南西側から土師器片が1点出土した。沢にかかる第3トレンチからは土師器・須恵器が数点出土したが、沢の上部から流れ込んだものと判断される。

8 所見

a 遺跡の種類

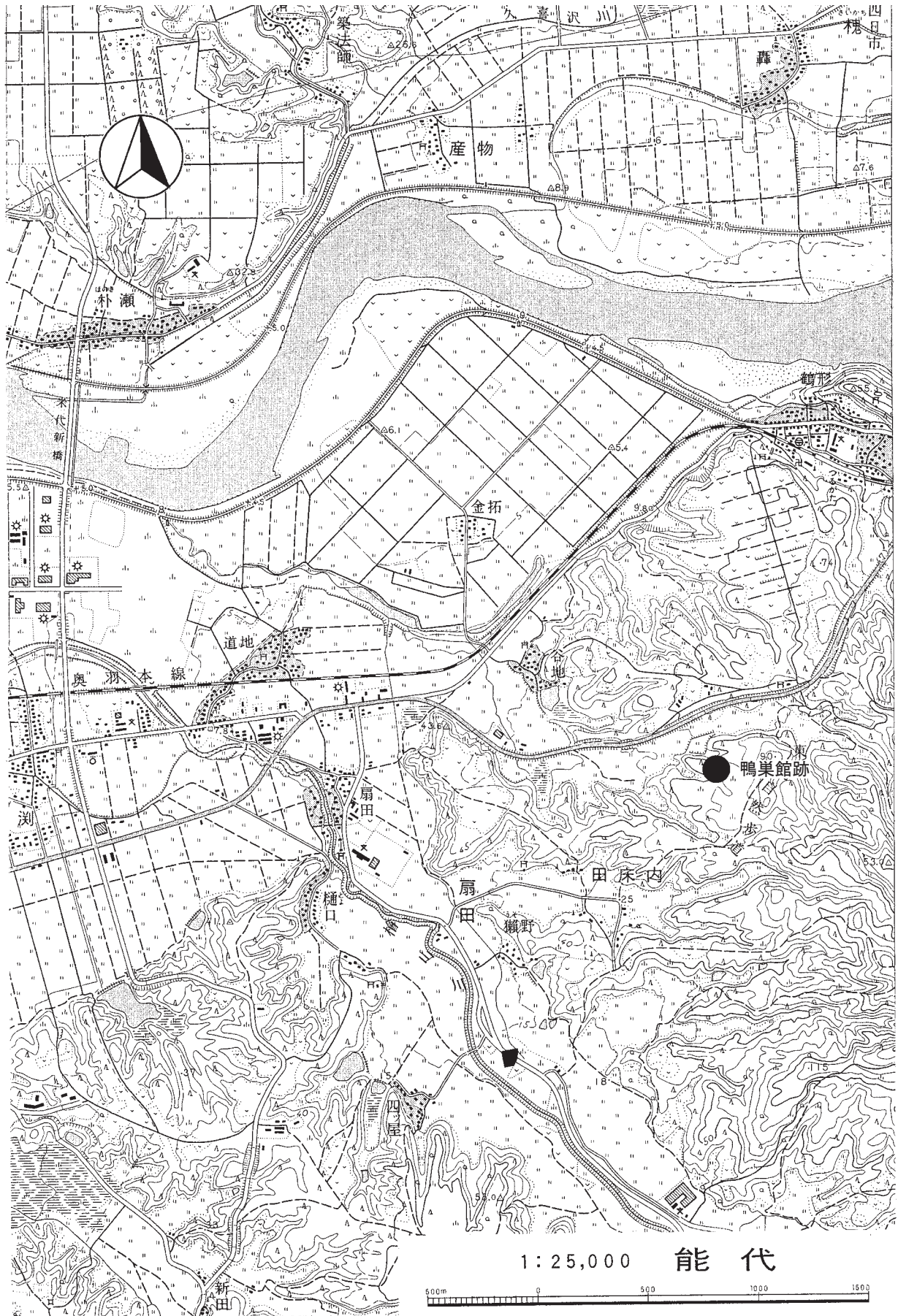
中世の城館跡であると考えられる。

b 遺跡の範囲と工事区域

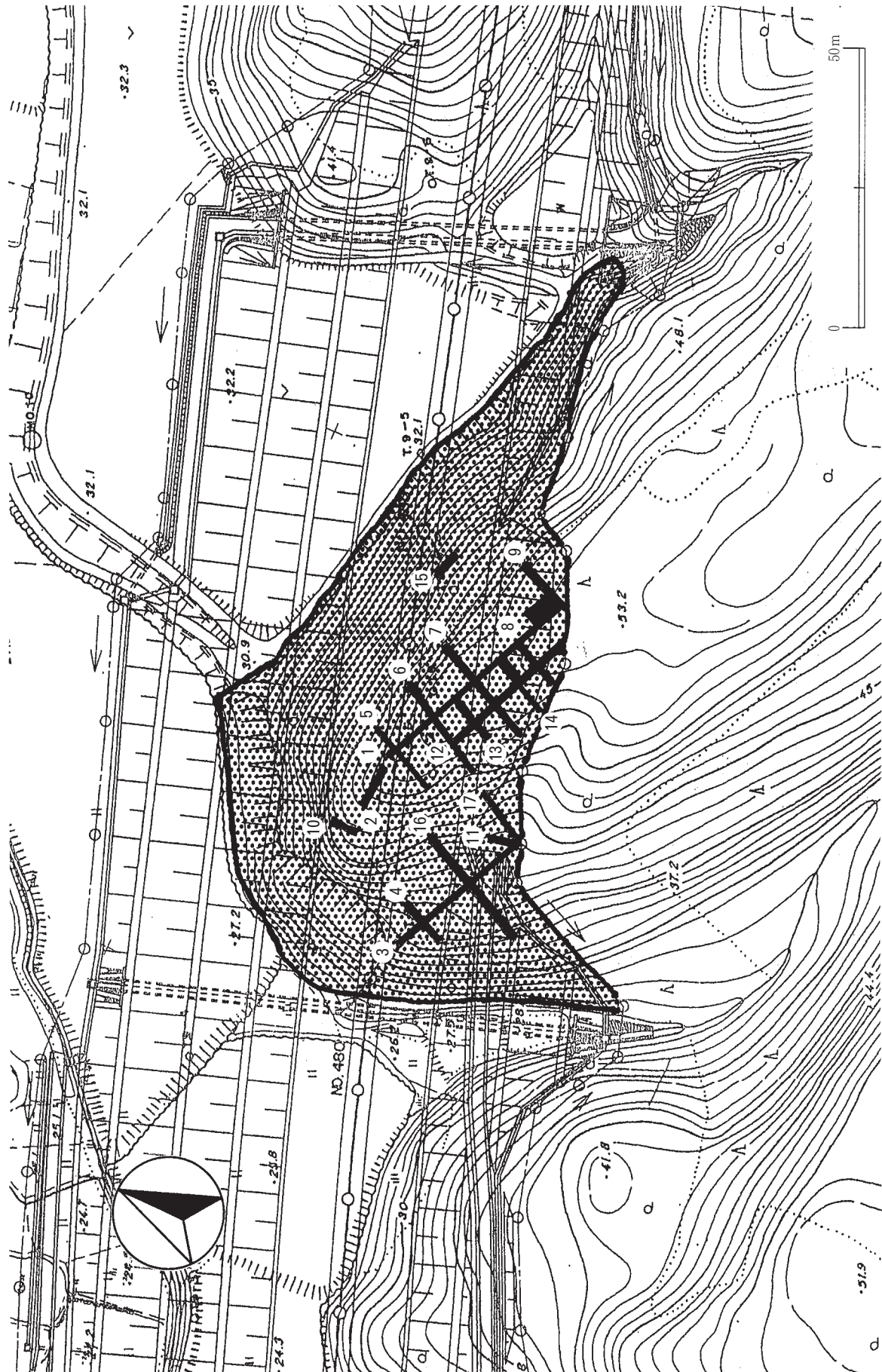
工事区域内における遺跡範囲は、南側平坦部の600㎡である。西側の沢及び東側の急斜面は、遺構が検出されなかったため範囲から除外した。また、北西部は地滑りのため岩盤が露出しており範囲から除外した。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は中世の城館に伴う廓、空堀、掘立柱建物跡、柱列、土坑などが検出されると考えられる。また、古代の遺物も出土したことにより、古代の遺構が検出される可能性もある。遺物は古代の土師器・須恵器、中世の陶磁器などが出土すると思われる。



第56図 鴨巣館跡位置図



第57図 鴨巣館跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第58図 鴨巣館跡確認調査結果図 (遺構検出地点)



第59図 鴨巣館跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第60図 鴨巣館跡範囲図



鴨巣館跡
遠景（東から）



鴨巣館跡
第12トレンチ
空堀断面（南から）



鴨巣館跡
調査状況

②鴨巢^{かもす}I遺跡

- 1 遺跡所在地 能代市田床内字鴨巢27-11外
- 2 確認調査期間 平成15年7月1日～7月23日
- 3 確認調査対象面積 5,650㎡
- 4 工事区域内遺跡面積 2,150㎡
- 5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡は能代市街地の東方に位置し、能代市役所の南東約9km、JR東能代駅から東へ約5kmに所在する。米代川南岸に位置し、幟山（山頂部標高211m）丘陵地北西端の一角を占め、標高約32～56mの舌状台地上にある。本遺跡の立地する米代川南岸や対岸の段丘には、中世～近世の城館跡をはじめとして多くの遺跡が分布している。南へ約3kmの地点には、史跡に指定された檜山安東氏の居城である檜山安東氏城館跡がある。東側には羽州街道があり、現在は東北自然歩道として活用されている。本遺跡の東側には鴨巢II遺跡が隣接し、西側の沢を挟んで鴨巢館跡が存在する。

b 現状

山林であるが、現在は伐採済みであり、切り株と枝木が全域に残っている。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機及び人力で表土を掘削した後、精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は570㎡で対象面積の約10%に相当する。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図の作成と写真撮影によった。

7 確認調査の結果

a 層序

平坦部（第1トレンチ）の基本層序は、以下のとおりである。

- 第I層 表土 層厚5～15cm
- 第II層 黒褐色土（10Y R 2/2） 層厚10～20cm
- 第III層 明褐色土（7.5Y R 5/6） 層厚10～15cm 遺構確認面
- 第IV層 褐色土（7.5Y R 4/6） 地山 遺構確認面

第III層での遺構確認は、黒褐色土のプランであれば容易に確認できる。しかし、第III層に類似する明褐色土のプランの場合は確認するのに困難を極める。第IV層での遺構確認は、遺構の覆土が第IV層と類似することが多く、やはり確認するのに困難であった。

沢部（第14トレンチ）の基本層序は、以下のとおりである。

- 第I層 表土 層厚10～15cm
- 第II層 黒褐色土（10Y R 2/2） 層厚10～50cm
- 第III層 黒色土（10Y R 2/1） 層厚0～15cm
- 第IV層 黒褐色土（10Y R 2/2） 層厚0～30cm
- 第V層 黒褐色土（10Y R 3/2） 層厚10～60cm
- 第VI層 褐色土（7.5Y R 4/4） 層厚0～20cm
- 第VII層 暗褐色土（10Y R 3/3） 層厚0～30cm

第3章 調査の記録

第Ⅷ層 暗褐色土 (7.5Y R3/3) 層厚 0～30cm

第Ⅸ層 暗褐色土 (7.5Y R3/4) 層厚 0～10cm

第Ⅹ層 暗褐色土 (10Y R3/3) 層厚 0～30cm

第Ⅺ層 暗褐色土 (7.5Y R3/3) 層厚 0～40cm

第ⅩⅡ層 黒色土 (7.5Y R2/1) 層厚 0～50cm

第ⅩⅢ層 黒褐色土 (10Y R2/2) 層厚 0～60cm

第ⅩⅣ層 褐色土 (7.5Y R4/6) 地山

第Ⅴ層～第Ⅷ層は多くの土師器、須恵器、鉄滓を含む遺物包含層である。第Ⅸ層と第Ⅹ層は、焼土ブロックを多く含んでいる。

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物ともに調査区の平坦部から発見されている。遺構は、竪穴住居跡、焼土遺構、石囲炉、鍛冶炉、溝跡、土坑、柱穴様ピットが検出された。遺物は、古代の土師器が調査区全域から出土し、遺物検出地点に印している所は特に遺物の多い地点である。この他に古代の須恵器や鉄滓、縄文土器と石器が数点、珠洲系陶器などが出土した。沢部からは、多量の土師器・須恵器と鉄滓などが出土した。

8 所見

a 遺跡の種類

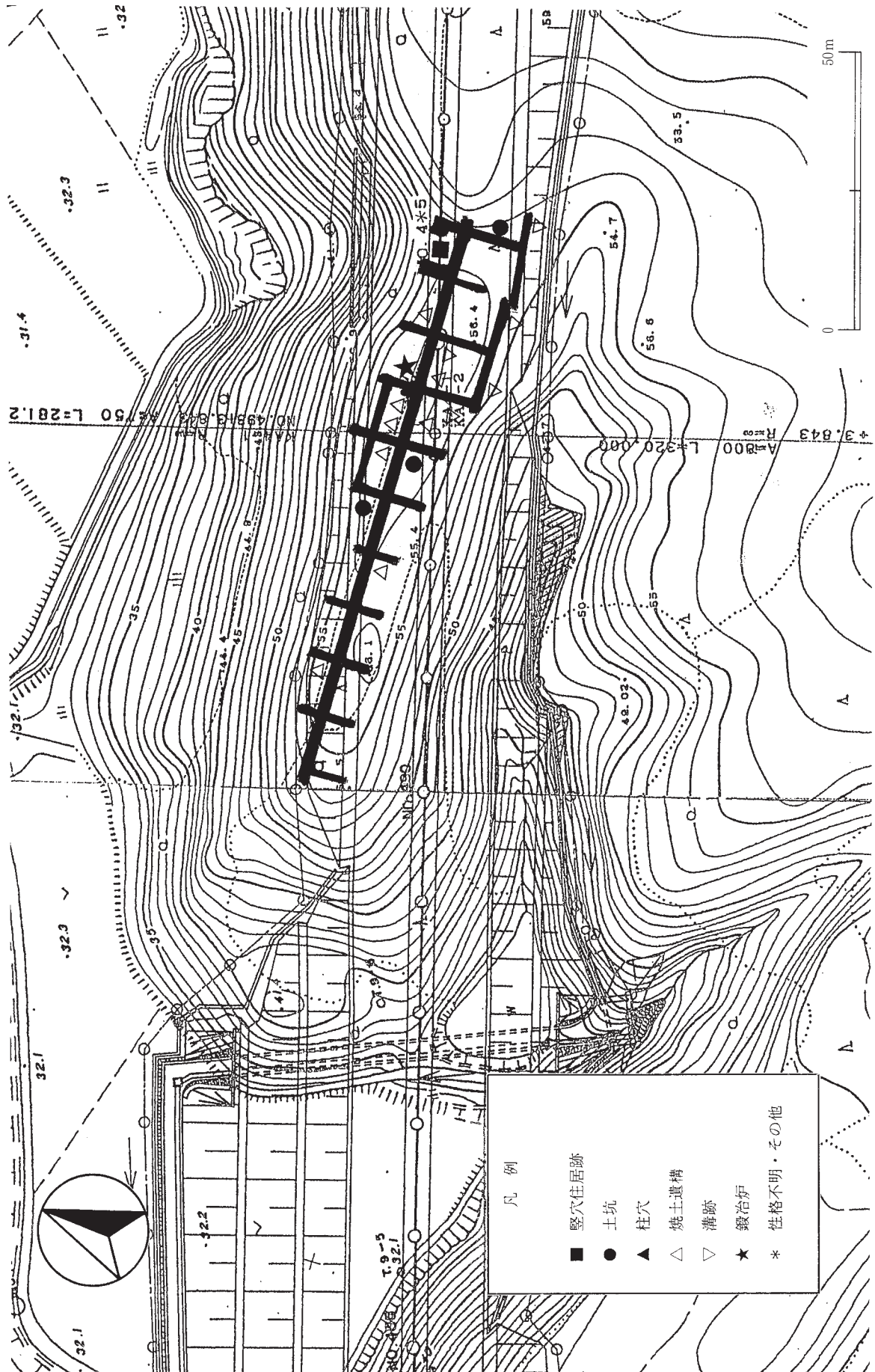
古代の鉄生産に関する工房跡を伴う、集落跡であると考えられる。

b 遺跡の範囲と工事区域

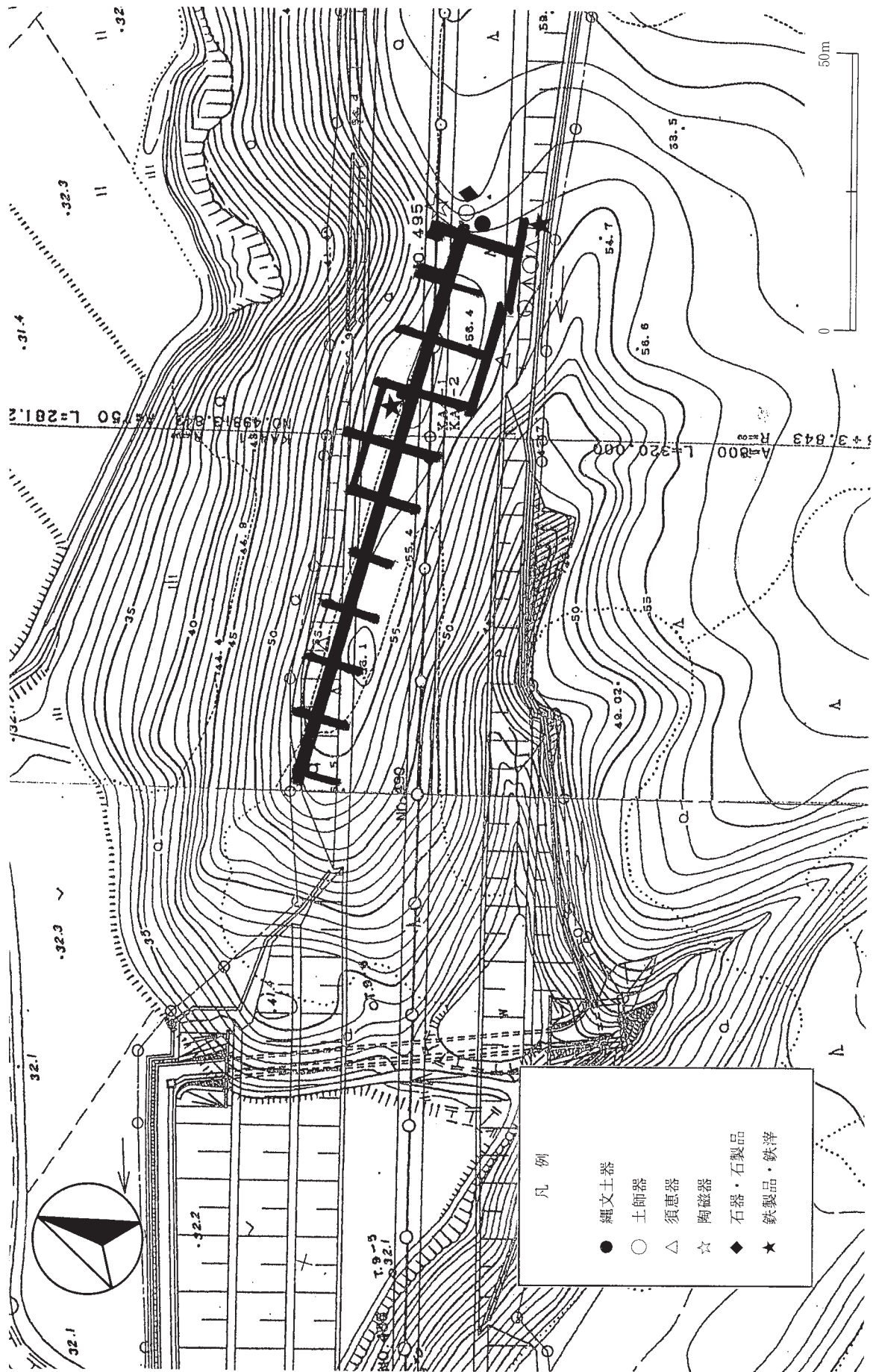
工事区域内における遺跡範囲は、中央の平坦部2,150㎡である。南側と北側の急斜面は地山露出地や地表面の観察により、遺構が存在する可能性はないと判断し範囲から除外した。また、西側は地滑りを起こし危険であるため調査できないと判断し範囲から除外した。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

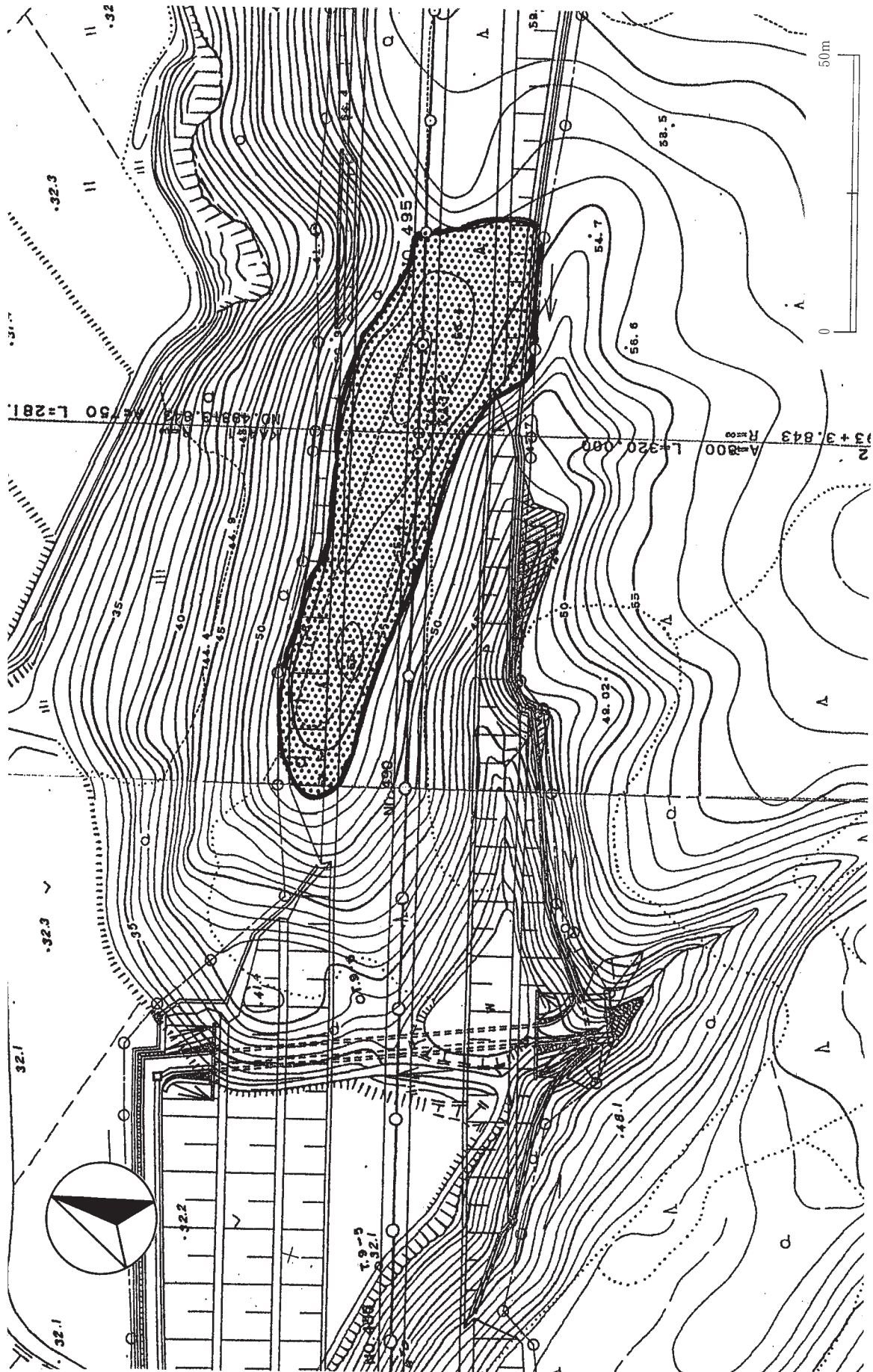
主な遺構は古代の竪穴住居跡、焼土遺構、鍛冶炉、掘立柱建物跡、柱列、溝跡、土坑などが検出されると考えられる。遺物は古代の土師器・須恵器、鉄滓などが出土すると思われる。縄文土器片や珠洲系陶器が少量出土したことから、縄文時代や中世の遺構・遺物の発見の可能性もある。



第63図 鴨巣 I 遺跡確認調査結果図 (遺構検出地点)



第64図 鴨巣 I 遺跡確認調査結果図 (遺物出土地点)



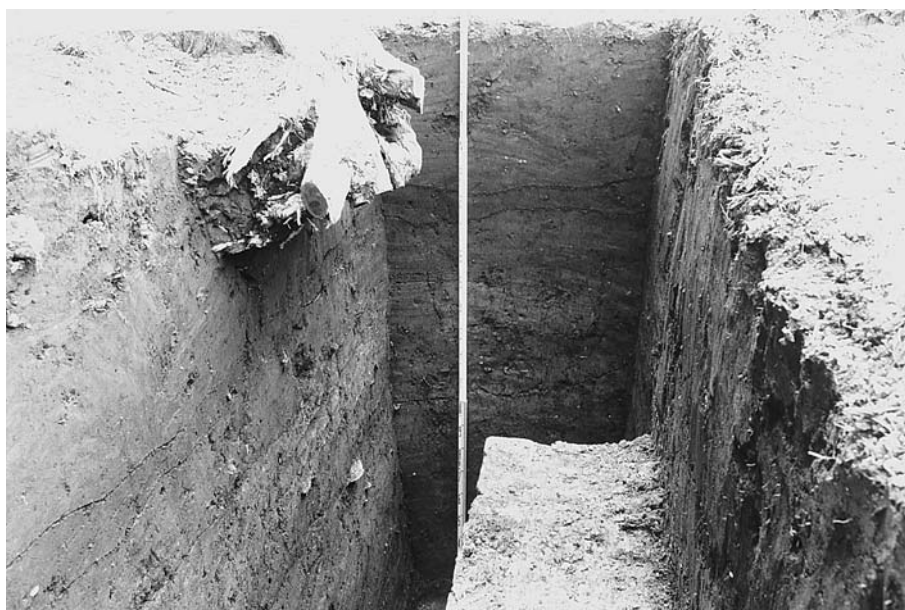
第65図 鴨巣 I 遺跡範囲図



鴨巣 I 遺跡
第9トレンチ
鍛冶炉検出状況（北から）



鴨巣 I 遺跡
第1トレンチ
焼土遺構検出状況（南から）



鴨巣 I 遺跡
第14トレンチ断面（東から）

③鴨巢Ⅱ遺跡

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 遺跡所在地 | 能代市字鴨巢73-7外 |
| 2 確認調査期間 | 平成15年7月22日～9月1日 |
| 3 確認調査対象面積 | 8,300㎡ |
| 4 工事区域内遺跡面積 | 4,000㎡ |

5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡は能代市街地の東方に位置し、能代市役所の南東約10km、J R 東能代駅から東へ約6kmに所在する。米代川南岸に位置し、幟山（山頂部標高211m）丘陵地北西端の一角を占め、標高32～65mの舌状台地上にある。本遺跡の立地する米代川南岸や対岸の段丘に、中世～近世の城館跡をはじめとして多くの遺跡が分布している。南へ約4kmの地点には、史跡に指定された檜山安東氏の居城である檜山安東氏城館跡がある。東側には羽州街道があり、現在は東北自然歩道として活用されている。本遺跡の西側には鴨巢Ⅰ遺跡が隣接し、さらに西側の沢を挟んで鴨巢館跡が存在する。

b 現状

山林であるが、現在は伐採済みであり、切り株と枝木が全域に残っている。南側は東西にかけて段状の地形となっている。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、人力で表土を掘削した後、精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は605㎡で対象面積の約7%に相当する。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図の作成と写真撮影によった。

7 確認調査の結果

a 層序

平坦部（第1トレンチ）の基本層序は、以下のとおりである。

- 第Ⅰ層 表土 層厚10～20cm
- 第Ⅱ層 黒褐色土（10Y R 2/2） 層厚10～30cm
- 第Ⅲ層 明褐色土（7.5Y R 5/6） 層厚10～30cm 遺構確認面
- 第Ⅳ層 褐色土（7.5Y R 4/6） 地山 遺構確認面

第Ⅲ層での遺構確認は、黒褐色土のプランであれば容易に確認できる。しかし、第Ⅲ層と類似する明褐色土のプランの場合は確認するのに困難を極める。第Ⅲ層で平面プランの確認のできないものであっても、断面によって第Ⅲ層から掘り込まれている遺構を確認することができた例もある。第Ⅳ層での遺構確認は、遺構の覆土が第Ⅳ層と類似することが多くやはり確認するのに困難であった。

段上地形部（第2トレンチ）の基本層序は、以下のとおりである。

- 第Ⅰ層 表土 層厚10～20cm
- 第Ⅱ層 黒褐色土（10Y R 2/2） 層厚5～30cm
- 第Ⅲ層 黒褐色土（10Y R 3/2） 層厚10～20cm
- 第Ⅳ層 暗褐色土（7.5Y R 3/3） 層厚30～40cm 遺構確認面

第3章 調査の記録

第V層 黒褐色土 (10Y R 2/2) 層厚40～60cm

第VI層 褐色土 (7.5Y R 4/6) 地山 遺構確認面

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物ともに調査区の平坦部及び段上地形部から発見されている。遺構は、竪穴住居跡、焼土遺構、溝跡、土坑、柱穴様ピットが検出された。遺物は古代の土師器が全域から出土し、遺物検出地点に印している所は特に遺物の多い地点である。この他に古代の須恵器や鉄滓、縄文土器や石器などが数点出土した。

8 所見

a 遺跡の種類

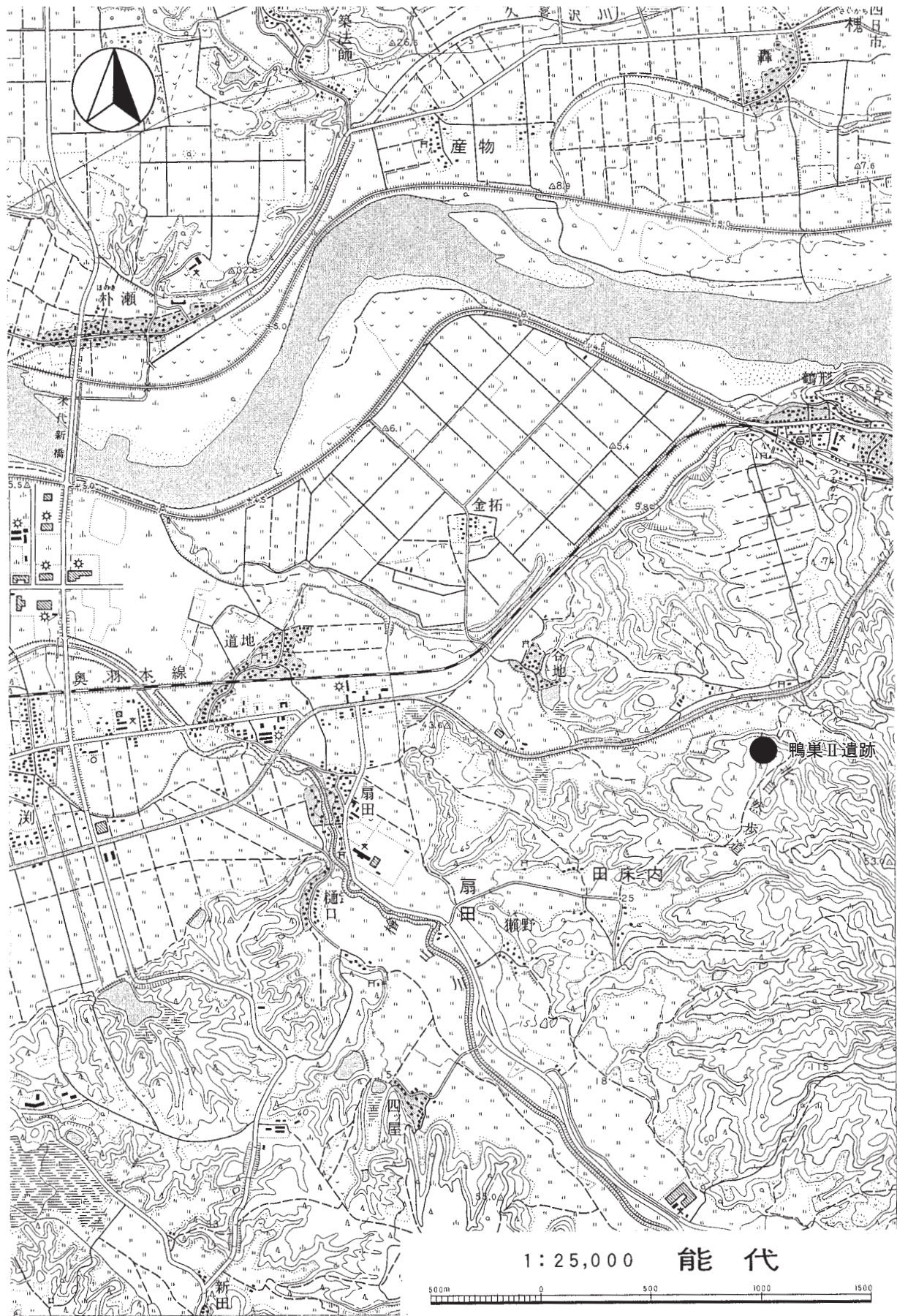
古代の集落跡であると考えられる。

b 遺跡の範囲と工事区域

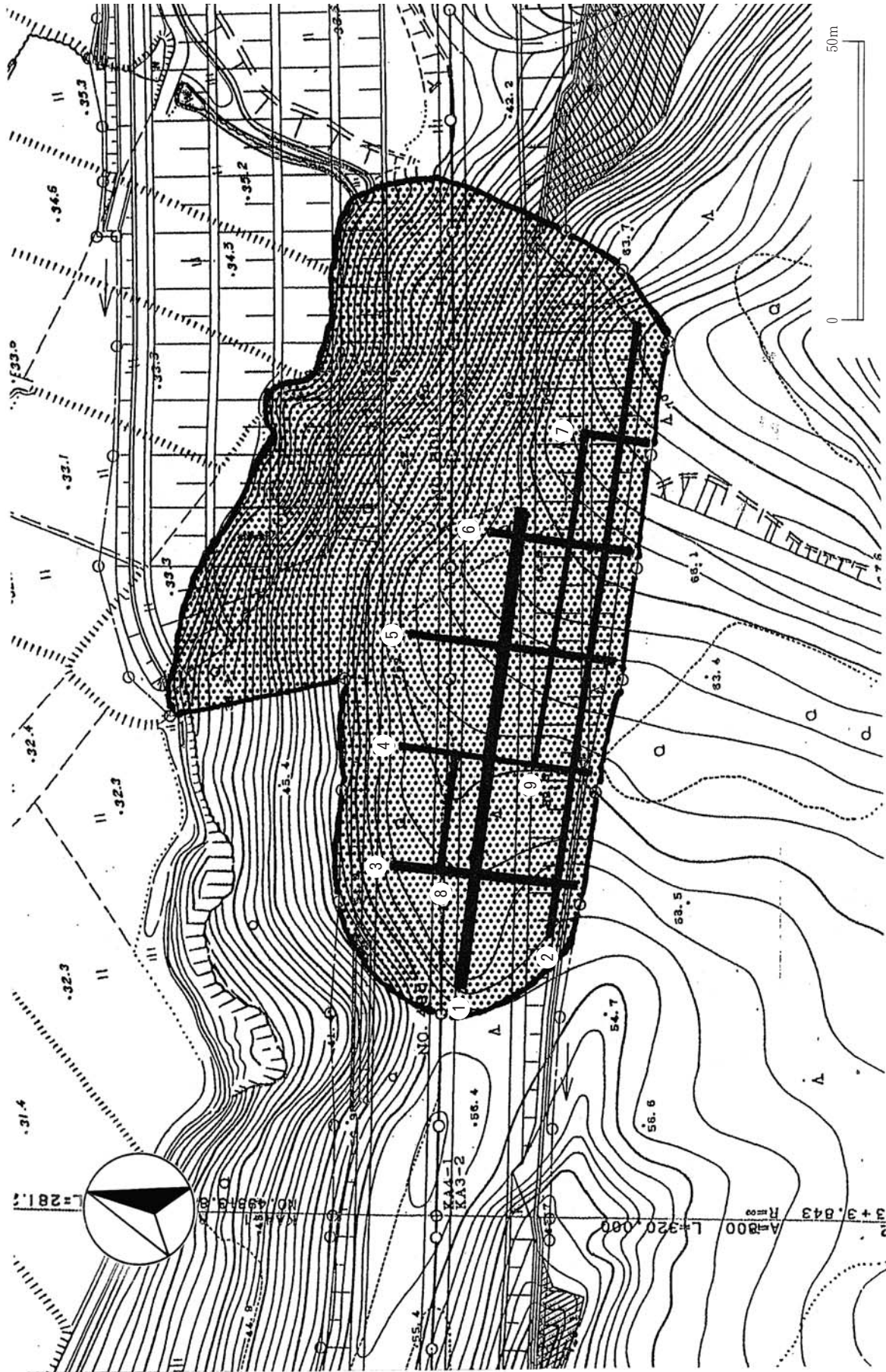
工事区域内における遺跡範囲は、平坦部4,000㎡である。北側の急斜面は地山露出地や地表面の観察により、遺構が存在する可能性はないと判断し範囲から除外した。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

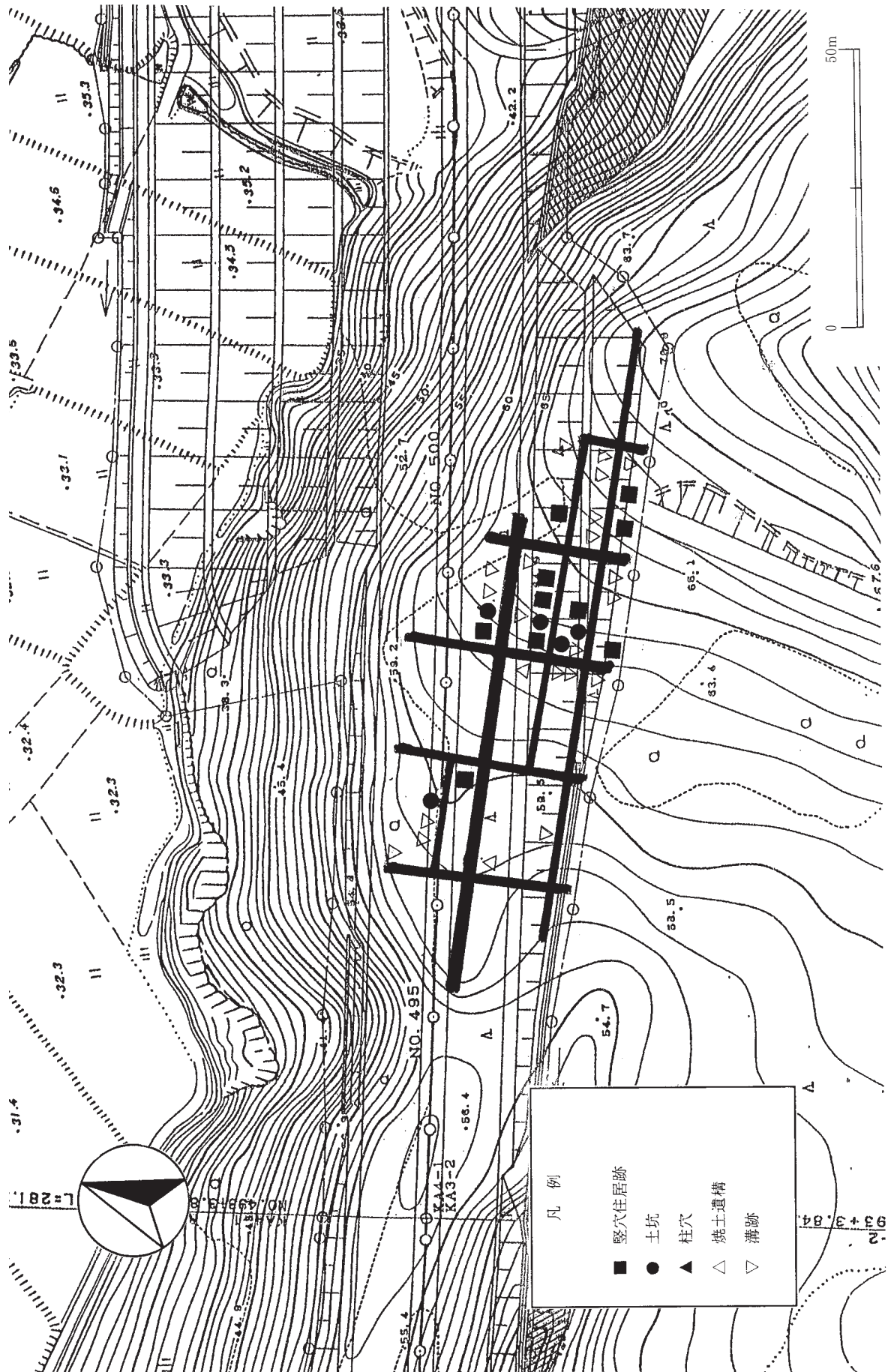
主な遺構として、古代の竪穴住居跡が密集した状態で多数検出されると推定される。その他に、焼土遺構、鍛冶炉、掘立柱建物跡、柱列、溝跡、土坑なども検出されると考えられる。遺物は古代の須恵器・土師器、鉄滓などが多数出土すると思われる。縄文土器片が少量出土したことから、縄文時代の遺構・遺物の発見の可能性もある。



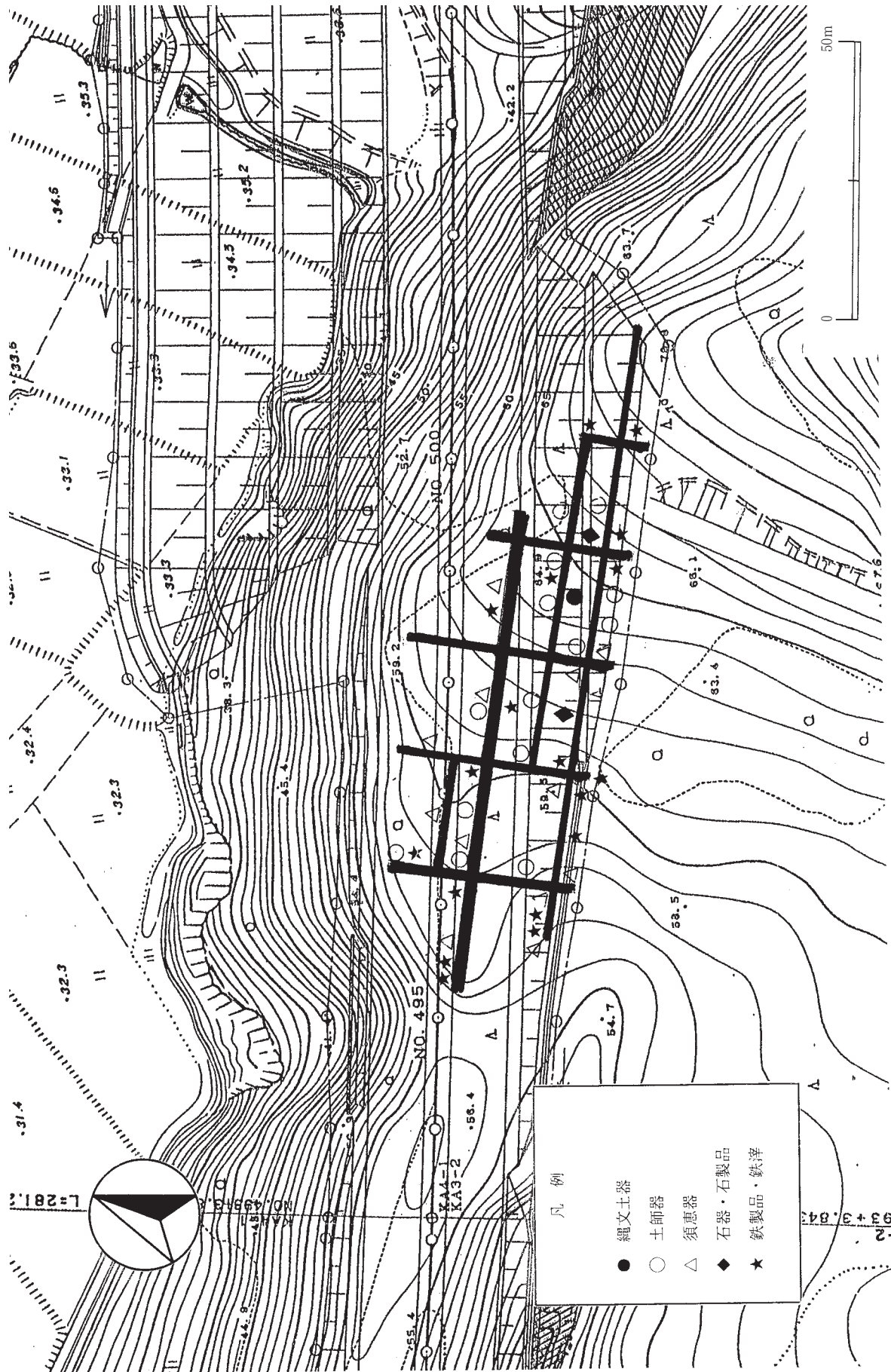
第66図 鴨巣Ⅱ遺跡位置図



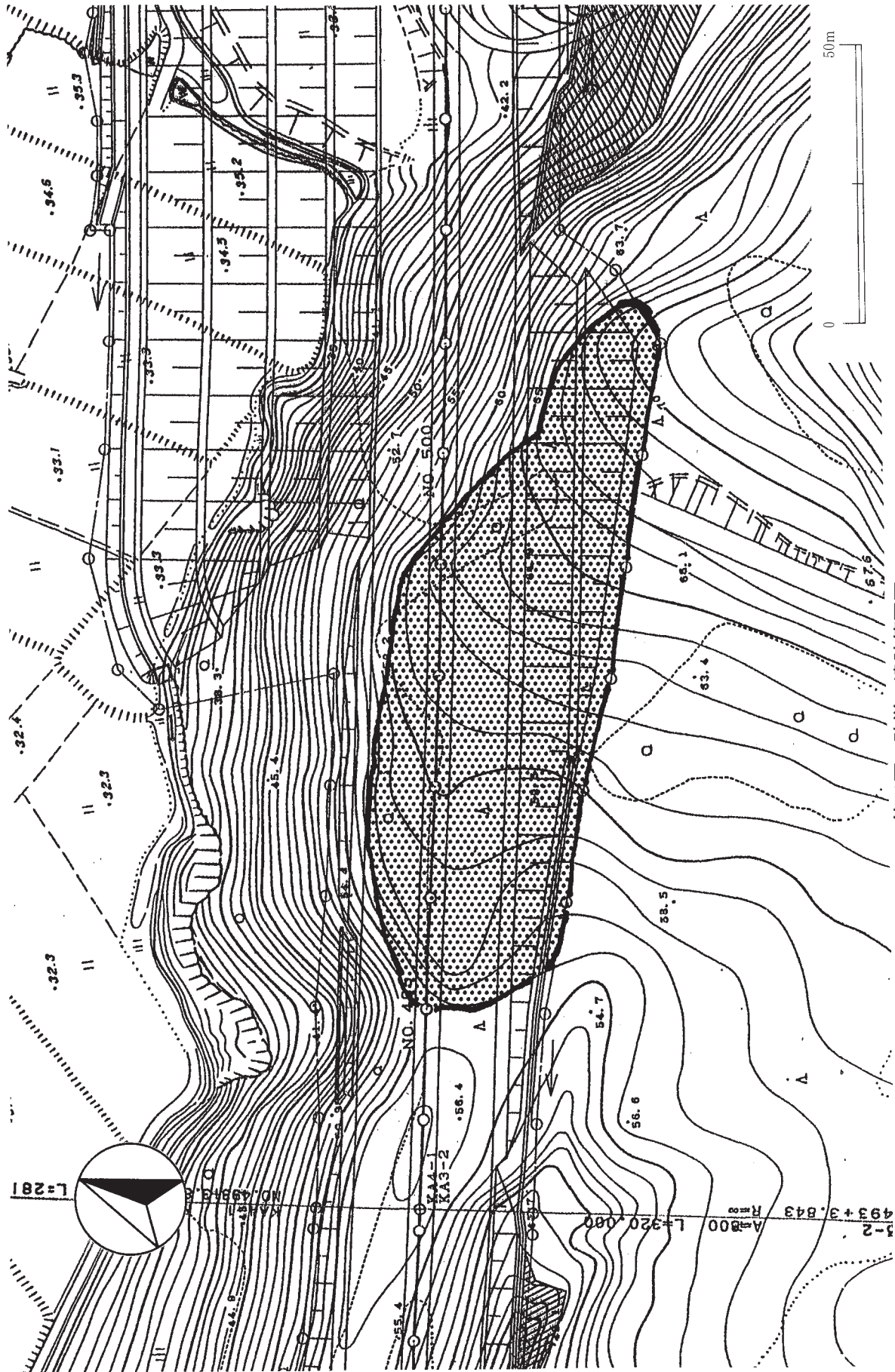
第67図 鴨巣Ⅱ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第68図 鴨巣Ⅱ遺跡確認調査結果図(遺構検出地点)



第69図 鴨巣Ⅱ遺跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第70図 鴨巣Ⅱ遺跡範囲図



鴨巣Ⅱ遺跡
第9トレンチ
竪穴住居跡・土坑
検出状況（南東から）



鴨巣Ⅱ遺跡
第8トレンチ
土坑検出状況（西から）



鴨巣Ⅱ遺跡
第3トレンチ
土師器出土状況（北から）

せりかわだて
④ 芹川館跡

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 遺跡所在地 | 秋田県山本郡二ツ井町字湯ノ沢西ノ台1外 |
| 2 確認調査期間 | 平成15年11月17日～12月5日 |
| 3 確認調査対象面積 | 7,000㎡ |
| 4 工事区域内遺跡面積 | 2,500㎡ |
| 5 遺跡の立地と現況 | |

a 立地

芹川館跡は米代川の左岸、J R富根駅の南西およそ2km、国道7号線の南に発達した大台野台地の北側縁辺部に立地する。館跡の範囲は広く、能代・二ツ井両市町域を跨ぐ東西1kmに及び、その形状は南側に弧を置く半円形である。北部水田との比高はおよそ90m、北端からは東西に米代川中下流域、北方に常磐川合流部を望むことができる。今回の確認調査対象範囲は、館跡全域の南端部にあたる。

b 現況

館跡はほとんどが山林に覆われているが、確認調査対象範囲は緩やかな地形の牧草地と斜面地の伐採済み植林地からなる。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、通し番号を付した。重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。切り株の多い東側斜面地には人手による坪掘りを施し、トレンチと同様の調査を実施した。

実質調査面積は1,700㎡で、調査対象面積の24.2%にあたる。

7 確認調査の結果

a 層序

確認調査対象範囲の層序は、各トレンチの土層観察より以下の通り分層した。

- | | | | |
|-----|-----------------|-----|-----------|
| 第Ⅰ層 | 黒色土(10Y R1.7/1) | 表土層 | 層厚10～25cm |
| 第Ⅱ層 | 黒褐色土(10Y R2/2) | | 層厚0～20cm |
| 第Ⅲ層 | 暗褐色土(10Y R3/3) | | 層厚5～20cm |
| 第Ⅳ層 | 褐色土(10Y R4/4) | 漸移層 | 層厚5～15cm |
| 第Ⅴ層 | 褐色土(7.5Y R4/6) | 地山層 | |

第Ⅲ層が縄文時代の、第Ⅳ層及び第Ⅴ層上位が旧石器時代の遺物の包含層である。遺構は、第Ⅳ層・第Ⅴ層の上面で確認した。北東平坦部など、第Ⅱ層が確認できない地点が見られるとともに、所により第Ⅲ層の層厚にもばらつきがあり、牧草地造成のために削平を受けているものと考えられる。

中央北寄り平坦部では、地表面から、遺構確認面及び旧石器時代の遺物包含層である第Ⅳ層及び第Ⅴ層上面までの深さは40～50cmである。また北東平坦部では、地表面から縄文時代の遺物包含層及び遺構確認面である第Ⅲ及び第Ⅳ層上面までの深さは20～40cmである。

b 検出遺構と出土遺物

遺構と遺物は調査対象範囲の中央北寄りから北東にかけての平坦部で確認された。検出された遺構は土坑、陥し穴、焼土遺構などである。遺物は縄文土器・石器などで、その出土量の合計は中コンテ

ナ1.5箱である。対象範囲中央北寄りの平坦部（第26トレンチ東端）からは旧石器時代の石器5点が集中して出土している。

8 所見

a 遺跡の種類

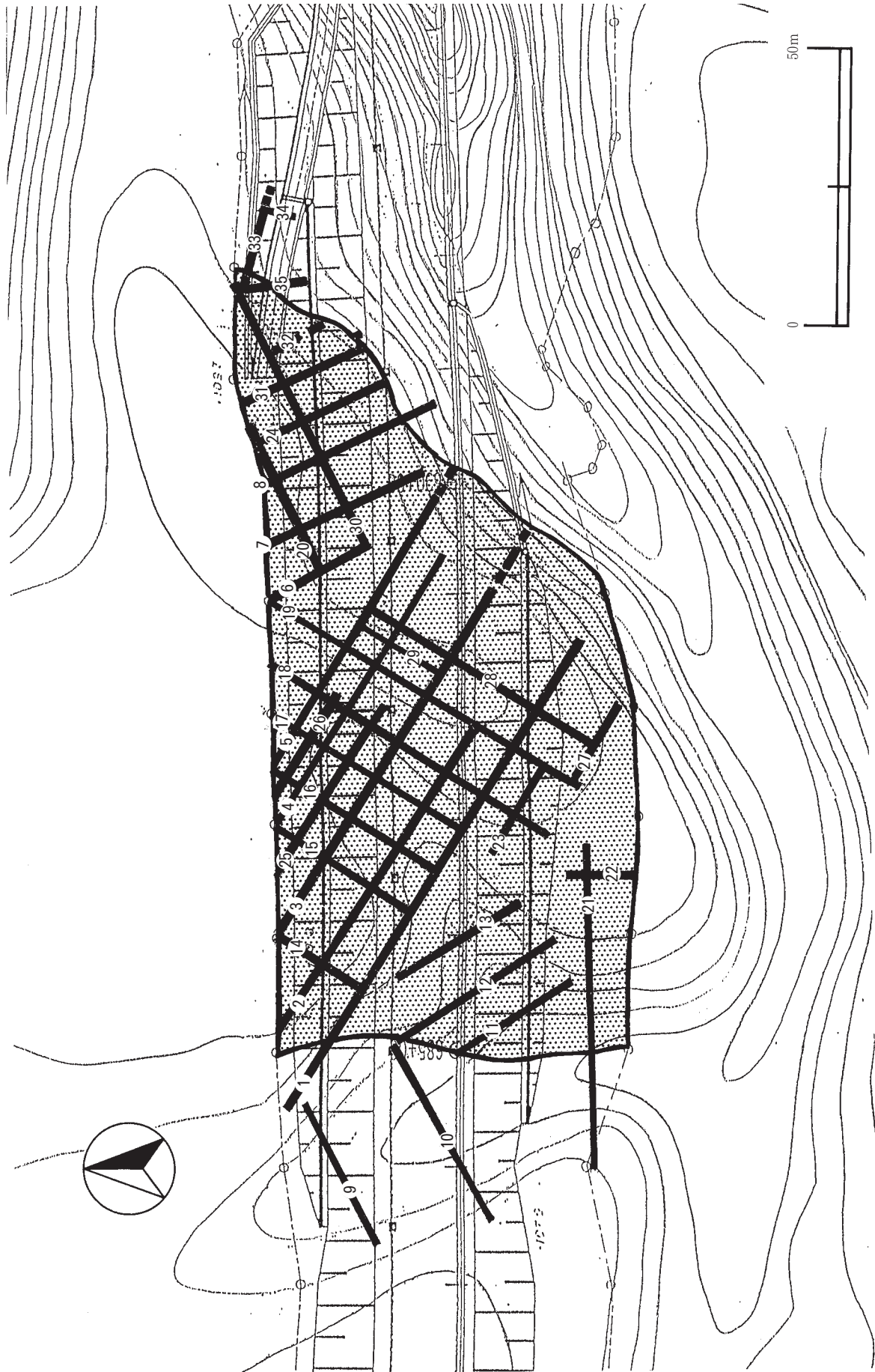
旧石器時代・縄文時代の狩猟場である。

b 遺跡の範囲と工事区域

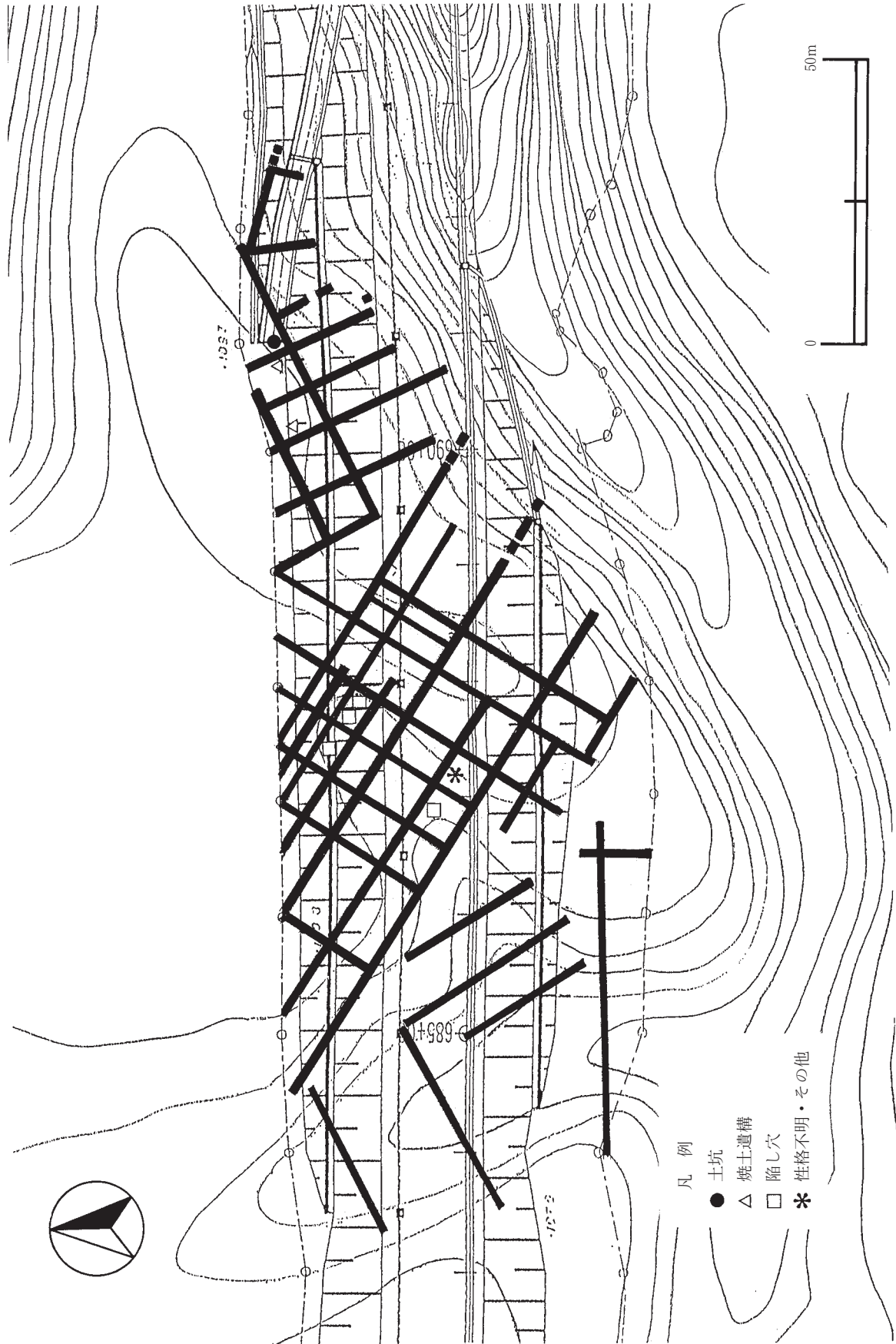
工事区域内遺跡範囲は、確認調査対象範囲内の中央部北寄りから北東部にかけての平坦地2,500㎡で、遺跡全体の南端にあたるものと考えられる。西側の緩い沢と東側の斜面は、今回の調査の結果、遺構及び遺物は検出されないと判断したため、遺跡範囲から除外した。また、本遺跡は「芹川館跡」の名称はあるものの、今回の調査対象範囲には、芹川館跡の範囲は及んでいないものと考えられる。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

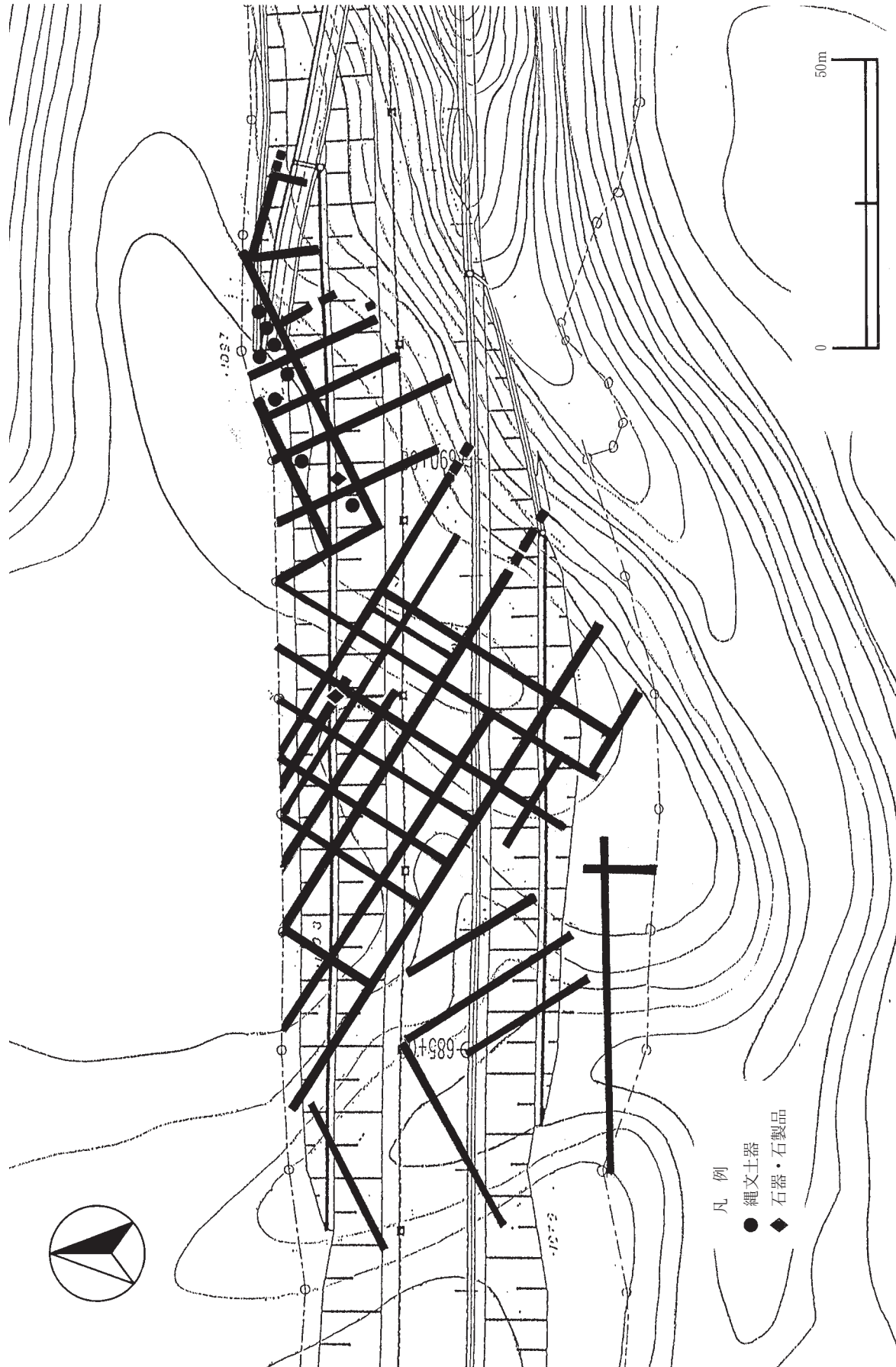
調査範囲の全域より縄文時代の土坑・陥し穴・焼土遺構などが検出され、北東部包含層より縄文土器、中央部漸移層及び地山層より旧石器時代の石器が出土するものと予想される。



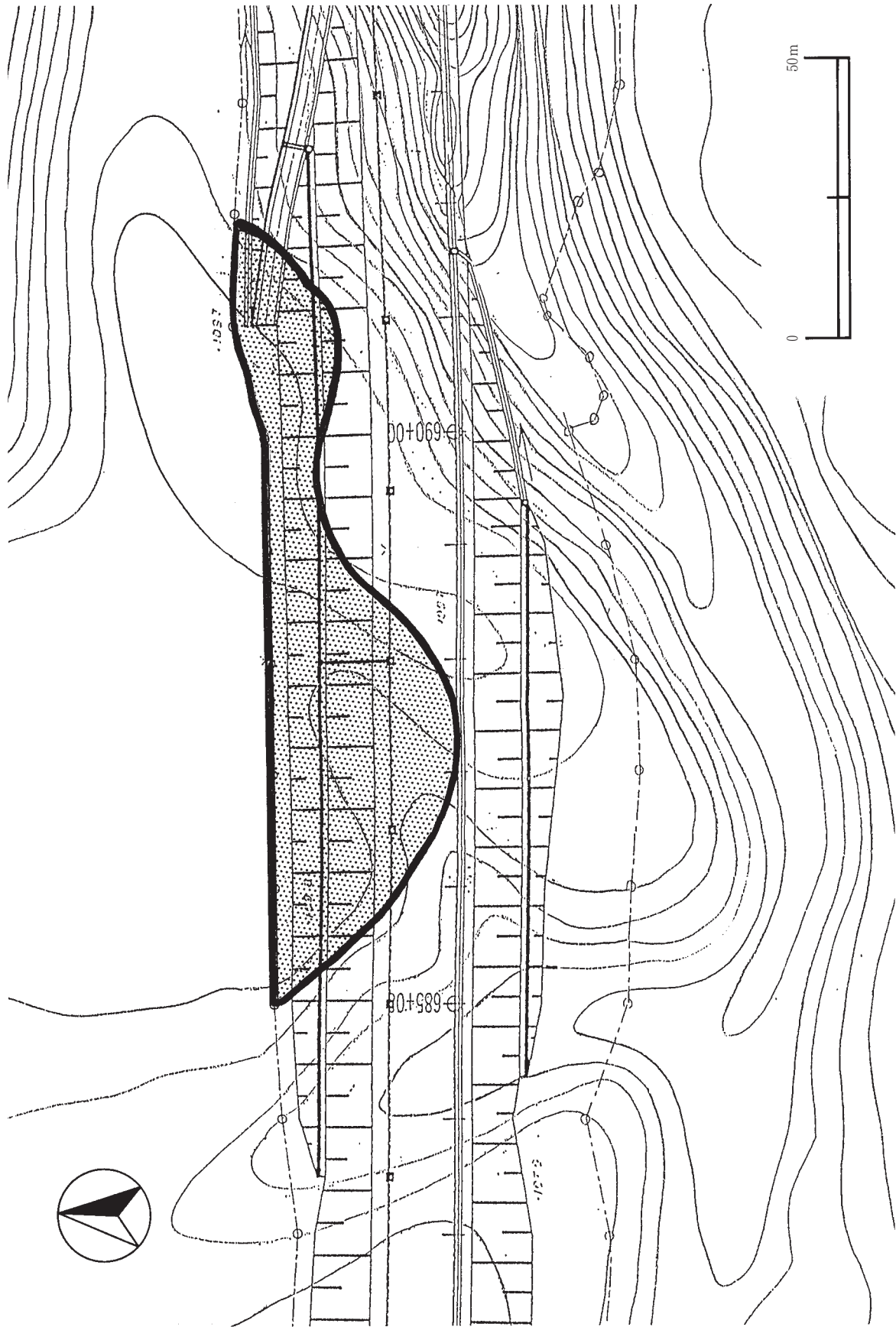
第72図 芹川館跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第73図 芹川館跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第74図 芦川館跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第75図 芹川館跡範囲図



芹川館跡
近景（東から）



芹川館跡
遺構検出状況（南西から）



芹川館跡
石器出土状況（上：東）

⑤ 関口館跡

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 遺跡所在地 | 山本郡二ツ井町駒形字関口 |
| 2 確認調査期間 | 平成15年11月4日～11月17日 |
| 3 確認調査対象面積 | 4,600㎡（未買収地を除く） |
| 4 工事区域内遺跡面積 | 4,690㎡（未買収地を含む） |

5 遺跡の立地と現況

a 立地

本遺跡はJR奥羽本線富根駅より南南東へ1.1km、駒形川左岸の矢崎台地の東縁部南寄りに位置し、低位段丘上に立地する。標高は約46mで、東側から入り込む3本の小谷によって限られるため、東西に長い舌状台地を呈している。

b 現況

かつてはスギ林であったが、未買収地以外の確認調査対象区域は伐採済みであった。

6 確認調査の方法

計画路線の延びる東西方向に3本のトレンチを設定し、それに直交する南北方向のトレンチを10mおきに設定した。トレンチは重機を用いて地山面まで掘り下げ精査した。南西端の沢は人力で掘り下げた。試掘面積は約830㎡で、未買収地を除く調査対象面積の約18%である。

7 確認調査の結果

a 層序

- 第Ⅰ層 暗褐色土 表土 層厚5～20cm
- 第Ⅱ層 黒褐色土 旧耕作土 層厚0～20cm
- 第Ⅲ層 黄褐色土 地山

総層厚は10～40cmと薄い。

b 検出遺構と出土遺物

東側で空堀1条を検出したのみである。遺物の出土は無い。

8 所見

a 遺跡の種類

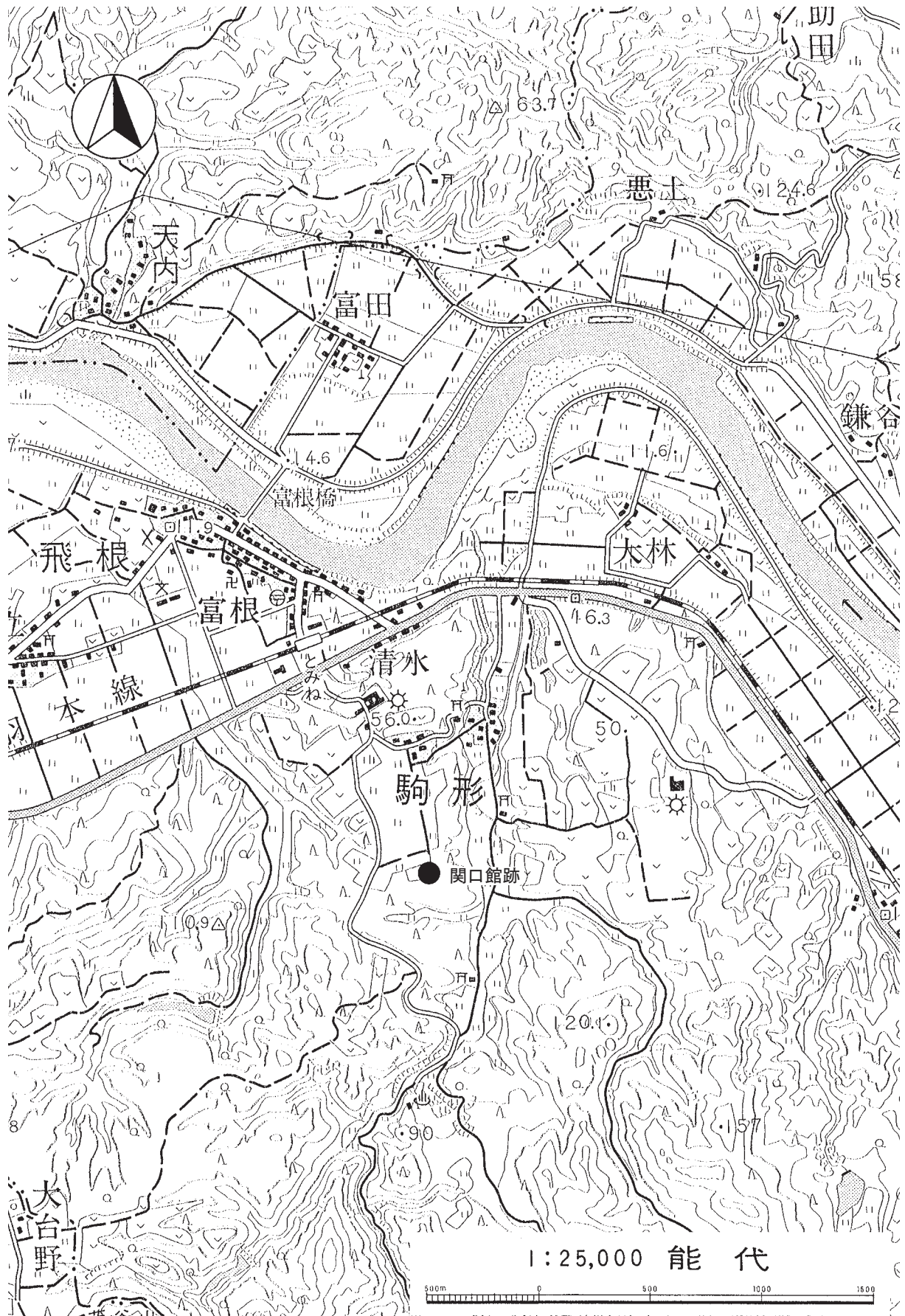
中世の館跡と推定される。

b 遺跡の範囲と工事区域

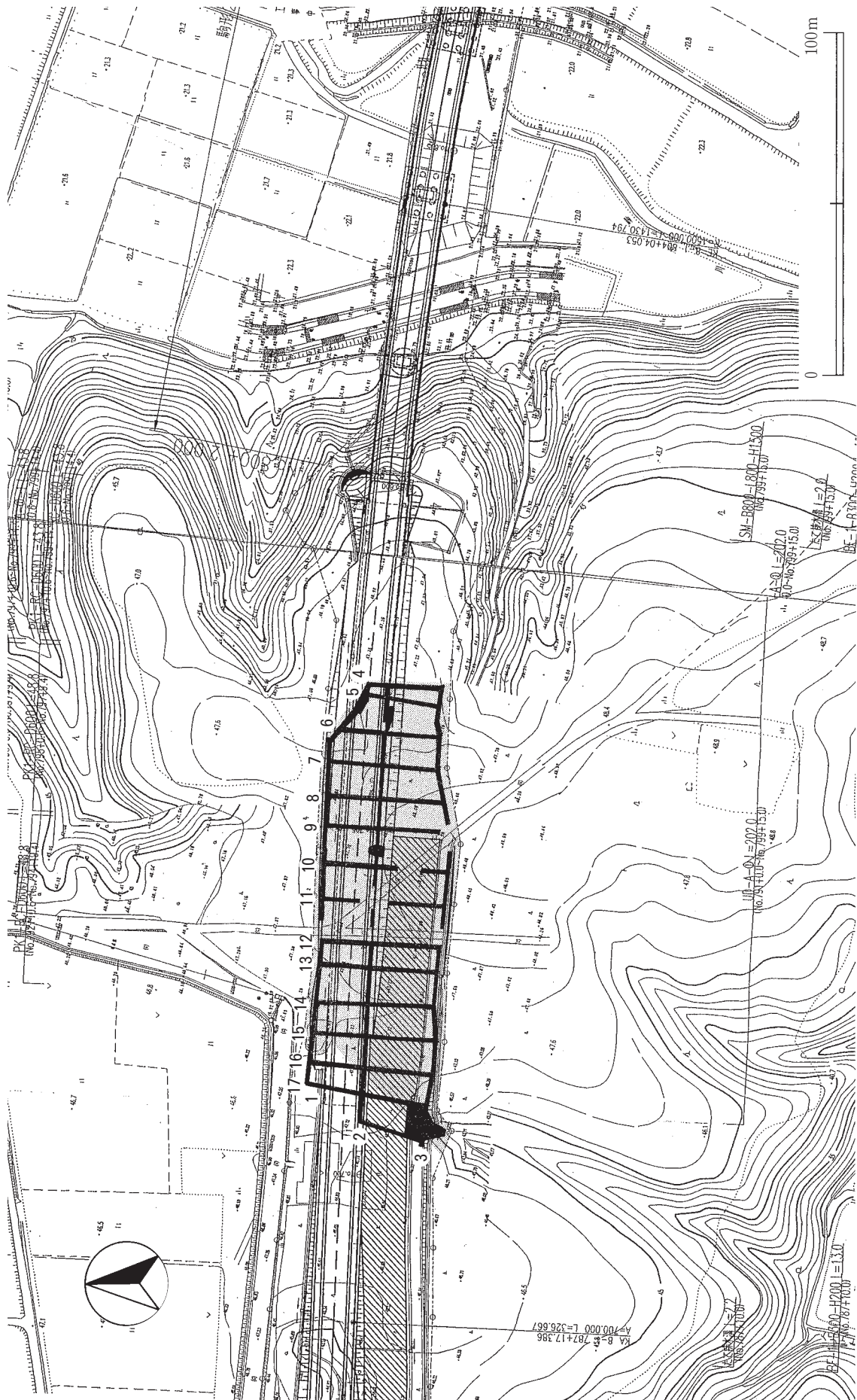
工事区域内の遺跡範囲は、空堀より東側の未買収地を含め4,690㎡である。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

掘立柱建物跡が数棟検出されると予想される。遺物の出土量は極めて少ないと思われる。



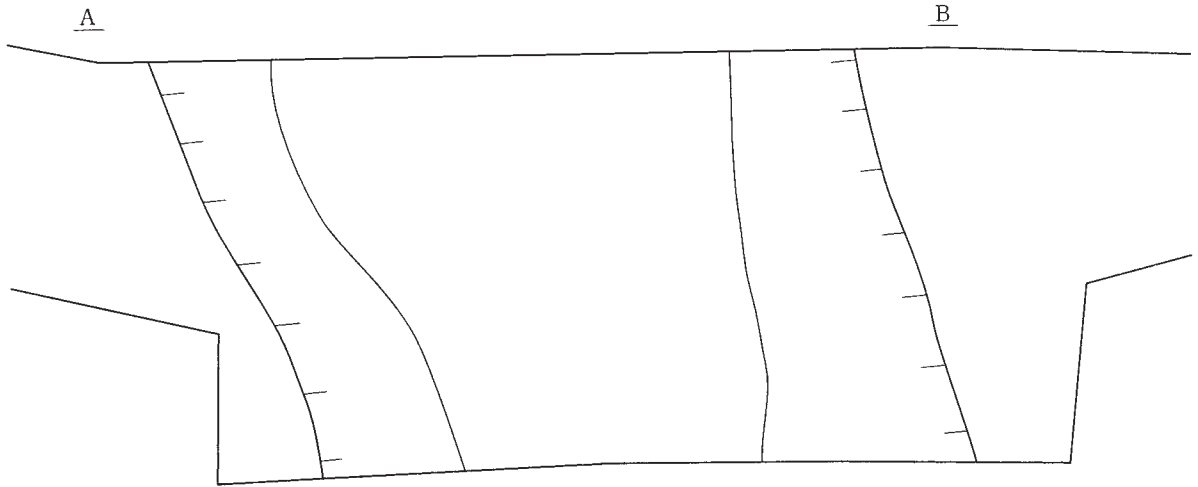
第76図 関口館跡位置図



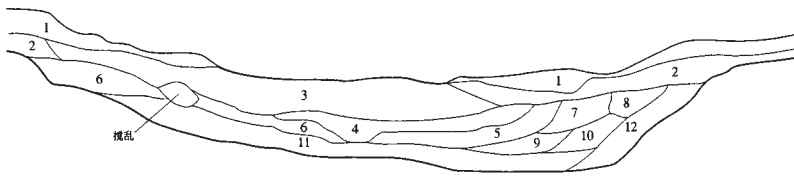
第77図 関口館跡確認調査範囲とトレンチ位置図



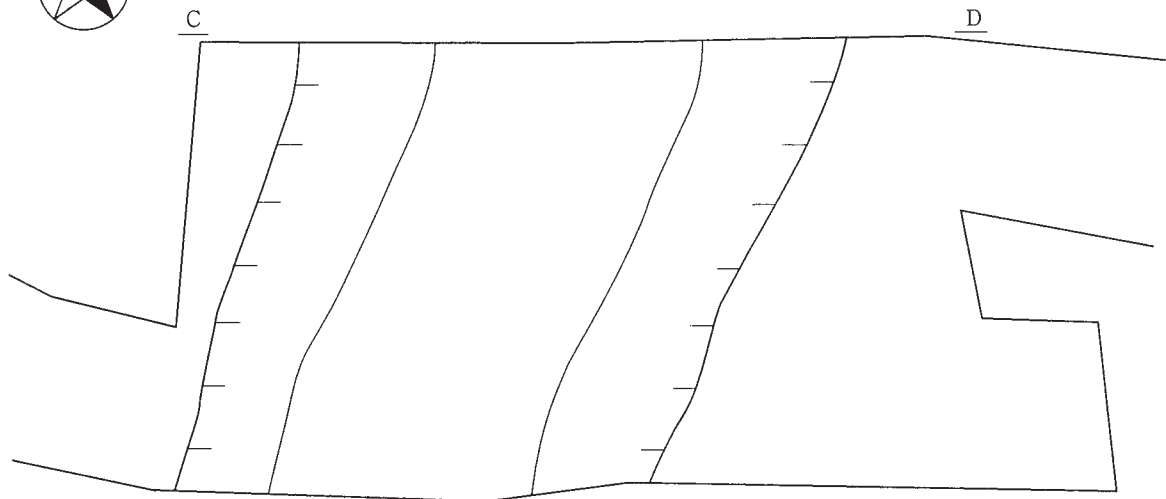
第1トレンチにかかる空堀



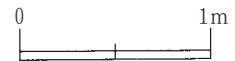
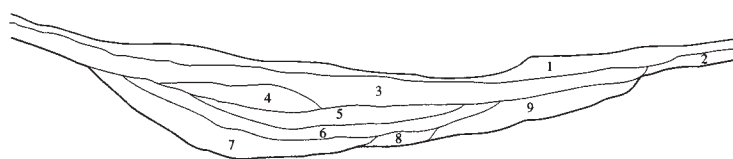
A 48.400m



第2トレンチにかかる空堀



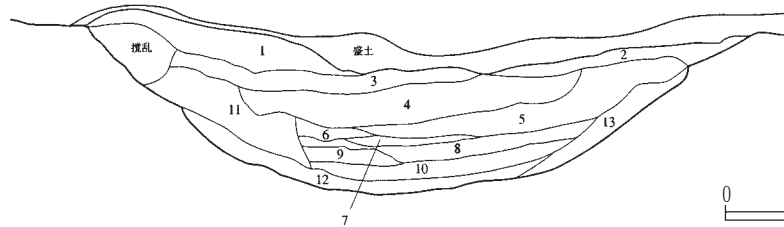
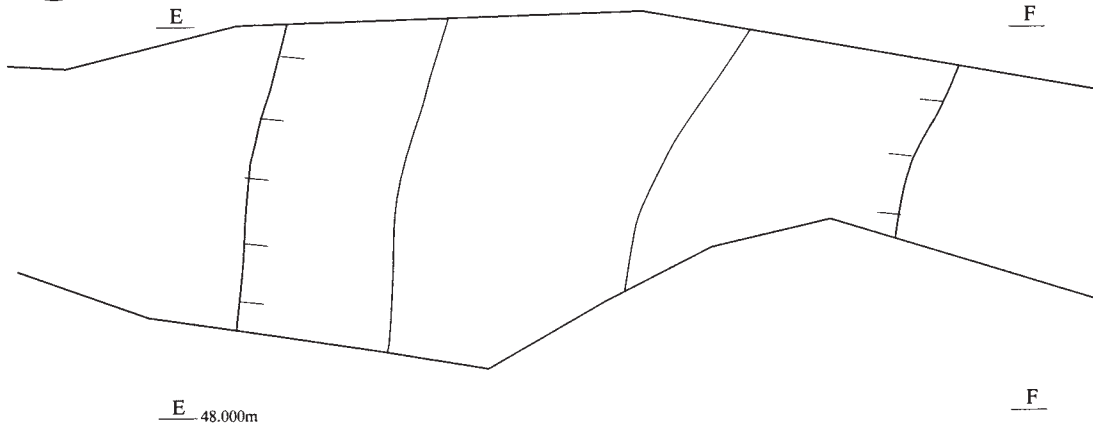
C 48.200m



第79図 関口館跡検出空堀平面図・断面図(1)



第3トレンチにかかる空堀



第1トレンチにかかる空堀 (SPA-B)

1	黒褐色土 (10YR 2/3)	しまり	弱い	粘性	弱い	表土
2	黒褐色土 (10YR 3/2)	しまり	強い	粘性	弱い	地山粒含む (1~5mm 3%) 旧耕作土
3	黒色土 (10YR 2/1)	しまり	やや強い	粘性	やや弱い	
4	黒色土 (10YR 1.7/1)	しまり	やや強い	粘性	やや強い	
5	黒褐色土 (10YR 3/2)	しまり	強い	粘性	やや弱い	
6	暗褐色土 (10YR 3/3)	しまり	強い	粘性	強い	地山粒含む (2mm 1%)
7	黒褐色土 (10YR 2/2)	しまり	強い	粘性	強い	地山粒含む (5mm 3%)
8	にぶい黄褐色土 (10YR 5/4)	しまり	強い	粘性	強い	地山土
9	黒色土 (10YR 2/1)	しまり	やや強い	粘性	やや弱い	
10	黒色土 (10YR 2/1)	しまり	強い	粘性	やや強い	地山粒含む (5mm 3%)
11	黒色土 (10YR 1.7/1)	しまり	やや強い	粘性	やや強い	
12	黒褐色土 (10YR 2/2)	しまり	やや強い	粘性	やや強い	

第2トレンチにかかる空堀 (SPC-D)

1	1層に対応					
2	2層に対応					
3	3層に対応					
4	黒色土 (10YR 2/1)	しまり	強い	粘性	やや強い	地山ブロック含む (10~20mm 20%)
5	4層に対応					
6	5層に対応					
7	11層に対応					
8	黒色土 (10YR 2/1)	しまり	強い	粘性	やや強い	地山粒含む (1mm 1%)
9	黒褐色土 (10YR 2/2)	しまり	強い	粘性	強い	

第3トレンチにかかる空堀 (SPE-F)

1	黒色土 (10YR 2/1)	しまり	強い	粘性	やや強い	地山粒含む (1mm 1%) 旧耕作土
2	黒褐色土 (10YR 3/2)	しまり	やや弱い	粘性	強い	地山粒含む (5mm 3%) 旧耕作土
3	黒色土 (10YR 1.7/1)	しまり	やや強い	粘性	強い	
4	にぶい黄褐色土 (10YR 5/4)	しまり	強い	粘性	強い	地山土
5	暗褐色土 (10YR 3/4)	しまり	強い	粘性	強い	地山ブロック含む (10~20mm 1%)
6	黒褐色土 (10YR 1.7/1)	しまり	やや強い	粘性	強い	
7	黒褐色土 (10YR 2/2)	しまり	強い	粘性	強い	地山粒含む (1~5mm 10%)
8	暗褐色土 (10YR 3/4)	しまり	強い	粘性	強い	地山粒含む (2mm 30%)
9	にぶい黄褐色土 (10YR 4/3)	しまり	強い	粘性	強い	地山粒含む (5~20mm 40%)
10	黒褐色土 (10YR 2/2)	しまり	強い	粘性	強い	
11	黒褐色土 (10YR 3/2)	しまり	やや強い	粘性	強い	
12	黒褐色土 (10YR 3/2)	しまり	強い	粘性	強い	地山粒含む (5mm 10%)
13	11層に対応					

第80図 関口館跡検出空堀平面図・断面図 (2)



関口館跡
遠景（東から）



関口館跡
第2トレンチ
空堀検出状況（南から）



関口館跡
第3トレンチ
空堀半截状況（南から）

⑥ ^{からの うわたい} 烏野上岱遺跡

- 1 遺跡所在地 山本郡二ツ井町駒形字烏野上岱
- 2 確認調査期間 平成15年9月16日～10月24日
- 3 確認調査対象面積 47,000㎡
- 4 工事区域内遺跡面積 29,000㎡
- 5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡は米代川の段丘である標高55～65mの台地上に位置する。遺跡の北側2kmには米代川が大きく蛇行して流れ、南側は標高247mの茂谷山から続く丘陵が広がっている。遺跡はこの丘陵裾に発達した段丘上、駒形沢に開析された東側の台地にあり、茂谷山丘陵との付根に近い南側にある。遺跡の台地は北から東側にかけては比較的平坦な面が広がっているが、南側から西側にかけては駒形沢側に開く沢頭やそれらの間の尾根上の地形が多く、起伏に富んでいる。この区分に応じて遺跡の東半は平坦な面が、西半はこの起伏に富んだ地形が広がっている。また、二ツ井町周辺の米代川左岸は地滑り地形が多いが、台地東側の斜面下にも地滑りによる断続的な平坦面や小丘状地形が残されており、遺跡の東半部分はこの地滑り地形に臨んだ位置にあたる。

b 現況

遺跡の現況は西半が牧草地、東半は耕作放棄地である。また、東半部分には南東側に開く沢の沢頭部分が入り込むが、その周囲は灌木や笹が茂っている。

6 確認調査の方法

調査区は琴丘能代道路の二ツ井インター部分にあたり、路線が大きく湾曲する部分である。調査はこの路線に設けられた20m間隔の中心杭を基準とし、路線に直交する形で幅2mのトレンチを計31本設け、重機および人力で掘削した。トレンチ内で出土した遺物については位置・層位を記録して取り上げ、確認した遺構プランは実測・写真撮影を行った。また、何本かのトレンチについてはその壁で層位を記録した。実質調査面積は4,830㎡、対象面積の10%にあたる。

7 確認調査の結果

対象区域のうち、遺構・遺物を検出したのは東側の15,000㎡ほどの範囲と、西側の14,000㎡ほどの範囲である。調査区の中央部分では全く遺構・遺物の検出がなく、遺跡範囲から除外できるものと判断した。

a 層序

調査区中央の遺跡除外範囲は地山層が還元したグライ化層である。東側と西側では概ね以下のような層位となる。

I層 表土、耕作土。黒色(10Y R2/1)を呈する。しまりは弱く、植物の根が多く入る。また耕作時のビニール片等も多く混じる。

II層 黒褐色(10Y R3/1)を呈する。しまり強く、粘性も中程度ある。植物根が少量入り込み、また地山の褐色土粒もごく微量ながら混じる。

III層 黒褐色(10Y R3/2)を呈する。漸移層、植物根微量に混じる。地山の褐色土粒、褐色土ブロックが多量に混じる。

IV層 にぶい黄橙色（10Y R6/4）を呈する。しまりは強く、粘性も強い。

b 検出遺構と出土遺物

東側Hトレンチ、Iトレンチ付近で縄文時代前期前葉の遺物が集中的に出土し、また、人頭大から拳大の被熱破砕礫がまとまった集石遺構を確認した。この部分は南側から入る沢に面した緩斜面にあたり、沢によって区切られた舌状台地上の生活域から投棄された遺物が出土したものと見られる。他にこの東側では縄文時代中後期の陥し穴、後期の竪穴住居跡、弥生時代後期の竪穴住居跡などを確認している。この東側区ではことに縄文時代前期前葉の遺構が見つかった場所を中心として、ヘラ状石器を含む多くの石器類が出土している。西側では馬の背状にのびた高位面から北側の斜面にかけて遺構・遺物が散在する状況が見られた。Zトレンチの高位面では縄文時代後期と思われる住居跡を、A・Cトレンチでは弥生時代後期の1個体分の土器の出土を確認している。そのほか、斜面下では縄文時代晩期の土坑、時期不詳の溝跡、伏焼きの炭窯等を確認している。

8 所見

a 遺跡の種類

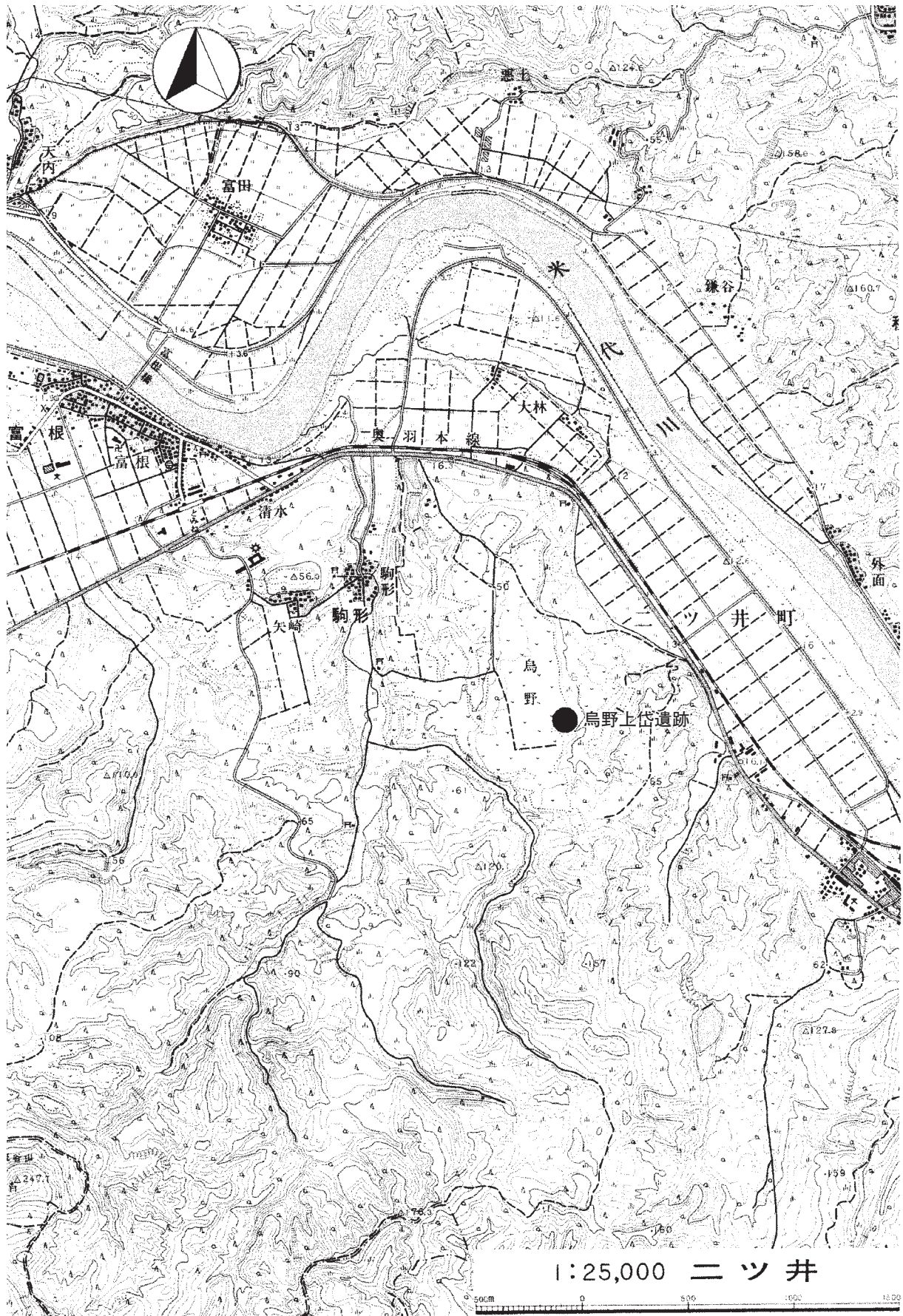
縄文時代前期前葉の集落を中心とし、他に縄文時代中期の猟場、縄文時代後～晩期の小規模な居住域および猟場、さらに弥生時代後期の小規模な居住域である。ことに縄文時代前期前葉の集落は他の遺跡を見ても大規模な居住痕跡が残された例はないが、本遺跡の場合出土した遺物量からして比較的規模の大きな居住域が形成された可能性がある。また、石器が多いという出土遺物の内容から当該時期の特色ある生業活動が復元される可能性もある。一方縄文時代中期以降の遺構・遺物は確実に存在するものの分布が薄く、これらは生活の拠点というよりは、拠点からはずれた領域に営まれた小規模な生業に関わって残されたものといえることができる。

b 遺跡の範囲と工事区域

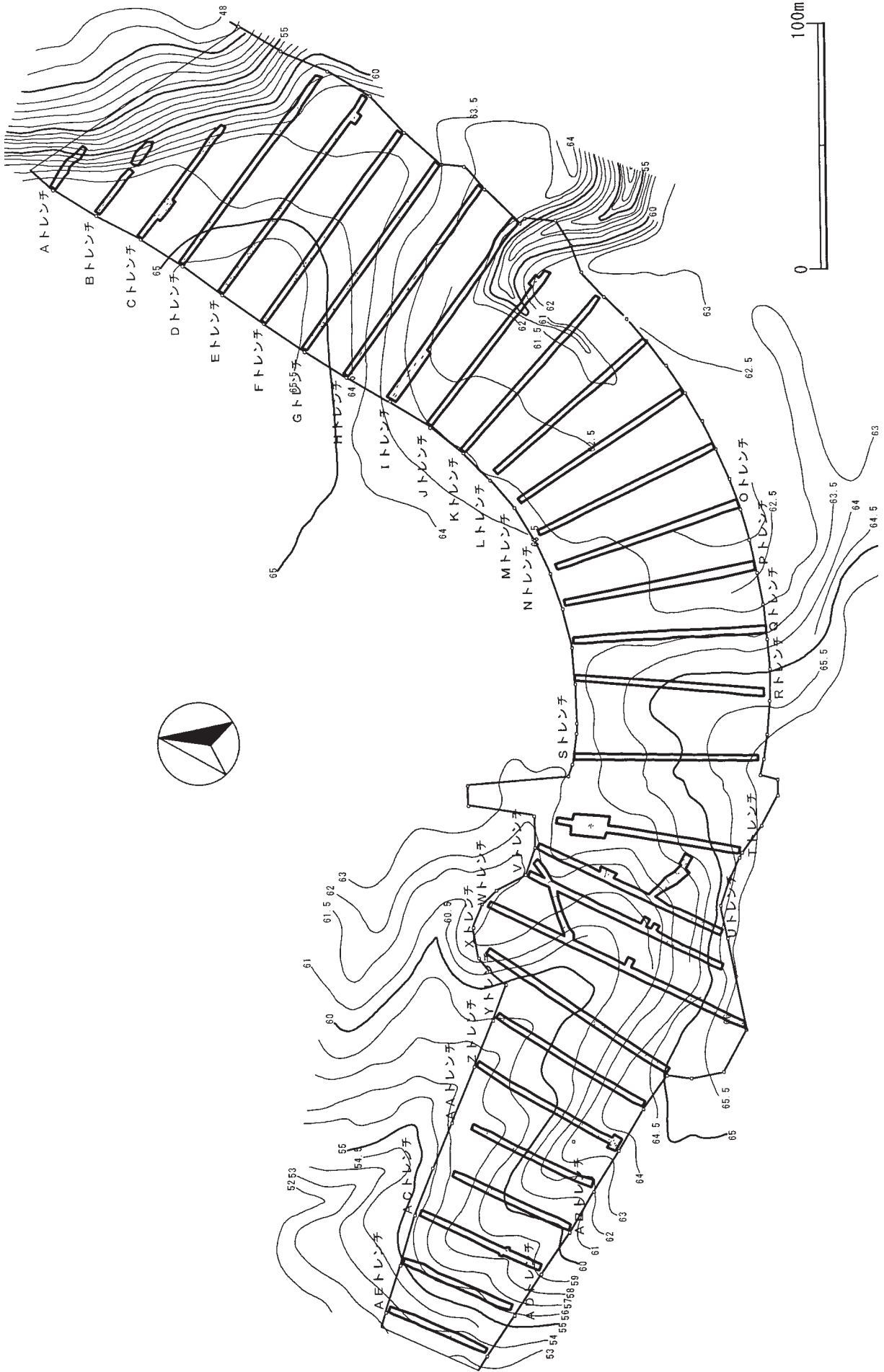
工事区域内の遺跡面積は東側および西側の合わせて28,000㎡程が遺跡の面積である。ただし、東側の7,000㎡程は全面の調査を要するものの、東側のその他の範囲、西側のほとんどが全面調査を要しない区域である。これらについてはトレンチによって遺構・遺物を検出し、その確認範囲を拡張する形で調査を進めることが適切と判断される。

c 発掘調査時に予想される遺構と遺物

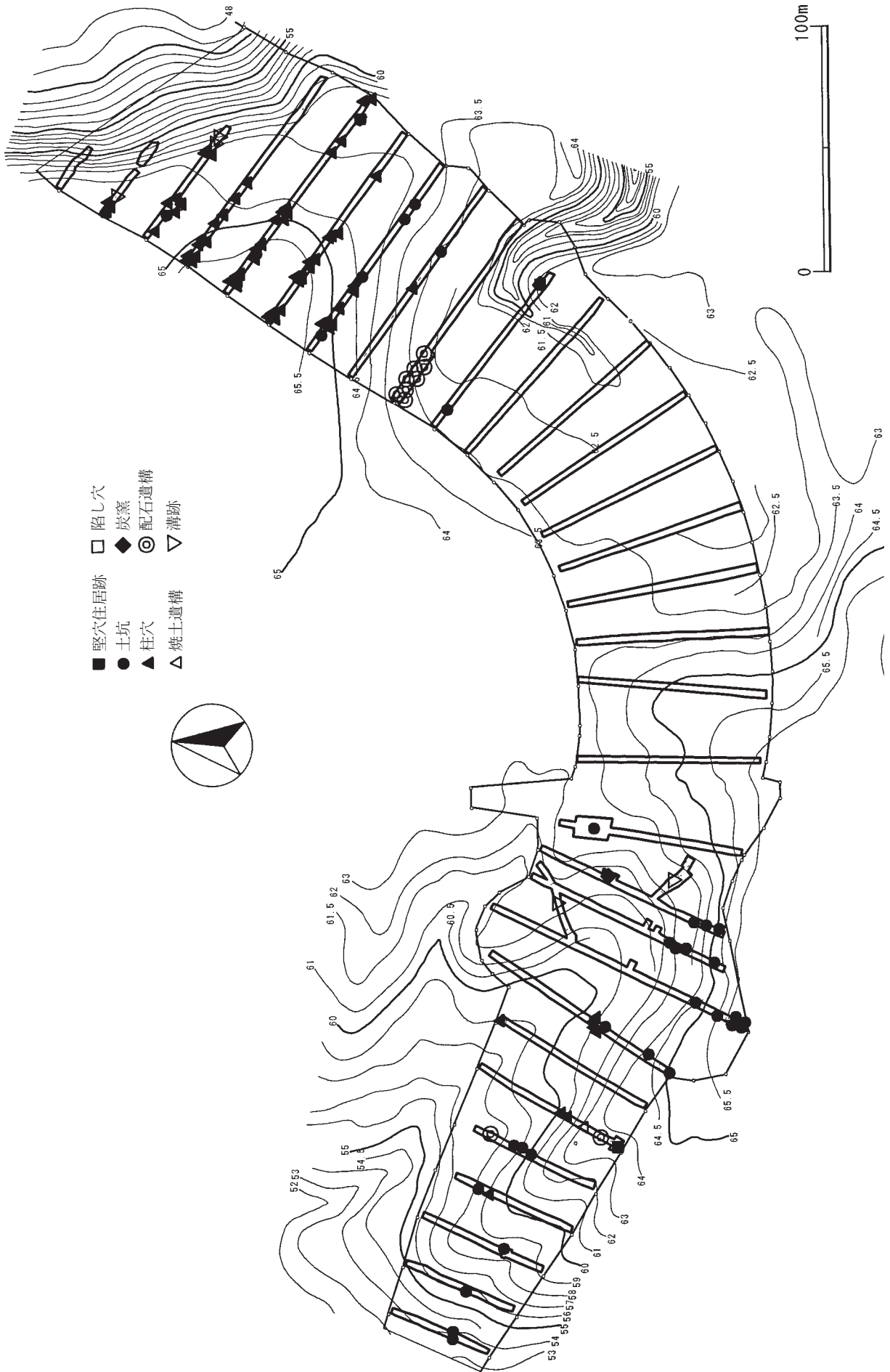
縄文時代前期前葉の土器、石器が比較的まとまった量出土することが予想されるほか、当該時期の集石遺構、竪穴住居跡の確認が予想される。ほかに中後期の陥し穴、後期の竪穴住居跡、晩期の土坑（墓?）、弥生時代後期の竪穴住居跡の確認も予想される。



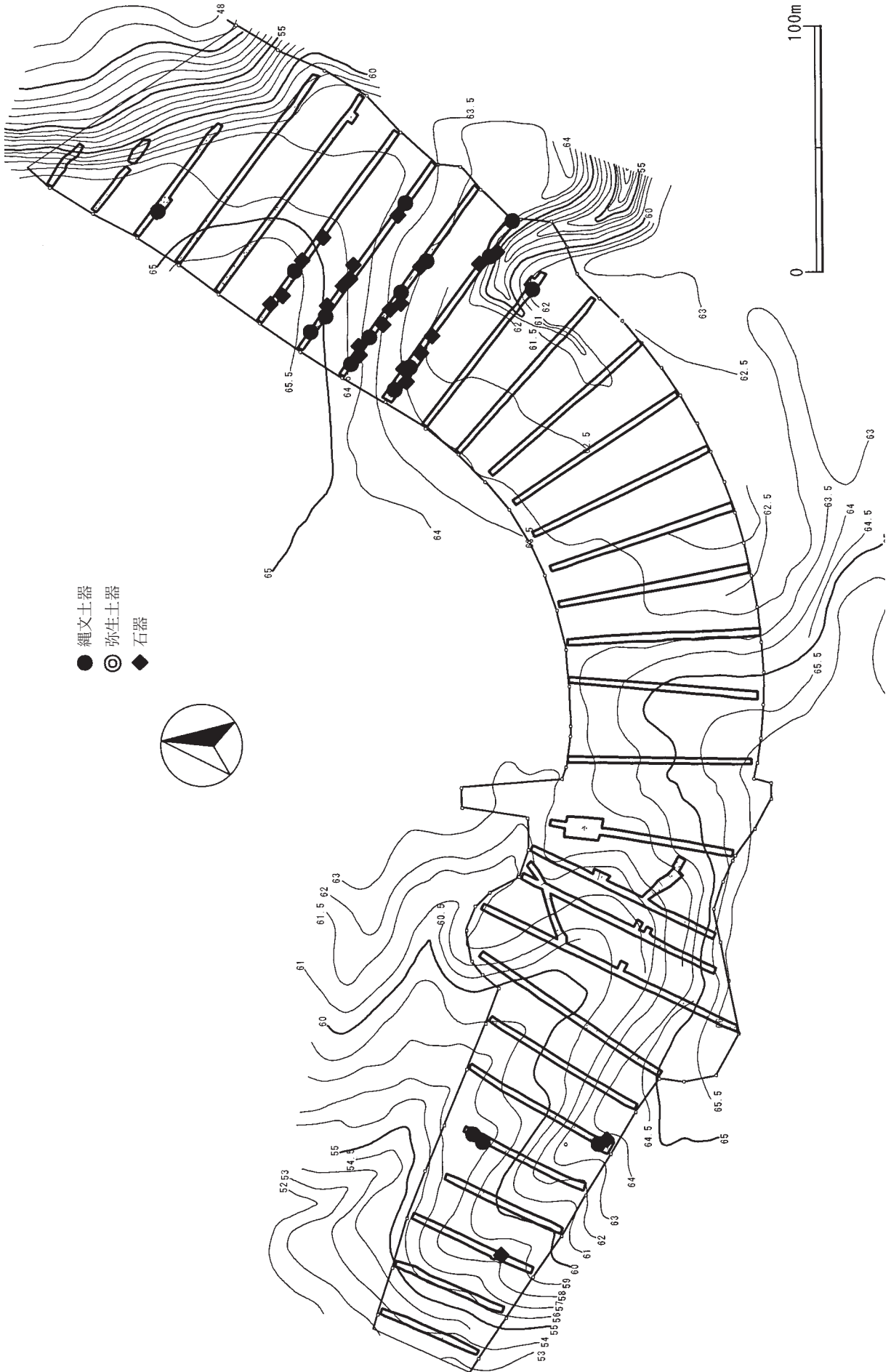
第81図 鳥野上代遺跡位置図



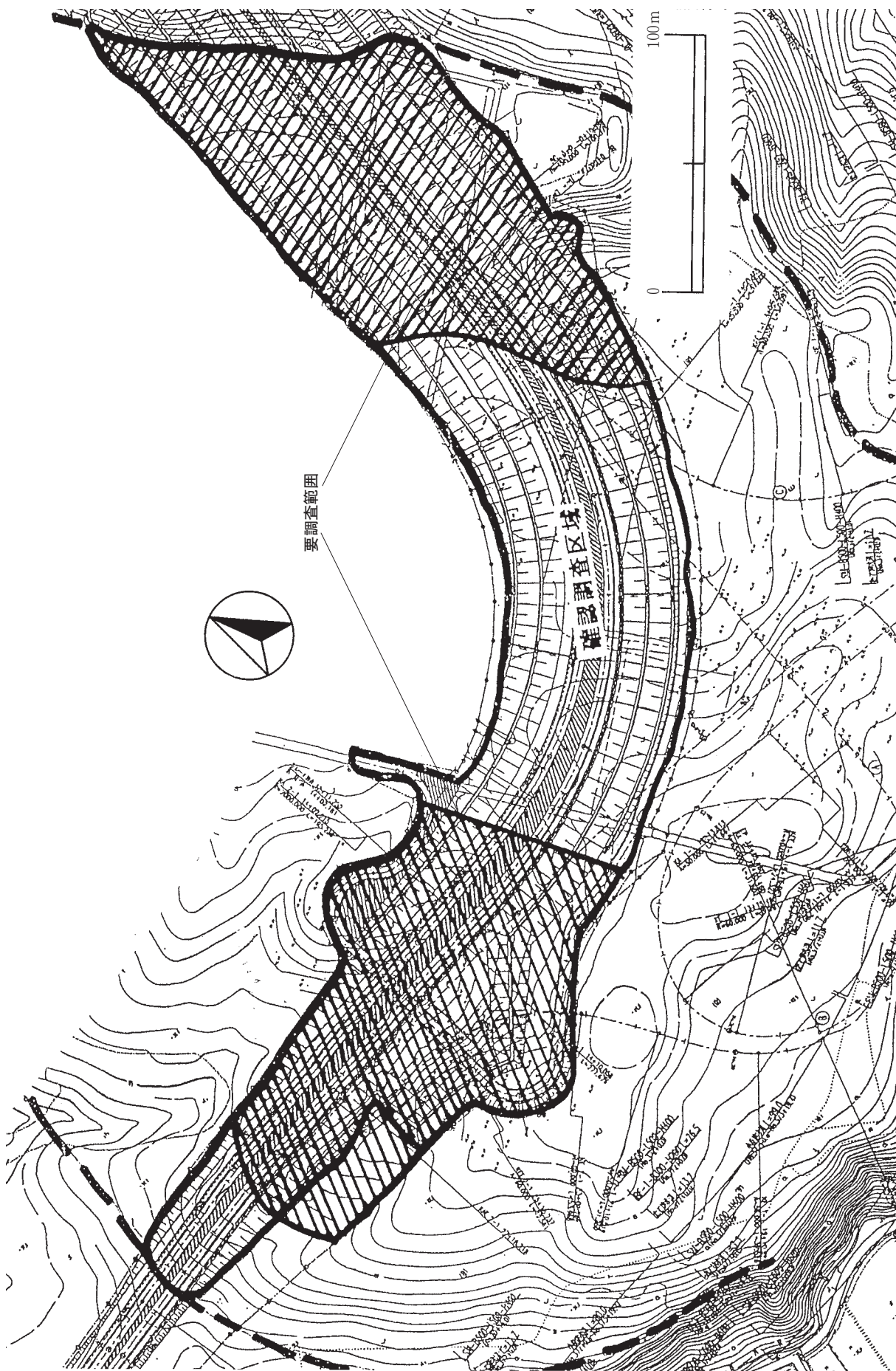
第82図 烏野上袋遺跡トレンチ位置図



第83図 烏野上岱遺跡確認調査結果図 (遺構検出地点)



第84図 烏野上岱遺跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第85図 烏野上岱遺跡範囲図

烏野上岱遺跡
遠景（西から）

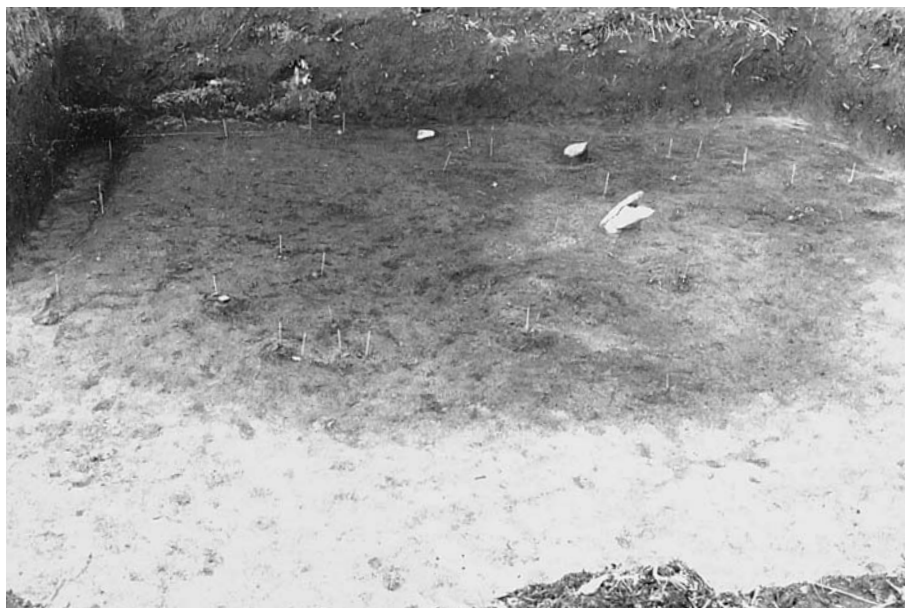


烏野上岱遺跡
東端部全景（北から）



烏野上岱遺跡
Eトレンチ内弥生時代
住居跡プラン（北から）

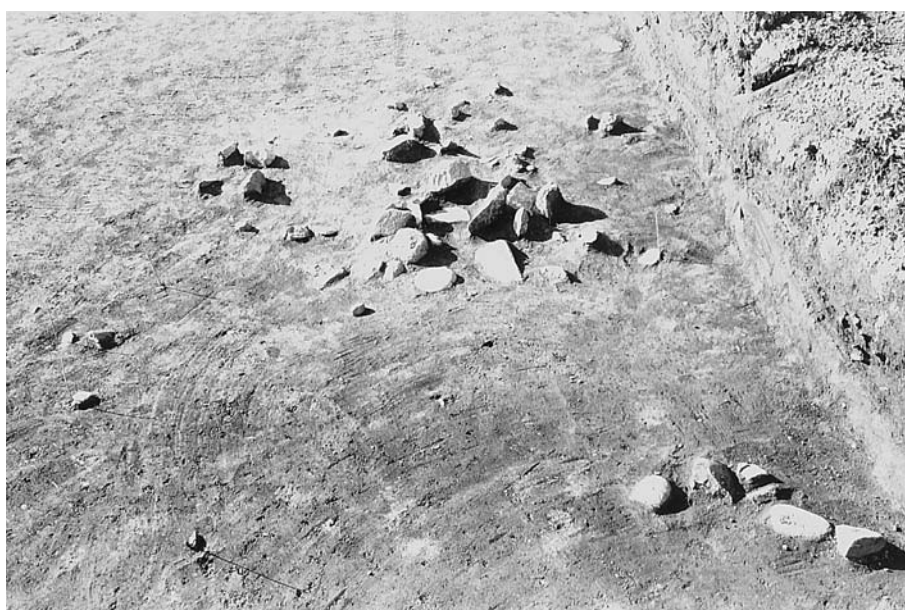




烏野上岱遺跡
Iトレンチ内縄文時代
住居跡プラン
(南から)



烏野上岱遺跡
Hトレンチ内集石遺構
(北から)



烏野上岱遺跡
Hトレンチ内集石遺構
(北から)

(3) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業**①長橋上遺跡**

- 1 遺跡所在地 秋田県本荘市葛法字長橋上132外
- 2 確認調査期間 平成15年9月18日～10月9日
- 3 確認調査対象面積 13,450㎡
- 4 工事区域内遺跡面積 0㎡
- 5 遺跡の立地と現況

a 立地

長橋上遺跡は、本荘市の南東部、JR東日本羽越本線西目駅より東へ1.2km、本荘平野の南西隅にある。遺跡周辺一帯は昭和初期頃まで湿地帯で、遺跡がある水田の標高は、約10～14mである。周辺には、平安時代8世紀後半～9世紀初頭頃の登窯である葛法窯跡の他、湯水沢、船岡台、薬師堂、成沢台遺跡などが分布する。

b 現況

現況は水田で、調査対象区のほぼ中央を県道43号線（本荘西目線）が横断し、工事中心抗No.432東側より10m付近を市道（旧県道）が通っている。その道路下に南由利原高原油送用のパイプラインが埋設されている。

6 確認調査の方法

工事用中心抗No.432からNo.445までの南北長約260m、東西約60mを調査対象区とした。調査にあたっては、旧水田面の畦畔等の地形を考慮して、幅2mのトレンチを49本設定した。このトレンチを重機によって掘り下げたのち、遺構確認面もしくは地山面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。また、L字状に農道及び水田、工事用進入路等がある箇所は、2m×4mを人力で坪掘りし、精査を行った。確認調査対象面積13,450㎡のうち試掘総面積は960㎡で、試掘割合は約7.1%である。

7 確認調査の結果**a 層序**

第12トレンチの層序は以下のとおりである。

- | | | | | |
|-----|-------|------------|------------|-----------|
| 第Ⅰ層 | 黄褐色土 | (10Y R4/3) | 表土 | 層厚20～24cm |
| 第Ⅱ層 | 暗褐色土 | (10Y R3/3) | 造成土 | 層厚20～26cm |
| 第Ⅲ層 | 黒褐色土 | (10Y R2/3) | 造成土 | 層厚18～32cm |
| 第Ⅳ層 | 灰黄褐色土 | (10Y R4/2) | | 層厚20～32cm |
| 第Ⅴ層 | 地山 | | (青灰色砂～粘土層) | |

b 検出遺構と出土遺物

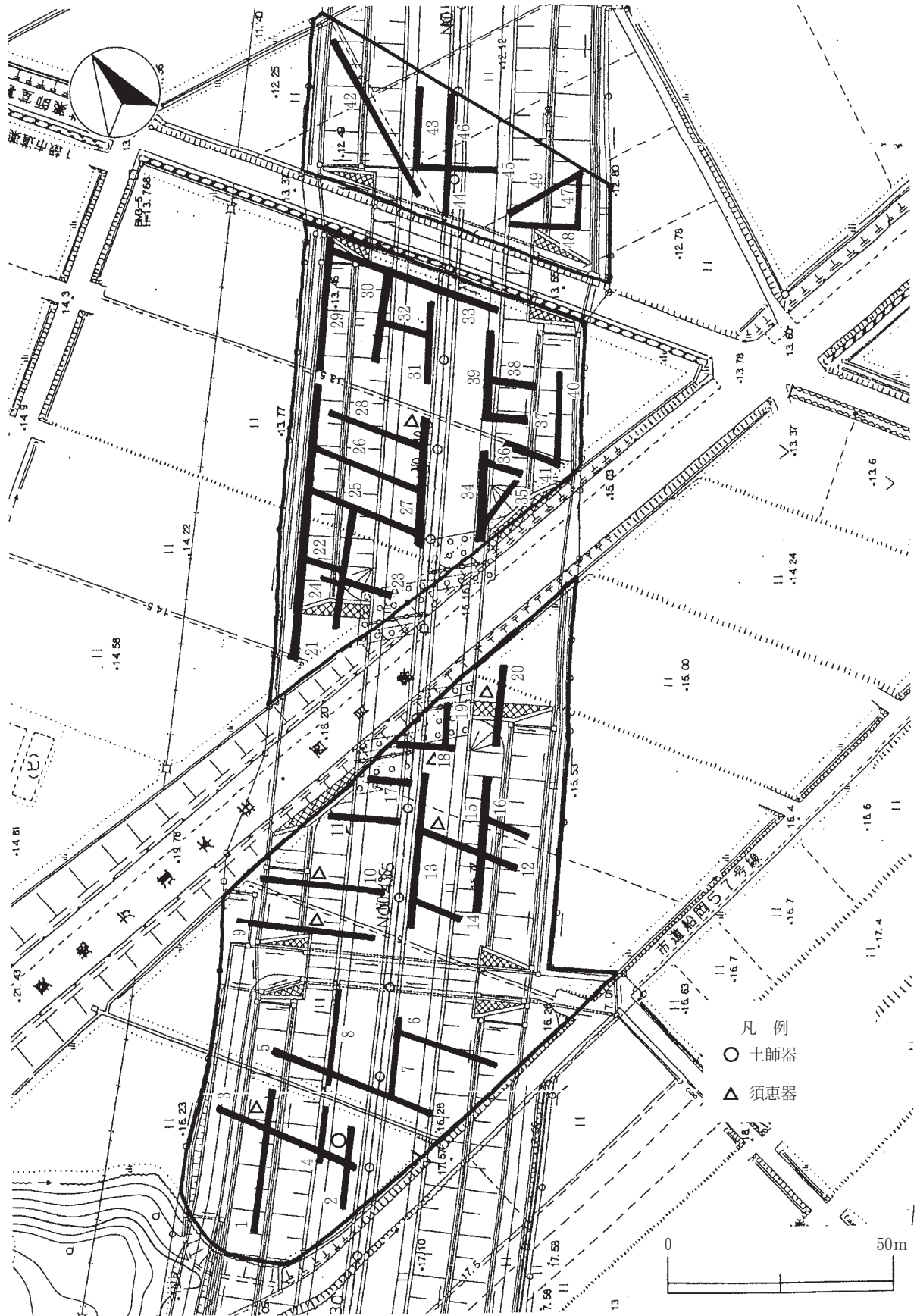
遺構は確認できなかった。遺物は平安時代と考えられる土師器、須恵器片が第3・4・9・10・12・17・19・27トレンチから少量出土した。

8 所見

遺構は検出されず、調査区数本のトレンチから出土した土師器、須恵器の破片は、昭和初期などの耕地整理の際の造成土に混入したものや、河川の砂礫層に流入したものと判断される。したがって、工事区域内での発掘調査の必要性はないと判断した。



第86図 長橋上遺跡位置図



第87図 長橋上遺跡確認調査範囲とトレンチ位置・調査結果図

第3章 調査の記録



長橋上遺跡
調査区中央部近景
(南から)



長橋上遺跡
第6トレンチ調査状況
(西から)



長橋上遺跡
第12トレンチ河川跡
(東から)

②湯水沢遺跡

- 1 遺跡所在地 秋田県本荘市葛法字湯水沢35-51外
- 2 確認調査期間 平成15年10月9日～10月31日
- 3 確認調査対象面積 17,700㎡
- 4 工事区内遺跡面積 4,500㎡
- 5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡はJR羽越線羽後本荘駅から南に約4km、北緯39° 20' 8"、東経140° 2' 59"にある。

出羽丘陵北東部、標高100m前後の丘陵地に立地し、丘陵上は原野である。その斜面は、松・杉の造林地と雑木林である。丘陵の下は水田の開けた本荘平野が広がる。遺跡東側の丘陵には、古代の須恵器窯跡3基が検出された葛法窯跡がある。

b 現況

杉を主体とする山林であったが、すべて伐採済みである。工事用中心杭No.410を通り、約10m幅で南北方向に未買収地が存在する。

6 確認調査の方法

調査は地形等を考慮し、等高線に直交するようにトレンチを設け、さらにこれに交差するトレンチを設定した。また、工事用中心杭を結んだ直線に直交するようにした。トレンチの幅は1mないし2mとしたが、一部は遺構の広がりを確認するために拡張した。トレンチは重機による掘り下げを主体に、遺構確認面もしくは地山面まで人力で掘り下げた後に精査し、遺構・遺物の有無を確認した。調査区中央部緩斜面部分などは、遺物包含層が浅いため人力による掘り下げを行った。遺構については、位置と規模を記載するとともに、可能な限り掘り込み面の把握に努めた。遺物については、出土位置と層位を記録した。実質調査面積は1,113㎡で、対象面積の6.3%である。

7 確認調査の結果

a 層序

遺跡の基本的な層序は次の通りである。

第Ⅰ層	暗褐色土 (10Y R3/3)	表土	層厚	10cm～40cm
第Ⅱ層	黒褐色土 (10Y R3/1)	遺物包含層	層厚	10cm～20cm
第Ⅲ層	黒色土 (10Y R2/1)	遺物包含層	層厚	10cm～30cm
第Ⅳ層	にぶい黄褐色土 (10Y R4/3)	漸移層及び遺物包含層、遺構確認面	層厚	5cm～15cm
第Ⅴ層	明褐色 (7.5Y R5/6)	地山及び遺構確認面		

南側の平坦部および西側の沢には、Ⅰ、Ⅱ層間ににぶい黄褐色土 (20～30cm) が堆積しており、炭化物・焼土を多量に含む。遺構はこの層で確認している。

中央部緩斜面、テラス状地形部分では、表土が10cm～15cm程で、炭化物・鉄滓を多く含むⅡ層及びⅢ層が地山まで堆積する。遺構はⅣ層で確認できる。遺物は鉄滓、土師器がⅡ層～Ⅳ層にかけて出土している。

北側尾根部分から斜面上部にかけては、Ⅱ層、Ⅲ層及びⅣ層がなくなり、Ⅴ層の地山面が露出している部分もある。

b 検出遺構と出土遺物

遺構は平安時代の竪穴住居跡、製鉄炉に伴う排滓場、土坑を検出している。竪穴住居跡は調査区中央部の緩斜面上部のテラス状地形で確認され、覆土及び床面から土師器が出土した。また、その緩斜面及びテラス状地形部分では、広範囲に鉄滓の散布が認められ、4ヵ所で製鉄炉跡と考えられる焼土や鉄滓の広がり、炉壁を確認した。なお、ここでは排滓場や炭窯跡と考えられる遺構も検出している。土坑は、北側尾根部分、西側の沢などで少数見つかっているが、中央部で見つかっているものとは、層位・共伴遺物の違いから時期が異なると思われる。

これらの遺構の年代は、竪穴住居跡を除いて伴う遺物のほとんどが鉄滓であり、明らかではないが、確認面から平安時代以降と考えられる。

遺物は、鉄滓の他には土師器が出土しており、須恵器も少数ながら出土している。

8 所見

a 遺跡の種類

遺跡は、緩斜面及びその上にある比較的平坦なテラス状地形を利用した平安時代以降の製鉄関連遺跡であり、これに工房跡などが付随するものと考えられる。

b 遺跡の範囲と工事区域

遺跡の範囲は、北側尾根部分の一部と西側の沢、中央部一帯に及ぶものと判断できる。

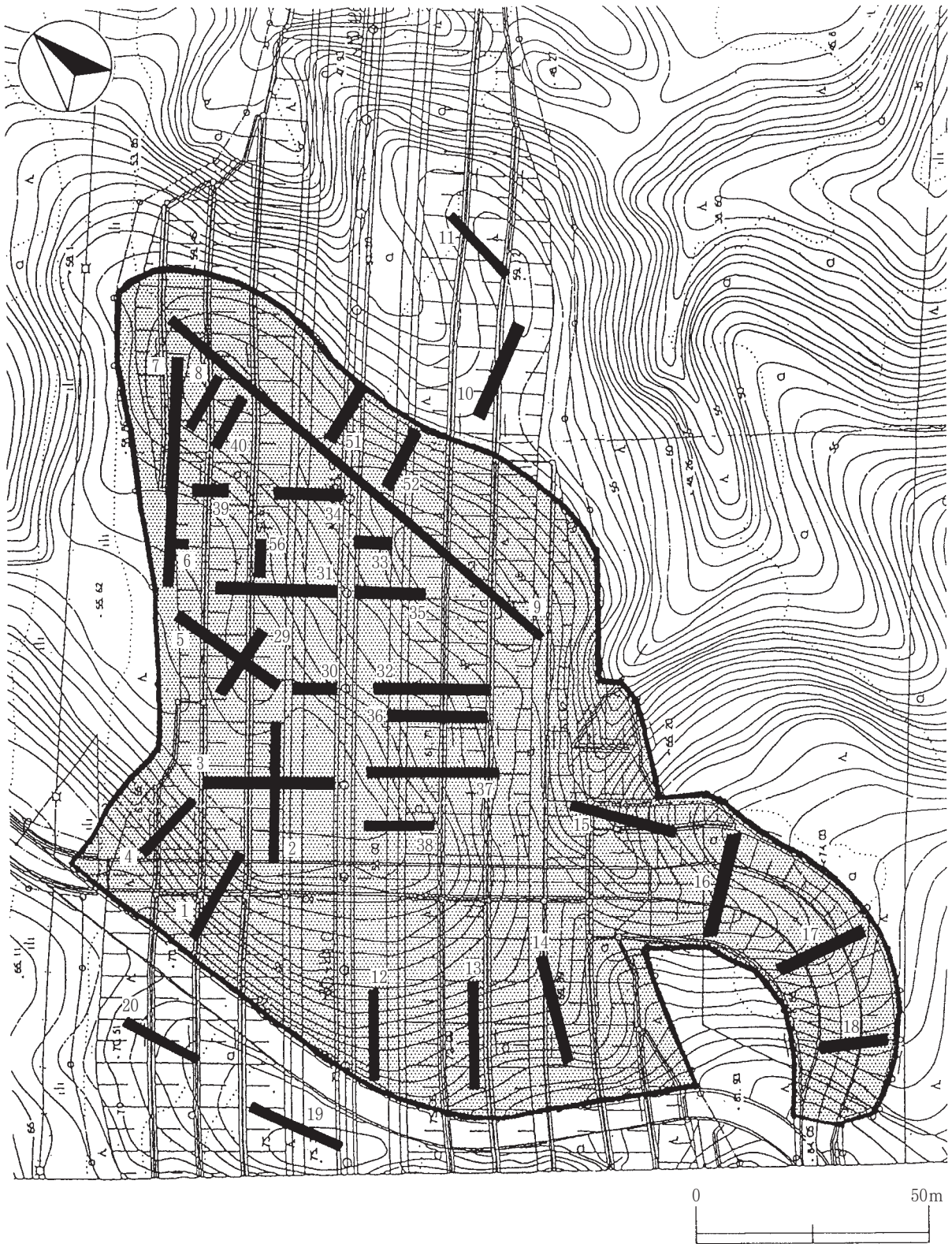
c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、平安時代の竪穴住居跡、製鉄・鍛冶関連遺構、それに伴う土坑、特に排滓場と考えられる緩斜面及びテラス状地形には、製鉄炉跡が検出されるものと判断される。

遺物は多量の鉄滓等の製鉄・鍛冶関連遺物と、土師器、須恵器の出土が予想される。



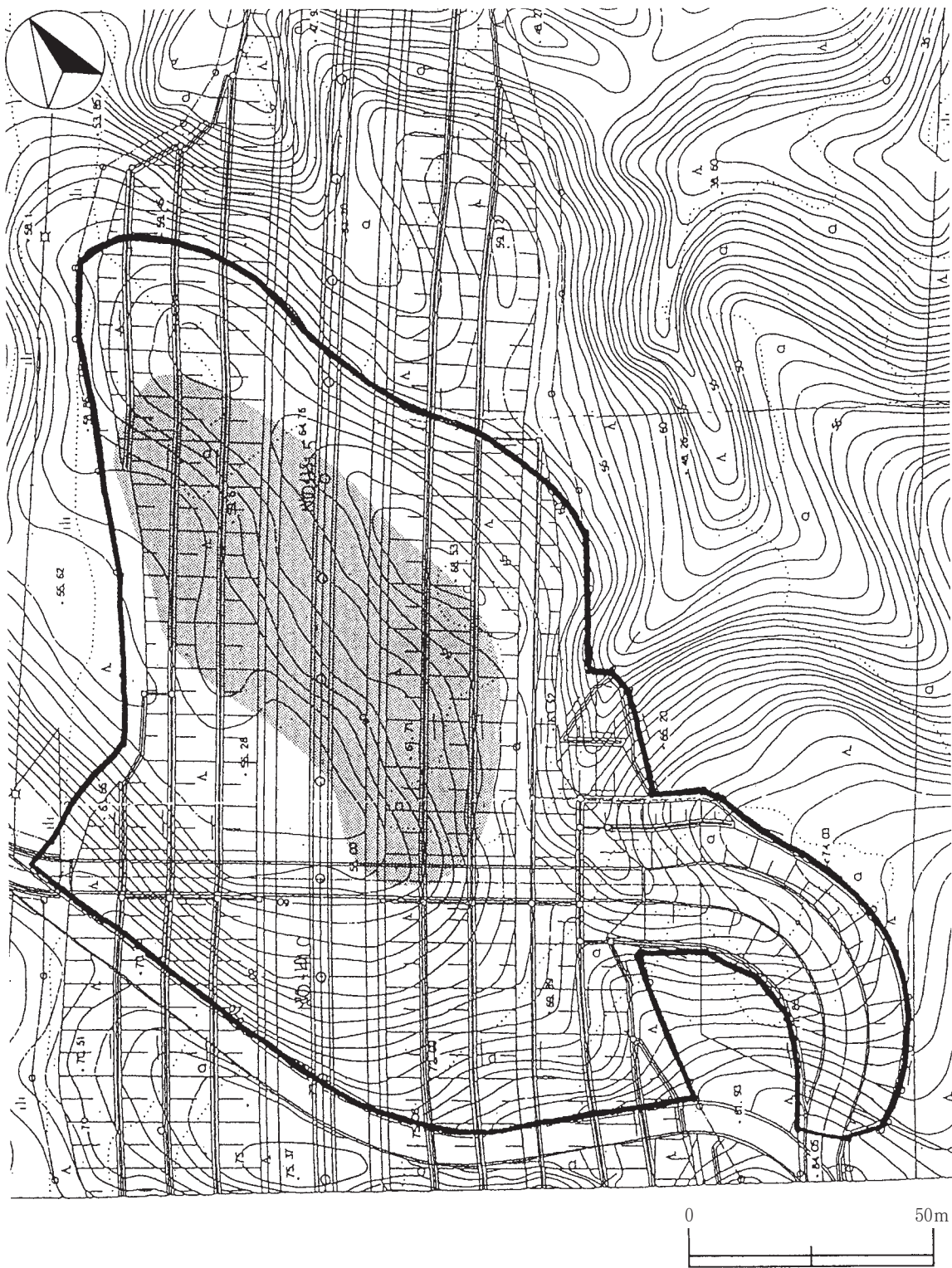
第88図 湯水沢遺跡位置図



第89図 湯水沢遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第90図 湯水沢遺跡確認調査結果図



第91図 湯水沢遺跡範囲図

湯水沢遺跡
調査区遠景（南から）



湯水沢遺跡
竪穴住居跡（北西から）



湯水沢遺跡
鉄滓出土状況（南西から）



(4) 主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業

①^{こくろぞうおおだいたま}虚空蔵大台滝遺跡

- 1 遺跡所在地 河辺郡河辺町豊成字虚空蔵大台滝
- 2 確認調査期間 平成15年8月18日～9月5日
- 3 確認調査対象面積 5,850㎡
- 4 工事区域内遺跡面積 5,700㎡
- 5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡はJR羽後和田駅の西2.5km、秋田県史跡豊島館跡に隣接する中世城館である。標高45m前後の台地にある郭面は、東西380m、南北150m、面積およそ5haの規模がある。このうち、今回確認調査の対象となった範囲は郭面の南西側にあたり、豊島館の主郭からは西に900mほど離れている。南側は岩見川に面した崖面、北側は南西側から回り込んで大きく開析した沢へ向かって下りる崖面となっている。調査はこの南北の崖面に挟まれた台地西端の郭面とその南～西側に巡る帯郭部分、さらにその南側に連続した斜面と斜面下の沢につくられた空堀、そして空堀の南側にある馬の背状の丘陵部分で行った。

b 現況

現況は一部耕作された痕跡も残るが、大半が笹や灌木の生い茂った状況である。また、遺跡に通じる道は遺跡内に所在する星辻神社への参道であり、参道周囲は地元豊成地区の公園として整備されている。

6 確認調査の方法

調査にあたっては刈り払いを行い現況地形の把握に努め、その後に対象区域に設定した幅2mのトレンチを掘削して地下遺構の確認、遺物の検出を行った。トレンチは郭面から斜面下の空堀を縦断する1本と、これと交差する郭面1本、帯郭2本、帯郭南斜面2本を設定した。実質調査面積は350㎡であり、対象面積の6%にあたる。

7 確認調査の結果

a 層序（郭上面）

第Ⅰ層 暗褐色（10Y R3/3）を呈する。しまりが強く、粘性も強い。炭化物、地山土とも微量に混入する。表面に笹が密生する状況でありその根が多量に入る。

第Ⅱ層 にぶい黄褐色（10Y R4/3）～褐色（10Y R4/4）を呈する。漸移層。しまりは強く、やや粘性もある。地山土が多量に、炭化物が僅かながら混じる。植物根少量混入。

第Ⅲ層 褐色（10Y R4/6）しまり強く、粘性は中程度である。

b 検出遺構と出土遺物

刈り払い後の地形確認では、郭南面にL字形に折れ曲がる土塁を確認した。郭面へ上るための道の延長上に位置し、虎口と判断される。また、帯郭では埋没した堀やその排土の重なり合っている状況が、凹凸となって地表面に表れていた。郭面ではその北端、西端、南端に布堀を伴う2条ずつの柵列を確認した。最もよくその状況が残されていた南端の柵列は上面幅50cmほどの布堀の中が2段に分かれ、下段に径7cm前後、深さ10cm前後の杭跡が並ぶ状況が確認でき、さらにその外側に複数の拳大

の礫が落ち込んだ段築を確認した。また郭面中央では薬研堀を確認した。上面幅1.8m前後、深さ1.3m前後、下底幅0.7m前後の堀で、郭面をほぼ東西に走ることが予想された。帯郭では北西側が一段低くなって表土の大半が削り出された状況を確認したほか、一段高くなった西側では直径1.5m前後のマウンド状の盛り上がりが複数確認された。この部分を断ち割ったところ、帯郭を横断するような溝2条が確認された。また郭面から下りた南側でも堀が巡っている状況が確認された。帯郭から下りた南側の斜面では虎口に至る通路の上で、拳大から人頭大の礫が集中する部分を確認した。礫群は2列あり、その間が窪む状況が観察された。本来の通路がこの礫群の間を通過して帯郭へ上り、さらに郭面の虎口へ向かって上ることが予想され、礫群は斜面を上る通路の脇に敷設されたものと考えられた。

出土した土器には珠洲系のすり鉢片、カワラケ片、および須恵器片、土師器片があり、ほかに鉄釘や砥石も確認している。

8 所見

a 遺跡の種類

中世城館であり、遺跡自体は古代から利用されていたことが出土遺物によって示されている。

b 遺跡の範囲と工事区域

確認調査の対象区域がほぼそのまま本発掘調査を必要とする遺跡範囲にあたる。ただし、星辻神社参道南側の沢部分（空堀）、およびそのさらに南側の馬の背状の丘陵部分については、排土処理等の関係から、本調査時に全面を発掘するのではなく必要範囲にトレンチを入れ、遺構・遺物を確認した箇所を拡張する形で調査を進める必要がある。

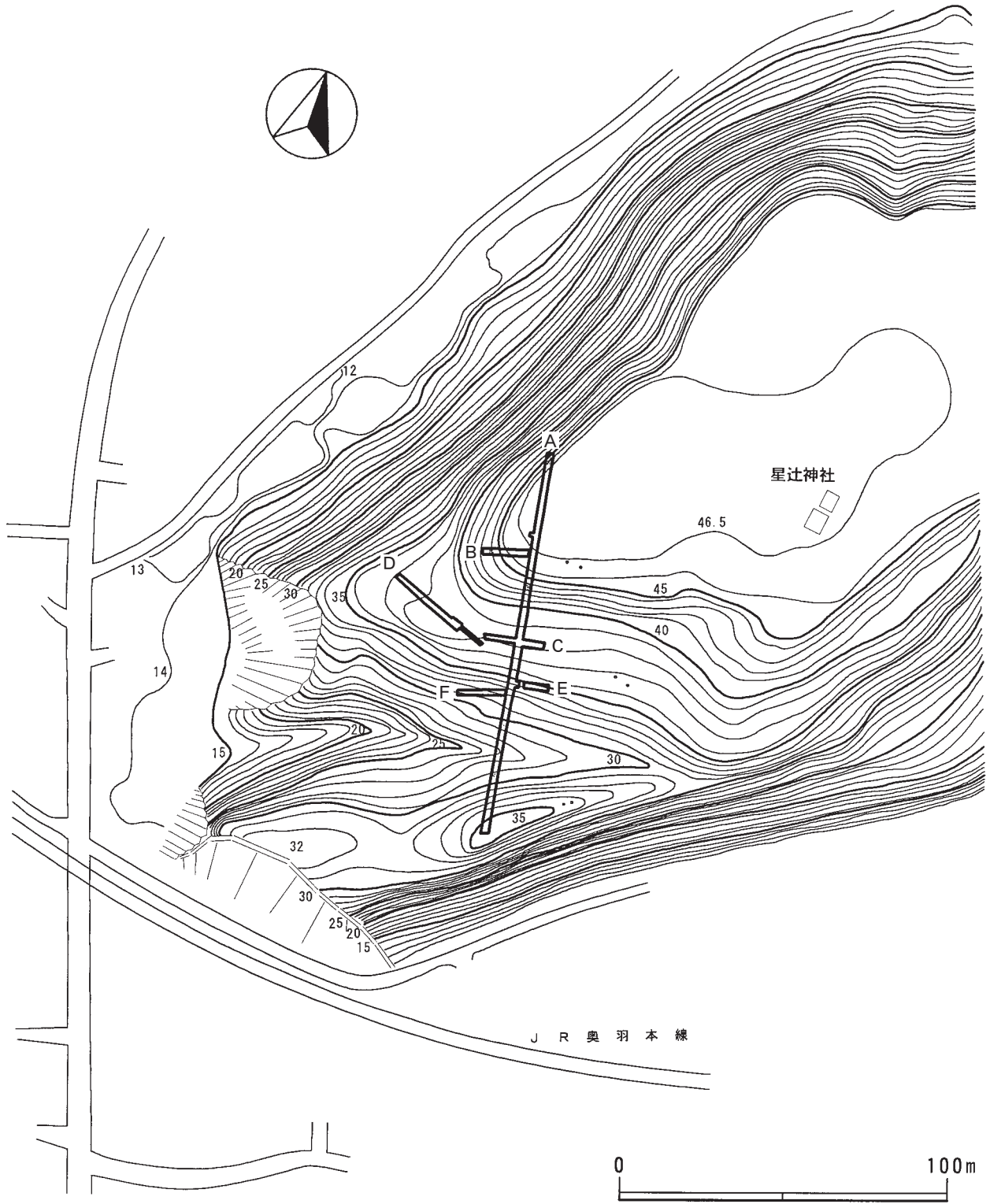
c 発掘調査時に予想される遺構と遺物

高位面の郭の縁辺には2列の柵列が巡る状況が検出されるものと予想される。郭内では掘立柱建物跡群、それを区画する空堀が検出されるだろう。これら郭内の施設は調査対象区域外にある虎口とも近接するため、城館内施設にあって虎口と関連した遺構である可能性が高い。他の城館例を参照した上でどのような施設が虎口に付属するかを予想しての調査が必要である。また帯郭部分、さらにその下の斜面は虎口への通路に隣接する部分である。現状での神社参道がかつての虎口への通路とどのように重なるか、また、今回の調査で確認された礫集中部分が、この通路にかかわる遺構である可能性も高く、それを明らかにする調査が必要である。他に帯郭部分では郭を区画する溝あるいは堀が確認され、さらに堀の排土が作る地形の凹凸についても塚が含まれないかどうかを見極める調査が必要である。出土遺物としては、中世のものとしてカワラケ、珠洲系陶器、鉄製品、古代のものとして土師器、須恵器が予想される。

今回の確認調査は郭の西端部分に計画されている県道の路線予定地で行ったものであるが、郭の位置は豊島館に近接し、見つかった郭外周の柵列や虎口の存在から豊島館そのものに含まれる可能性もある。すなわち、豊島館南西端の郭として見ると、岩見川を挟んで南側には畑谷館を望み、さらに豊島氏との間で中世秋田の覇権を争った安東氏の居城、豊岩白華城とは雄物川を挟んで指呼の位置にある。豊島館の施設の一部とすればきわめて重要な位置を占めた郭とすることができる。



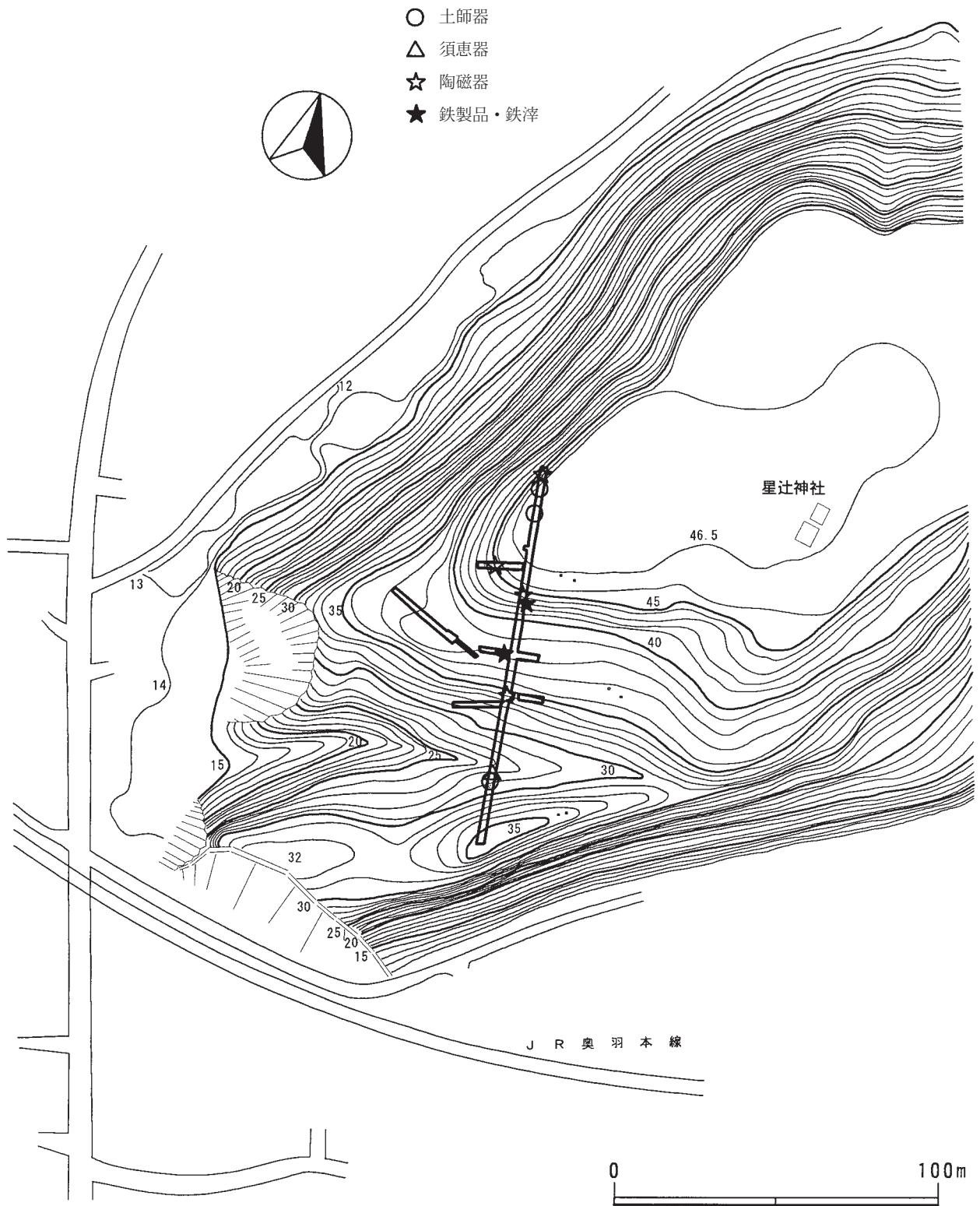
第92図 虚空蔵大台滝遺跡位置図



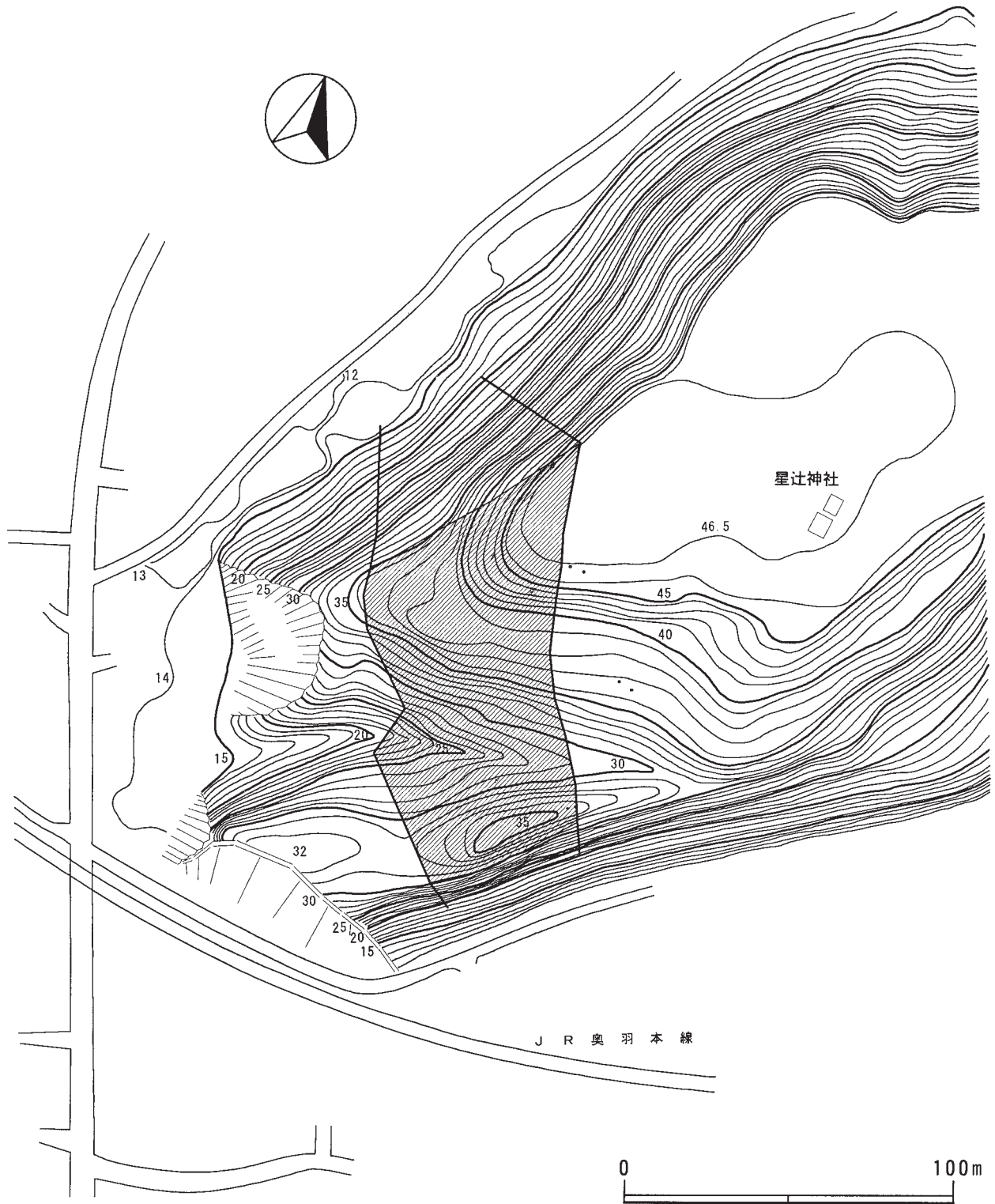
第93図 虚空蔵大台滝遺跡トレンチ位置図



第94図 虚空蔵大台滝遺跡確認調査結果図(遺構検出地点)



第95図 虚空蔵大台滝遺跡確認調査結果図（遺物出土地点）



第96図 虚空蔵大台滝遺跡範囲図

虚空蔵大台滝遺跡
遠景（南西から）



虚空蔵大台滝遺跡
主郭・帯郭（南から）



虚空蔵大台滝遺跡
帯郭斜面下礫敷遺構
（北から）





虚空蔵大台滝遺跡
主郭西縁の柵列（南から）



虚空蔵大台滝遺跡
主郭南縁の柵列（北から）



虚空蔵大台滝遺跡
主郭北縁の柵列（東から）

(5) 県営ほ場整備事業 里見地区**①水尻遺跡**

- | | |
|----------------------|--|
| 1 遺跡所在地 | 平鹿郡雄物川町東里字水尻31-1~85
平鹿郡平鹿町樽見内字水尻 外
平鹿郡平鹿町樽見内字西柄内 外 |
| 2 確認調査期間 | 平成15年12月8日~12月25日 |
| 3 確認調査対象面積 | 58,000㎡ |
| 4 工事区域内遺構遺存面積 | 2,000㎡ |
| 5 遺跡の立地と現況 | |

a 立地

水尻遺跡は、雄物川町と平鹿町の両町にまたがって所在している。南北約60km、東西約15kmにおよぶ横手盆地の西部を北流する雄物川から東へ約4.2kmにあり、平鹿郡と由利郡を結び東西に走る国道107号線南側の、平坦で肥沃な水田地帯に立地している。遺跡の標高は53m前後である。

b 現況

調査区の大部分は水田であるが、一部は畑地や休耕地となっている。

6 確認調査の方法

確認調査対象地区に幅2m、長さ5~51mのトレンチを設定した。同地区の中央を南北に通っている町道の東側（以降、東調査区と呼称）に55本（南北方向に51本、東西方向に4本）、西側（以降、西調査区と呼称）に28本（南北方向に1本、北東-南西軸方向に12本、北西-南東軸方向に15本）、計83本設定し、重機で耕作土（表土）を除去した後、人力で遺構と遺物の確認精査を行った。確認した遺構等は、縮尺100分の1で実測して記録した。

トレンチ番号については、同一の直線上に設定したものは同じ番号とし、畦等で分断した場合はアルファベット小文字を併用し5a・5b・5c・5dのように表記した。トレンチの総延長は2,610m、試掘面積は5,220㎡で、確認調査対象面積の9.0%である。

7 確認調査の結果**a 層序**

遺跡の基本層序は、各トレンチの土層観察から以下の通りに分層した。

- 第Ⅰ層 灰黄褐色土（10Y R4/2）耕作土（表土） 層厚5~20cm
- 第Ⅱ層 黄灰色土（2.5Y4/1）耕作土 層厚5~10cm
- 第Ⅲ層 黒褐色土（10Y R3/1） 層厚5~10cm
- 第Ⅳ層 黄褐色土（2.5Y5/3） 地山

第Ⅰ層と第Ⅱ層は耕作土で、層厚20~25cmである。耕作によって大部分が地山まで削平されており、第Ⅲ層は部分的にしか存在しない。第Ⅲ層上面から希に遺物が出土したが、遺物包含層は確認できなかった。地山面が遺構確認面である。東調査区の南西側（第9f、10f、11dトレンチ）、西調査区の北側と西側（第13a~16、21a、21b、22a、22bトレンチ）には暗渠が埋設されており、攪乱されていた。第6f・7eトレンチの畑地は、耕作土の層厚が20~25cmであり、地表から60cmまでの層では長芋と思われる植物痕が見られた。

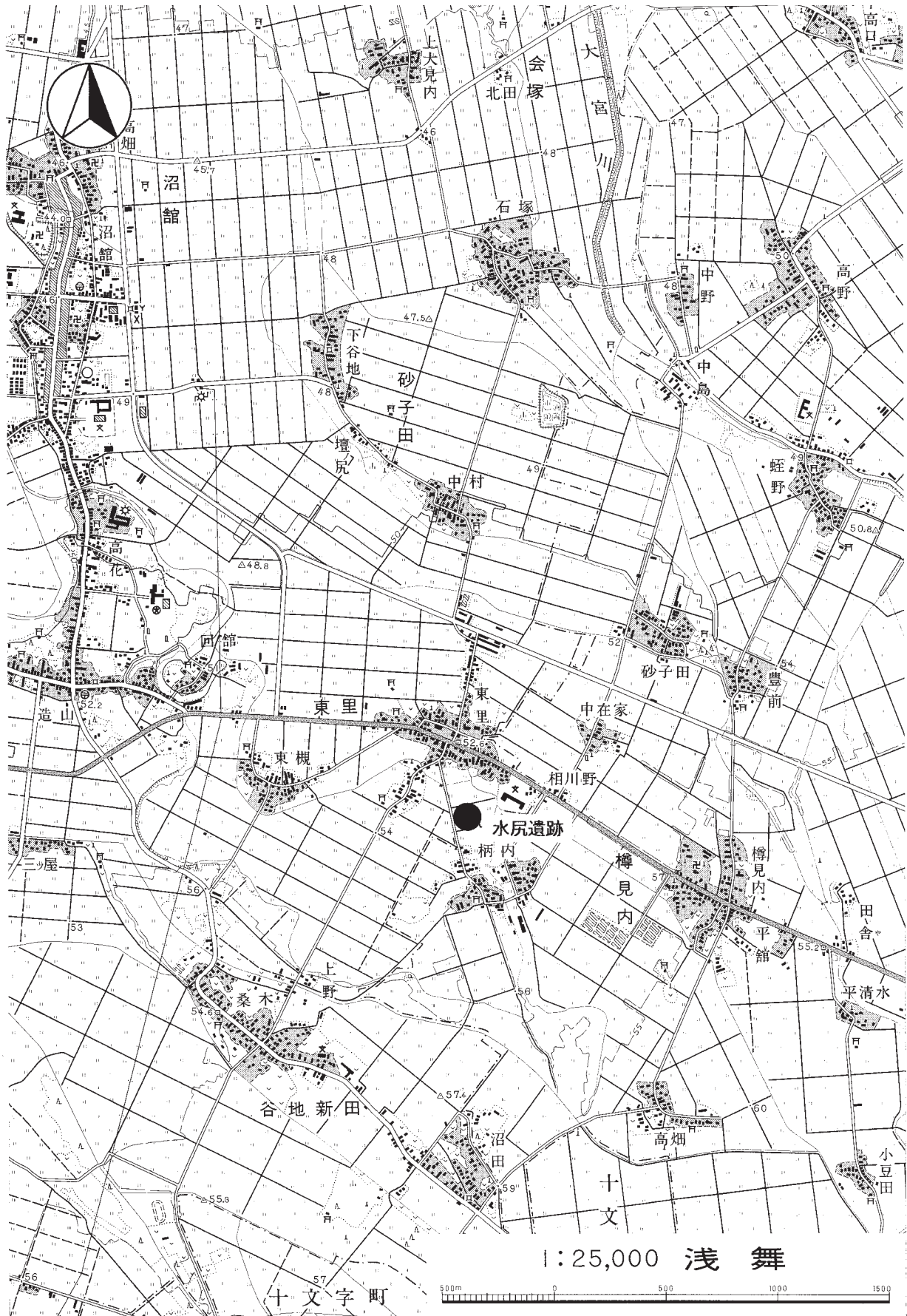
b 検出遺構と出土遺物

掘立柱建物跡1棟、土坑3基、柱穴様ピット18基、溝跡6条の計28遺構を検出した。遺物は、縄文時代の土器、平安時代の土師器・須恵器、中世以降の陶磁器などである。その出土量は、中コンテナ（54cm×34cm×10cm規格）で1箱分である。

第1bトレンチから検出した掘立柱建物跡は平安時代のもと考えられ、30cm程度の柱痕を確認した。第6aトレンチからは、縄文土器が埋設された土坑を検出し、保護室の指示により、図化記録作業・写真撮影を行い、遺物を取り上げた。また、第18から21dトレンチに続くと思われる縄文時代の溝跡は第27トレンチにおいては検出できなかったが、第31トレンチにおいて検出した。それ以外の遺構は、比較的新しいものと考えられる。

8 所見

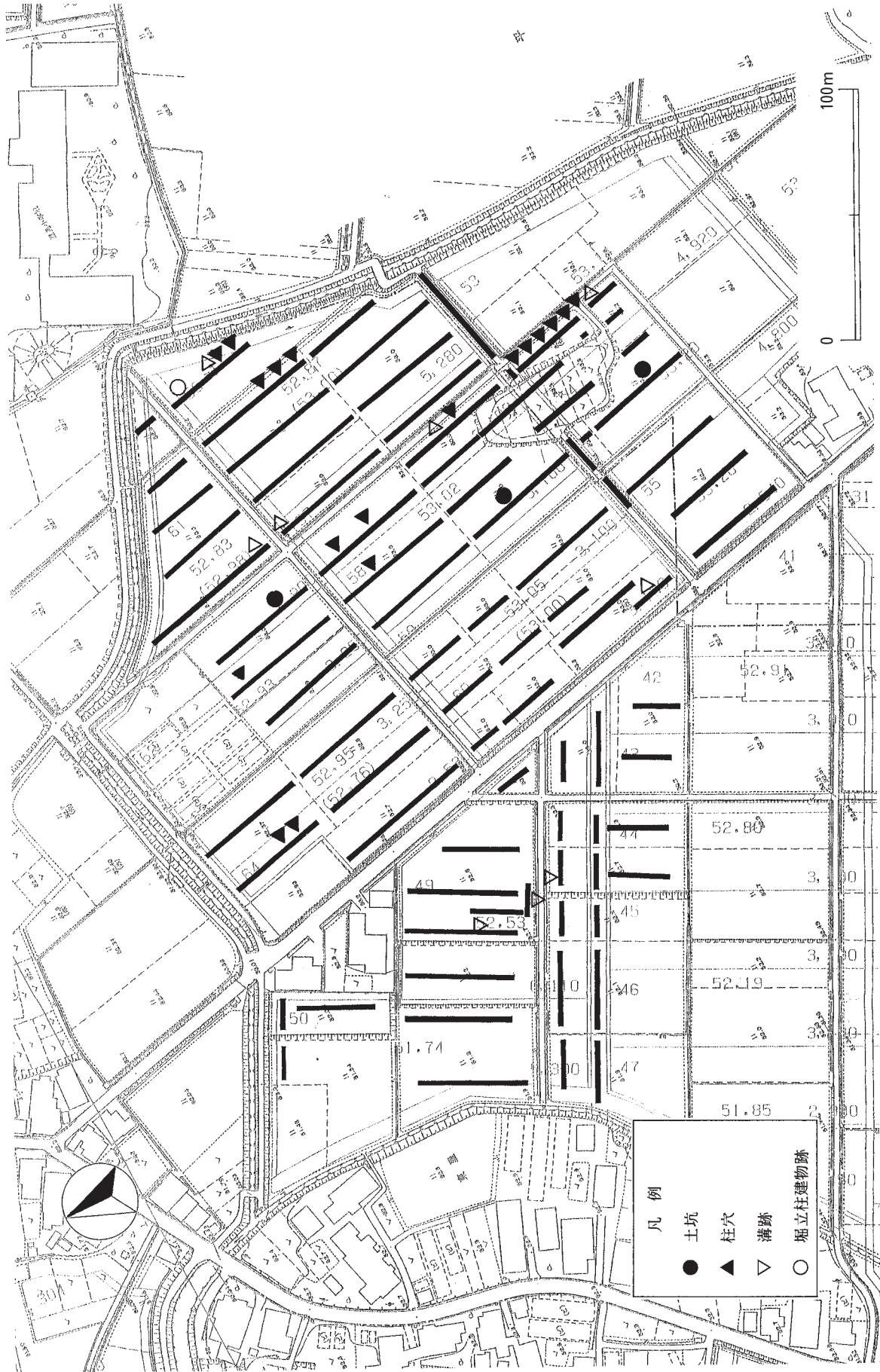
縄文時代と平安時代の複合遺跡と考えられるが、全体的に地山面まで削平され、遺構・遺物とも少ない。工事区域内の遺構が遺存する面積は、掘立柱建物跡が検出された部分が1,500㎡、縄文時代の溝跡が検出された部分が500㎡、計2,000㎡である。この取り扱いについては、今後協議が必要である。



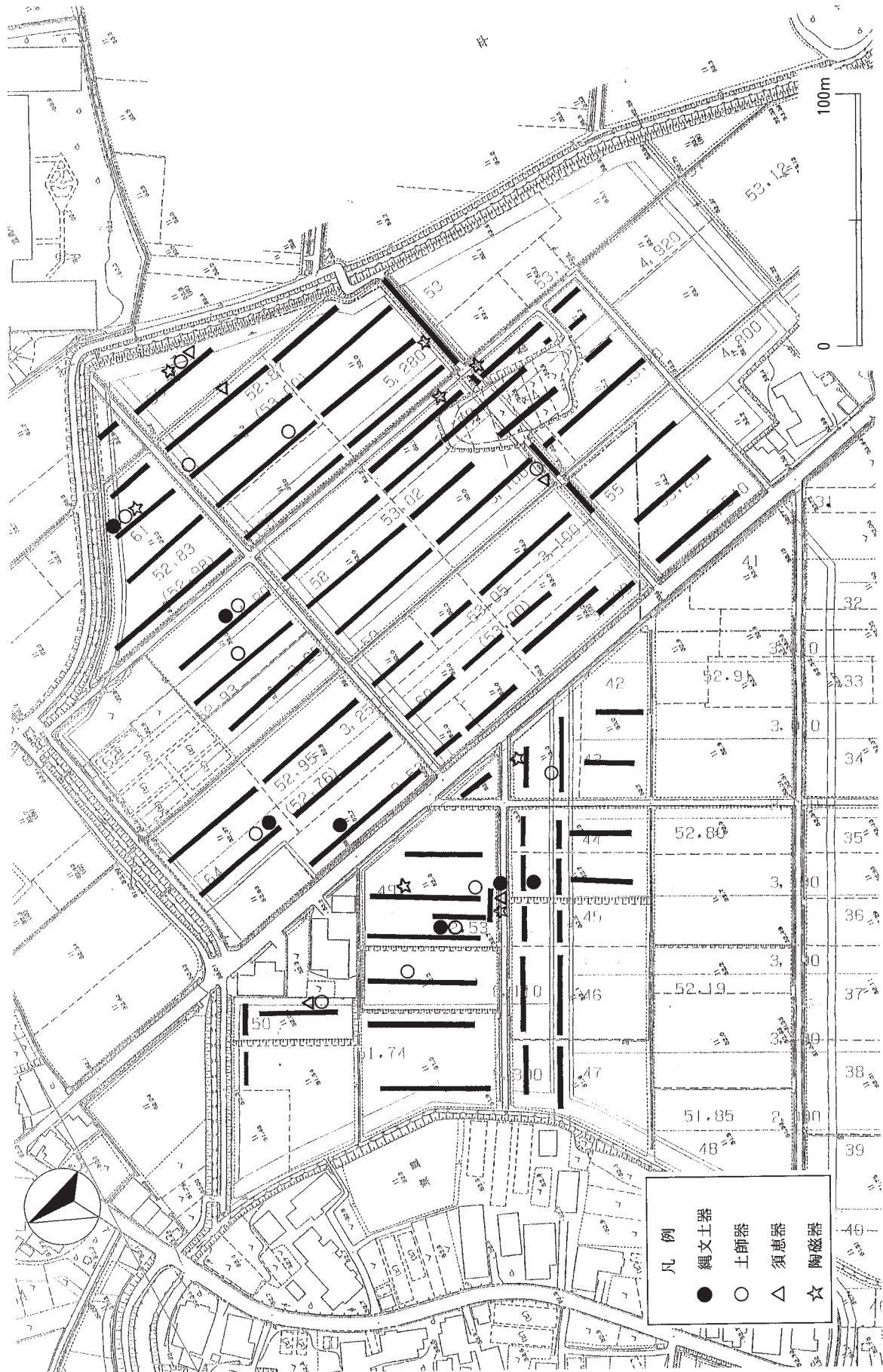
第97図 水尻遺跡位置図



第98図 水尻遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第99図 水尻遺跡確認調査結果図（遺構検出地点）



第100図 水尻遺跡確認調査結果図 (遺物出土地点)

水尻遺跡
調査区東側近景（西から）



水尻遺跡
第1bトレンチ
掘立柱建物跡検出状況
（南西から）



水尻遺跡
第8cトレンチ
精査状況（南から）



(6) 県営ほ場整備 土崎小荒川地区

① 払田柵跡（第124次調査）

- 1 遺跡所在地 仙北郡仙北町払田・千畑町本堂城回、（調査区）払田字念仏谷地17-1他
- 2 確認調査期間 平成15年11月25日～12月12日
- 3 確認調査対象面積 72,589㎡
- 4 工事区域内遺跡面積 72,589㎡
- 5 遺跡の立地と現況

a 立地

払田柵跡は、大曲市の東方約6km、横手盆地北側の仙北平野中央部に位置する。第三紀硬質泥岩からなる真山・長森の丘陵を中心として、北側を川口川・矢島川、南側を丸子川によって挟まれた沖積低地に立地する。昭和6年3月30日付け、秋田県初の国指定史跡。

b 現況

調査対象区は、払田柵跡南東部の沖積地にあたり、水田として現在も利用されている。当該地区での標高は34m前後である。

6 確認調査の方法

本確認調査は、担い手基盤整備事業（ほ場整備）に伴うものである。しかし史跡指定範囲内となるため、面工事としての現状変更は許可ならず、管理団体である仙北町が策定した『払田柵跡第2次保存管理計画』に基づく「公共公益事業における既存施設の改修」にあたる箇所のみが現状変更許可対象となった。その既存施設とは、道路・用水路・排水路である。調査にあたっては来年度も工務を行うことが決定しているため、水量の少ない排水路を選択のうえ、水路の幅（60cm前後）を越えない範囲内で坪掘りを実施した。結果的には12地点（A～L地点、面積約20㎡）の調査を行った。

7 確認調査の結果

a 層序

第Ⅰ層 表土・盛土層 暗褐色シルト質土（10Y R3/4） 層厚20～30cm

第Ⅱ層 水田耕作土層 暗褐色～黒褐色シルト質土（10Y R3/3～10Y R3/2） 層厚20～30cm

第Ⅲ層 湿地・河川由来の堆積層（いわゆる泥炭層を含む） 遺物包含層 層厚30～100cm

a 青砂（5B G5/1～4/1、青灰～暗青灰色）を主とし、泥炭質土（10Y R3/1、黒褐色）を少～中量含む

b 泥炭質土を主とし、青砂を少～中量含む

c 泥炭質土と青砂の混合土

d 砂礫（7.5G B4/1、暗緑灰色）を主とし、泥炭質土を少量含む

第Ⅳ層 地山漸移層 暗褐色砂質シルト土（10Y R3/3～3/4） 層厚10cm前後

第Ⅴ層 地山層

a 青砂（5B G5/1～4/1、青灰～暗青灰色）を主とし、礫を含まない

b 砂礫（7.5G Y4/1、暗緑灰色）を主とする

上記は、湿地・河川跡部分での基本土層となる。第Ⅲ層は調査地区により、a層のみであったり、a・b層が互層をなしている場合など様々である。また微高地では、第Ⅲ層が欠落し、第Ⅱ層の下が

IV層あるいはV層となる。

b 検出遺構と出土遺物

調査の結果、L地点で外柵の材木堀（柵木）、C地点で溝跡を検出した。またG・I・J地点を除く9地点では河川跡を示す湿地由来の堆積層（第Ⅲ層）を確認し、主にⅢb層中より木製品（曲物・椀等）・木製部材（自然木を含む）、土器（須恵器・土師器）、種子類が出土した。またボーリング探査により、従来まで未確認だった箇所における外柵・柵木を数ヶ所で発見した。なおL地点での柵木も新発見である。

8 所見

a 遺跡の種類

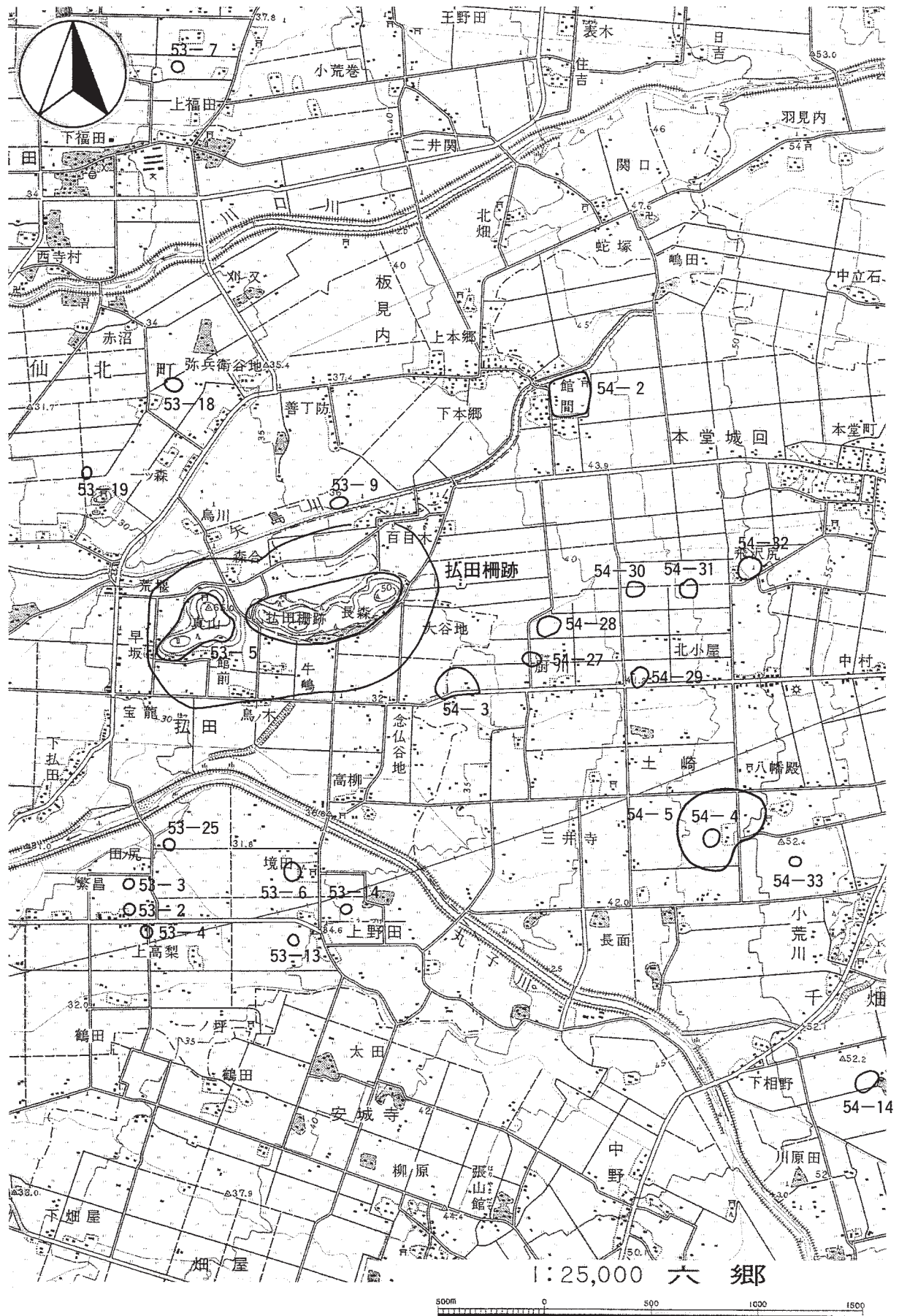
9～10世紀の古代城柵官衙跡であり、調査区域は河川・湿地を利用した祭祀域であった可能性が高い。

b 遺跡の範囲と工事区域

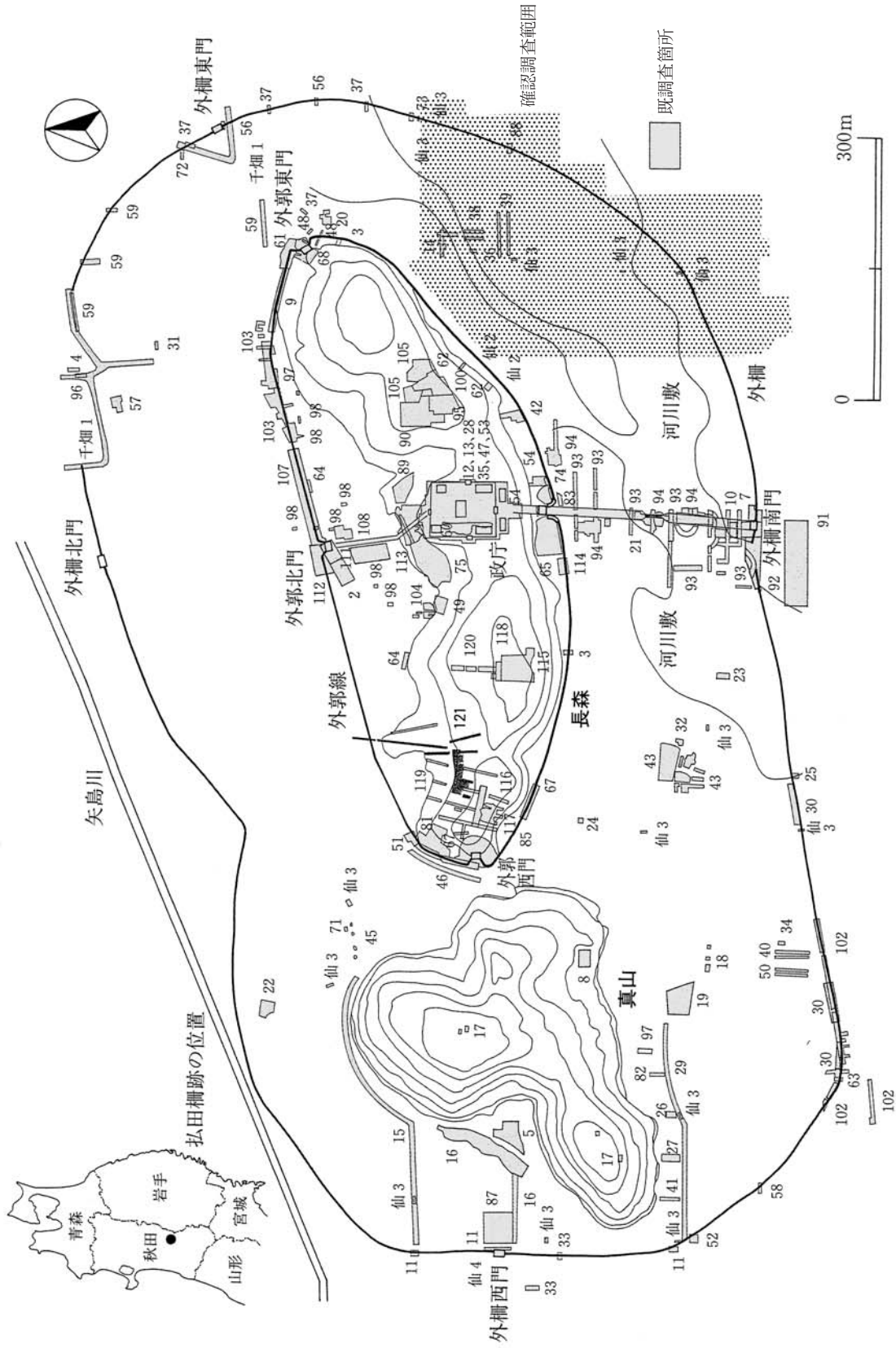
工事対象区の全てが遺跡（払田柵跡）の範囲と判断される。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

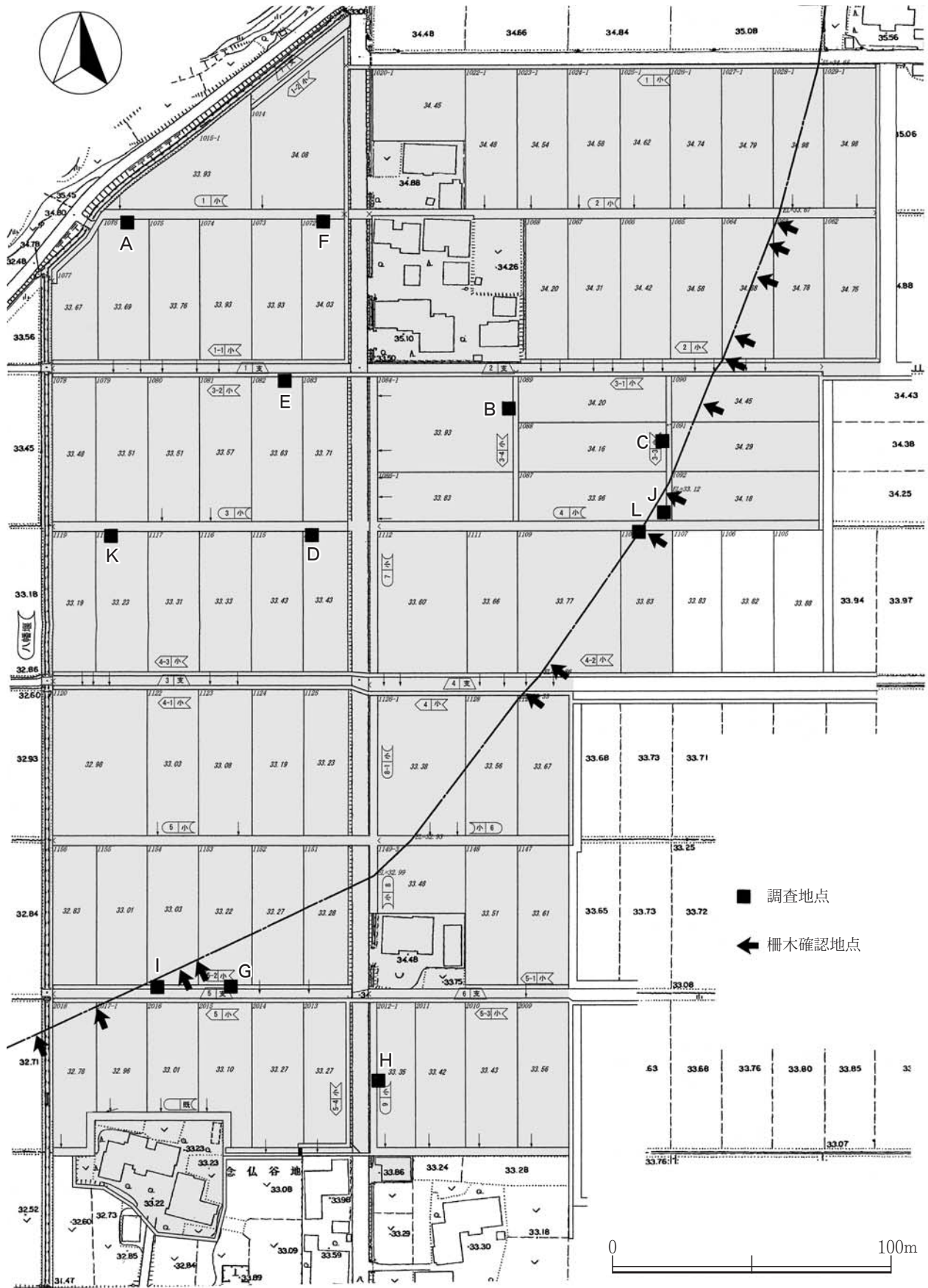
旧河川の流路や河川敷の検出と共に包含層からは、大量の遺物の出土が推測される。また河川跡に挟まれた微高地上では千畑町厨川谷地遺跡（第101図54-3）で確認したような祭祀に関係をもつ掘立柱建物跡、土坑等の検出が見込まれる。



第101図 弘田柵跡と周辺の古代・中世の遺跡



第102図 弘田柵跡調査実施位置図



第103図 払田柵跡確認調査結果図（調査地点及び柵木確認地点）

払田柵跡
調査区近景（南東から）
沖積地（調査区）から
長森丘陵を臨む



払田柵跡
A地点（南から）
土層堆積状況と曲物（左
下）・自然木（中央下部）
出土状況



払田柵跡
C地点（西から）
溝跡検出状況



秋田県文化財調査報告書第380集
遺跡詳細分布調査報告書

印刷・発行 平成16年3月

編 集 秋 田 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー
〒014-0802 仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 (0187) 69-3331
FAX (0187) 69-3330

発 行 秋 田 県 教 育 委 員 会
〒010-8580 秋田市山王3丁目1-1
電話 (018) 860-3193

印 刷 株 式 会 社 三 戸 印 刷 所

